

大学院における教育改革の 実態把握・分析等に関する調査研究 (概要)

令和6年3月
株式会社リベルタス・コンサルティング

■ 調査概要

1 目的

「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）」（平成31年1月中央教育審議会大学分科会）等に基づく大学院教育改革の実態の把握及び分析等を行う。

2 対象

本調査は、大学院を置く全ての大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学の計661大学）を対象とし、専攻単位で実施。

回答数は644大学（回収率97.4%）。

	対象数	回答数	回収率
国立大学	86	86	100.0%
公立大学	88	83	94.3%
私立大学	487	475	97.5%
計	661	644	97.4%

3 調査方法

eメールによる調査票の発送及び回答票回収

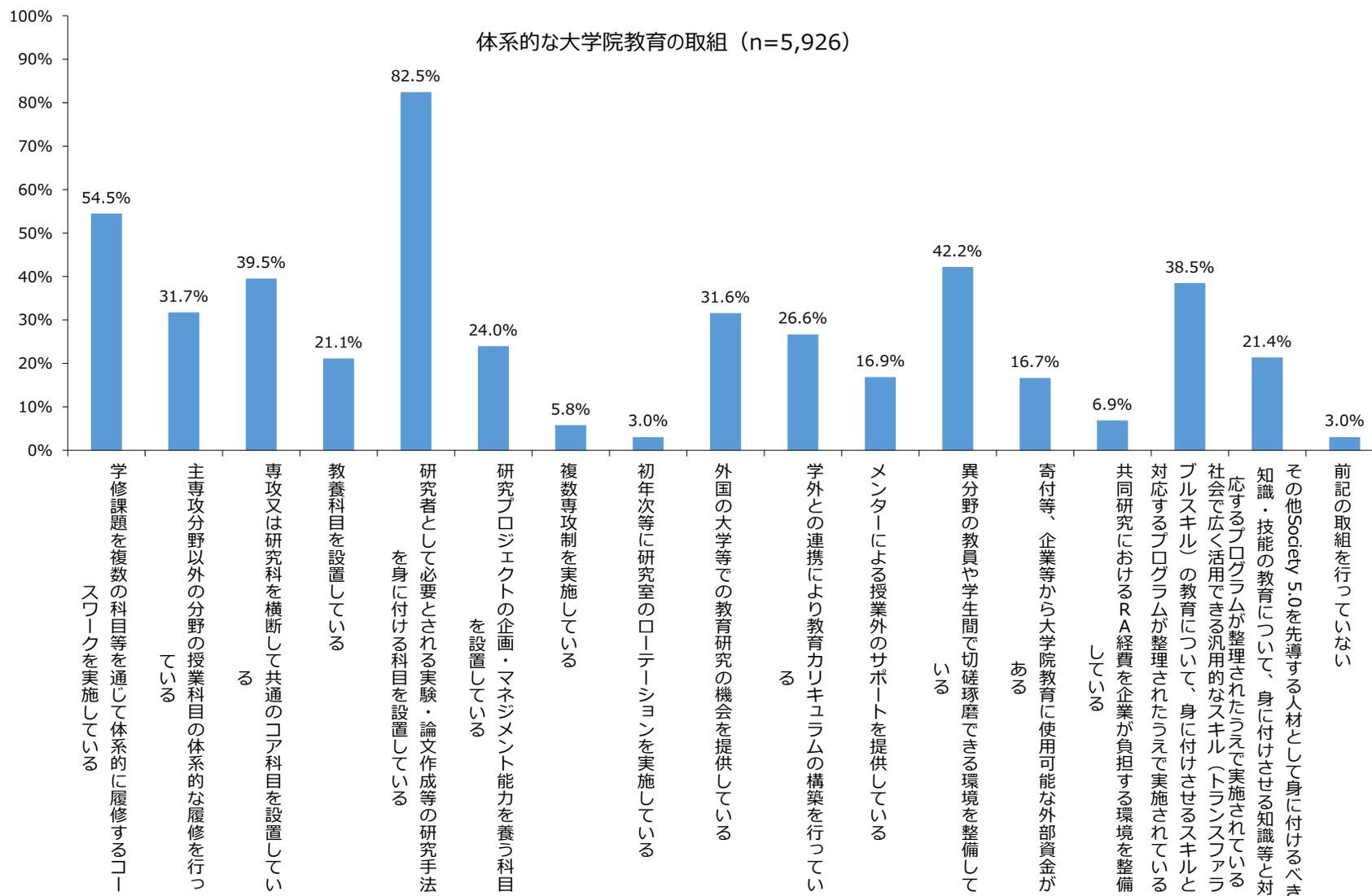
4 調査時期

令和5年11月13日～令和6年1月15日

大学院教育改革に関する取組状況

体系的な大学院教育の取組

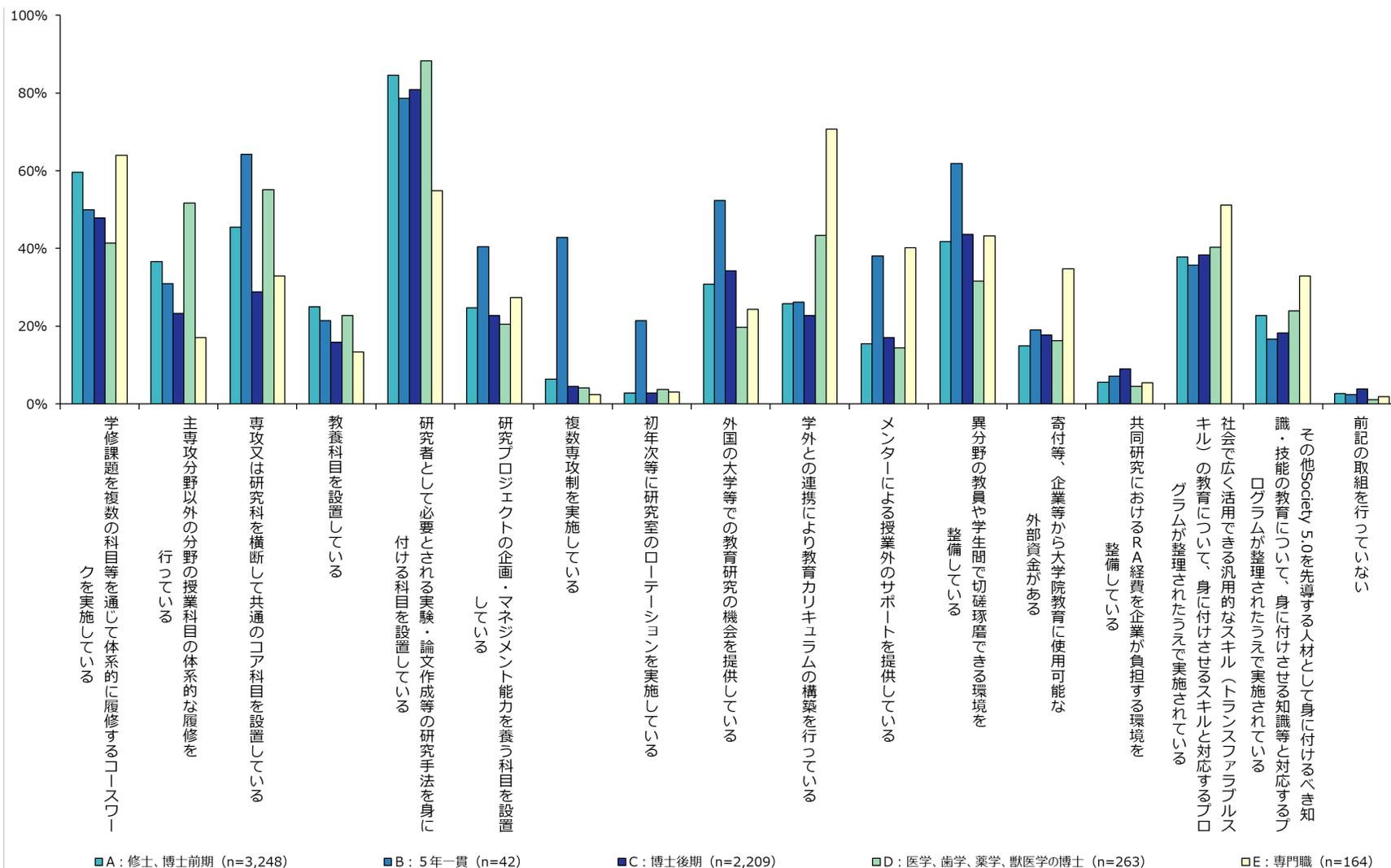
- 「研究者として必要とされる実験・論文作成等の研究手法を身に付ける科目を設置している」「学修課題を複数の科目等を通じて体系的に履修するコースワークを実施している」の実施割合が高い。



(注) 専攻・課程単位で調査

体系的な大学院教育の取組内容の推進「課程別」

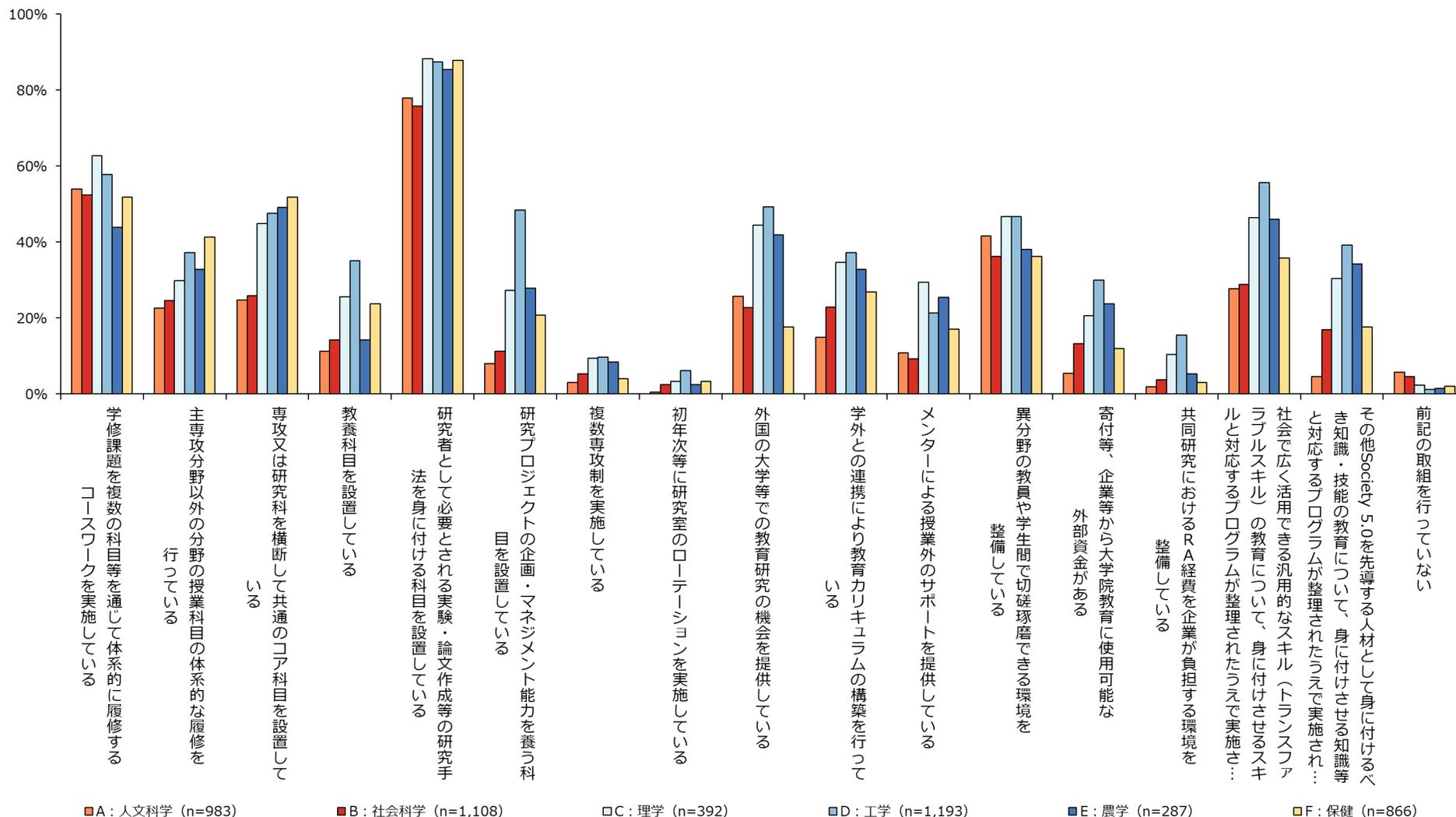
- 「5年一貫」では、「研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している」、「複数専攻制を実施している」、「初年次等に研究室のローテーションを実施している」、「外国の大学等での教育研究の機会を提供している」、「異分野の教員や学生間で切磋琢磨できる環境を整備している」の割合が他の課程と比較して高い。



(注) 専攻・課程単位で調査

体系的な大学院教育の取組内容の推進「分野別」

- 「工学」において、「研究プロジェクトの企画・マネジメント能力を養う科目を設置している」の割合が他分野と比較して高い。
- 「人文科学」「社会科学」では、取組を実施している割合が他分野と比較して低い傾向にある。

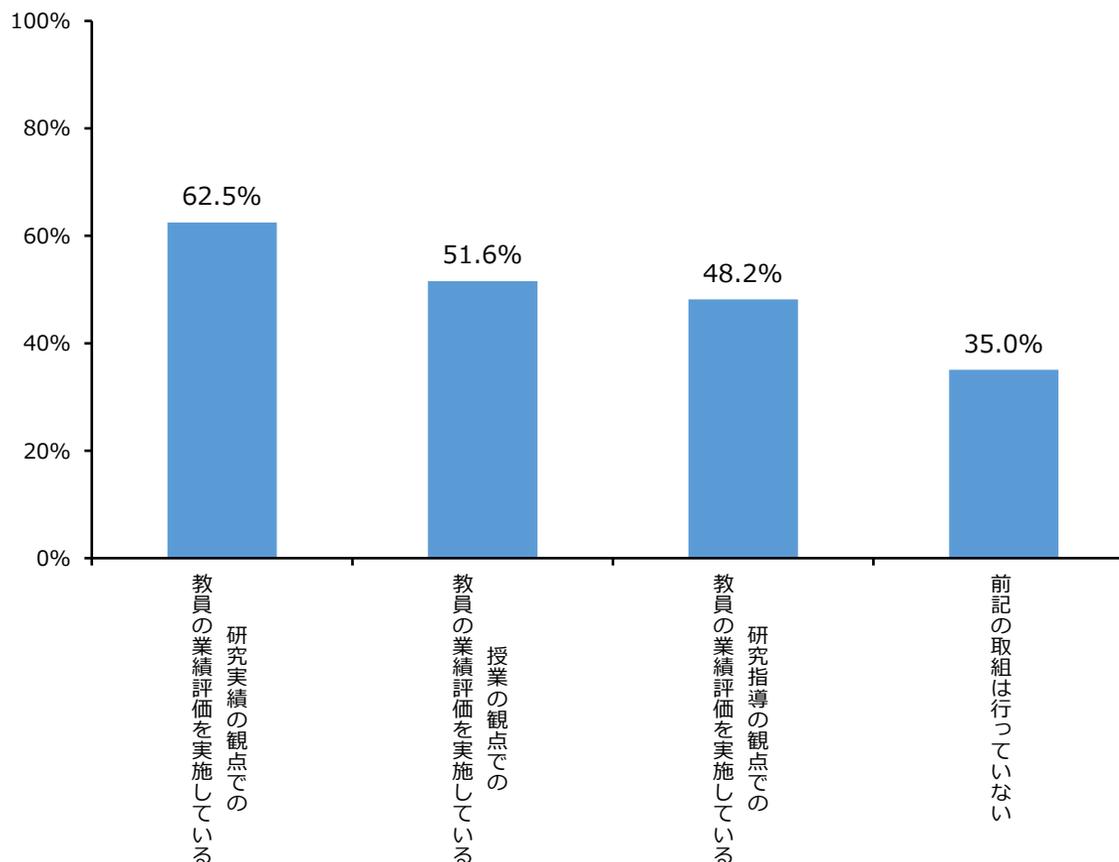


(注) 専攻・課程単位で調査

■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（教員の業績評価）

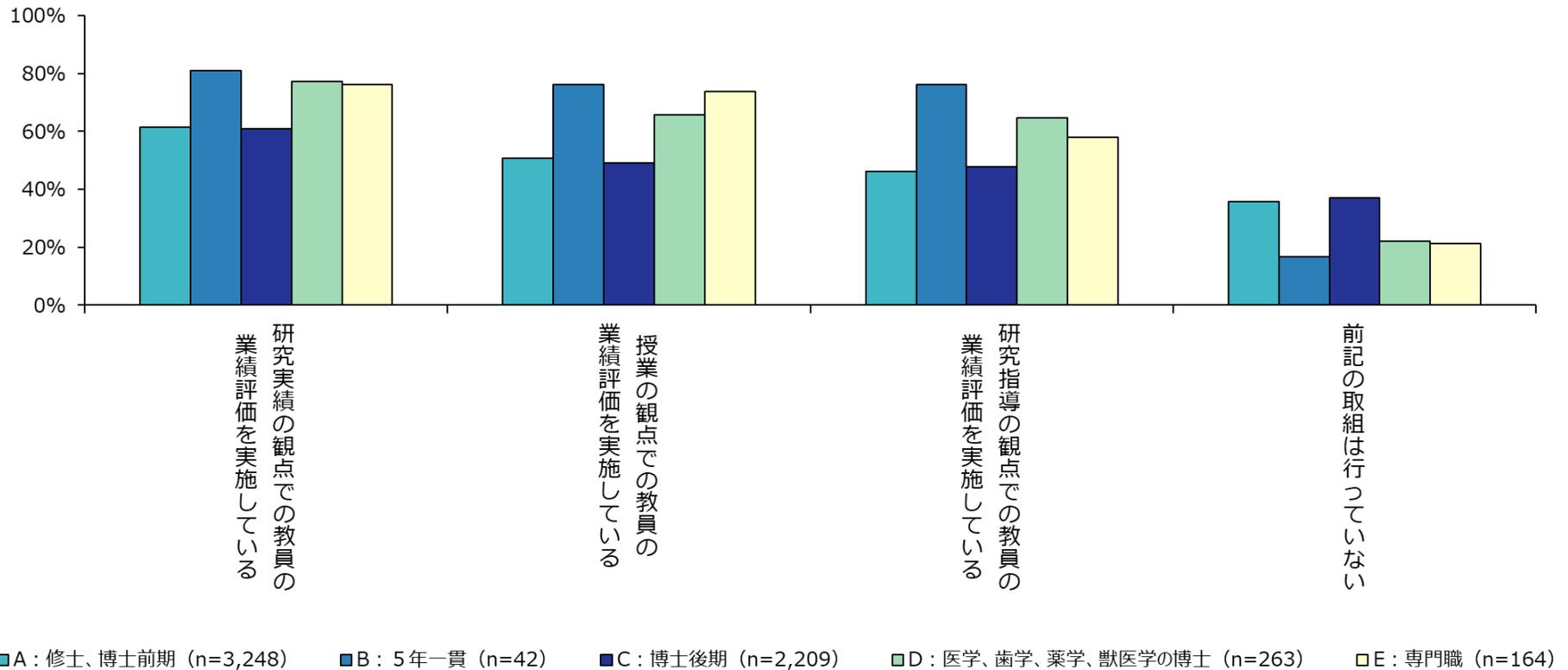
- 「研究実績の観点での教員の業績評価を実施している」の割合が62.5%と最も高く、「授業の観点での教員の業績評価を実施している」「研究指導の観点での教員の業績評価を実施している」の順となっている。

組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組
(教育の業績評価) (n=5,926)



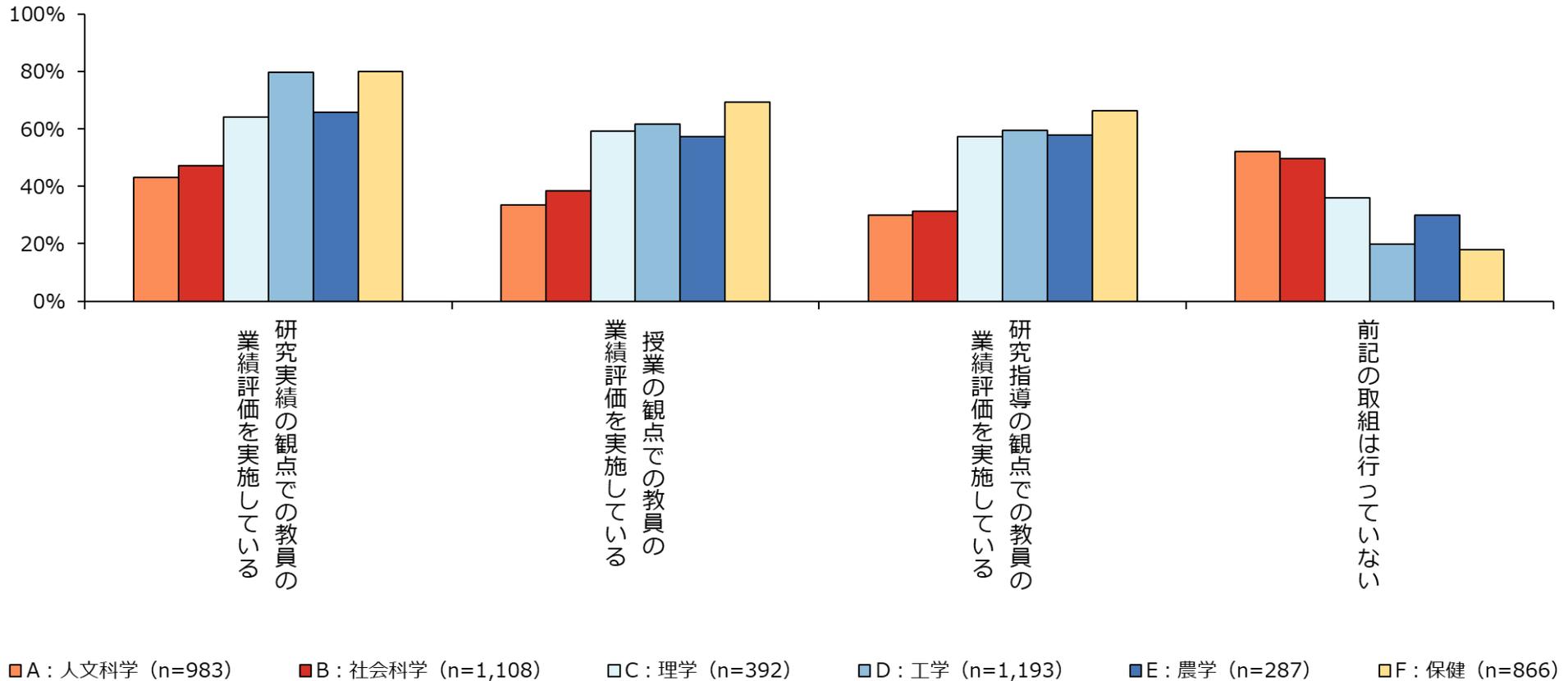
■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（教員の業績評価）「課程別」

- 「修士、博士前期」「博士後期」において、各取組の実施割合が他の課程と比較してやや低い。



■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（教員の業績評価）「分野別」

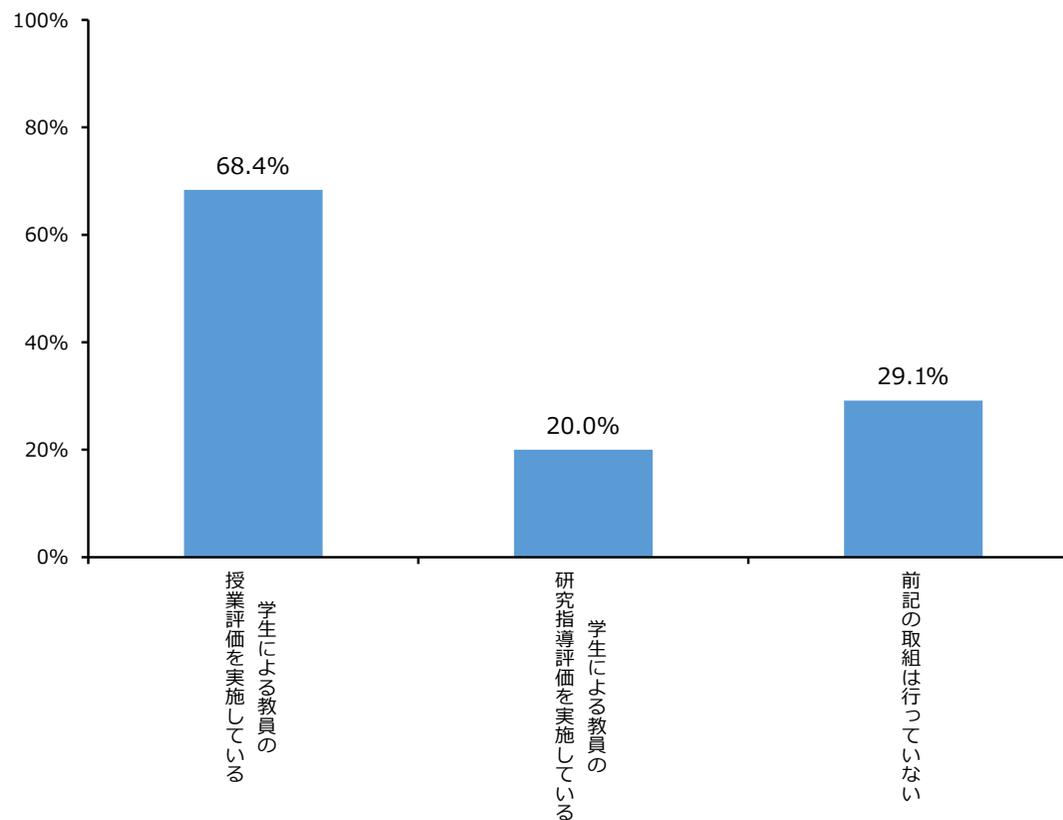
- 「理学」「工学」「農学」「保健」において、「研究実績の観点での教員の業績評価を実施している」の割合が最も高い。
- 「人文科学」「社会科学」においては、約5割が教員の業績評価に関する取組を行っていない。



■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（学生による教員の評価）

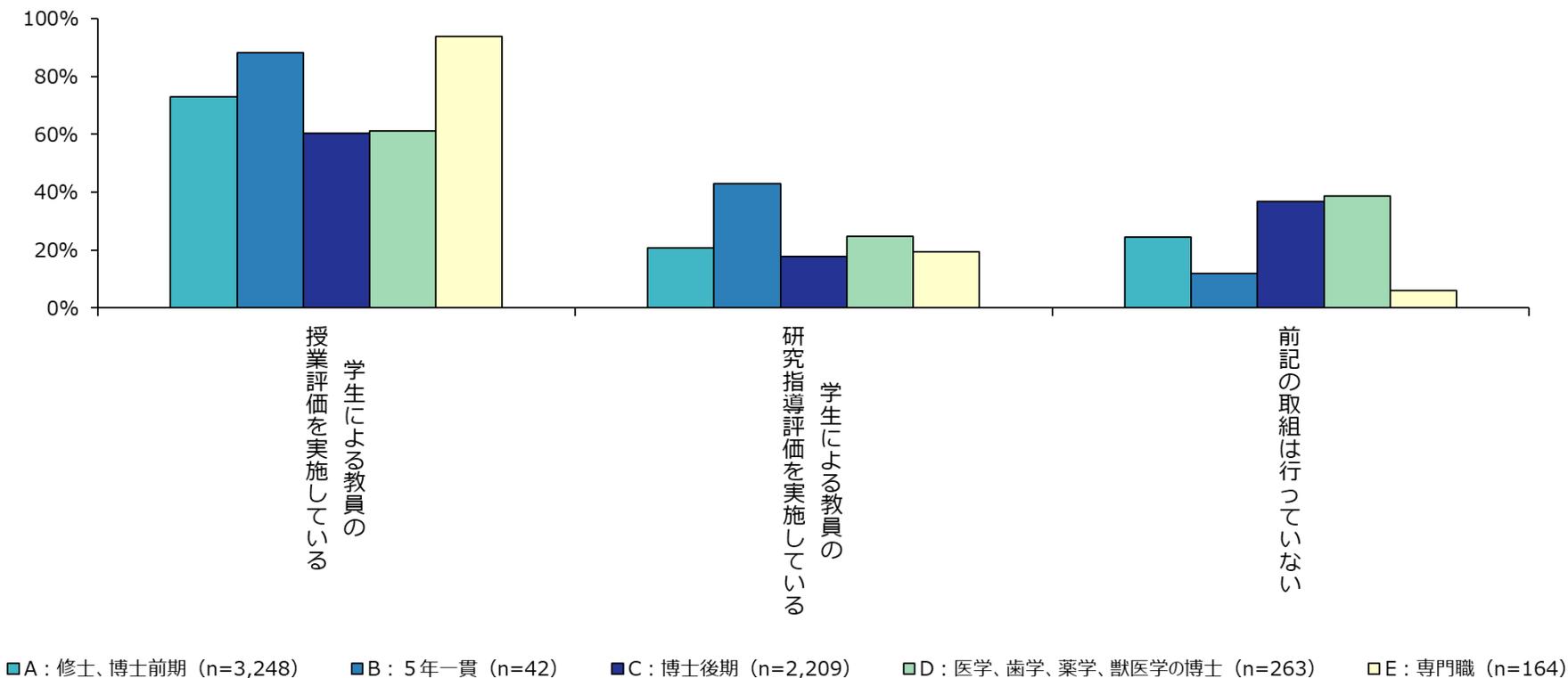
- 「学生による教員の授業評価を実施している」が68.4%、「学生による教員の研究指導評価を実施している」が20.0%であった。

組織的な教育・研究指導体制を確立するための取組
(学生による教育の評価) (n=5,926)



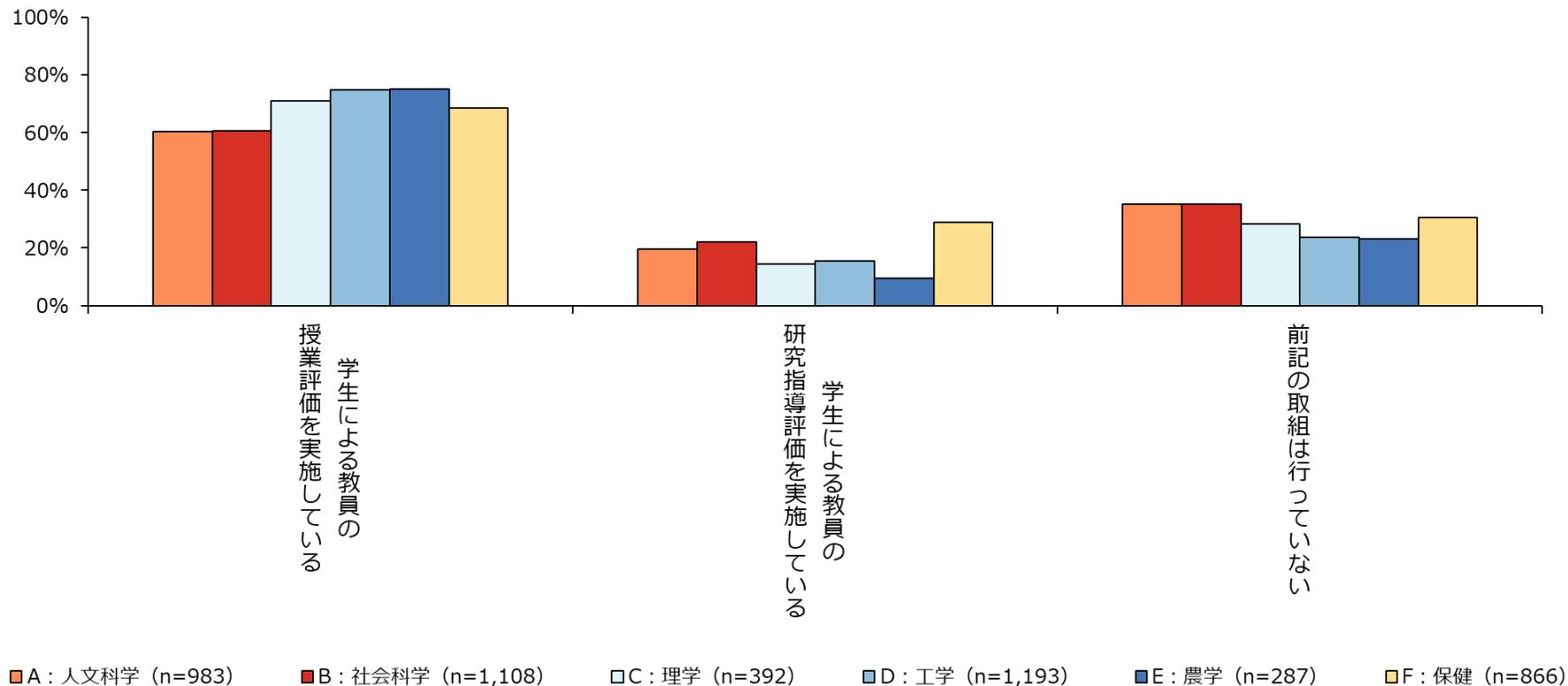
■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（学生による教員の評価）「課程別」

- 「5年一貫」では、「学生による教員の研究指導評価を実施している」の割合が他の課程よりも高い。



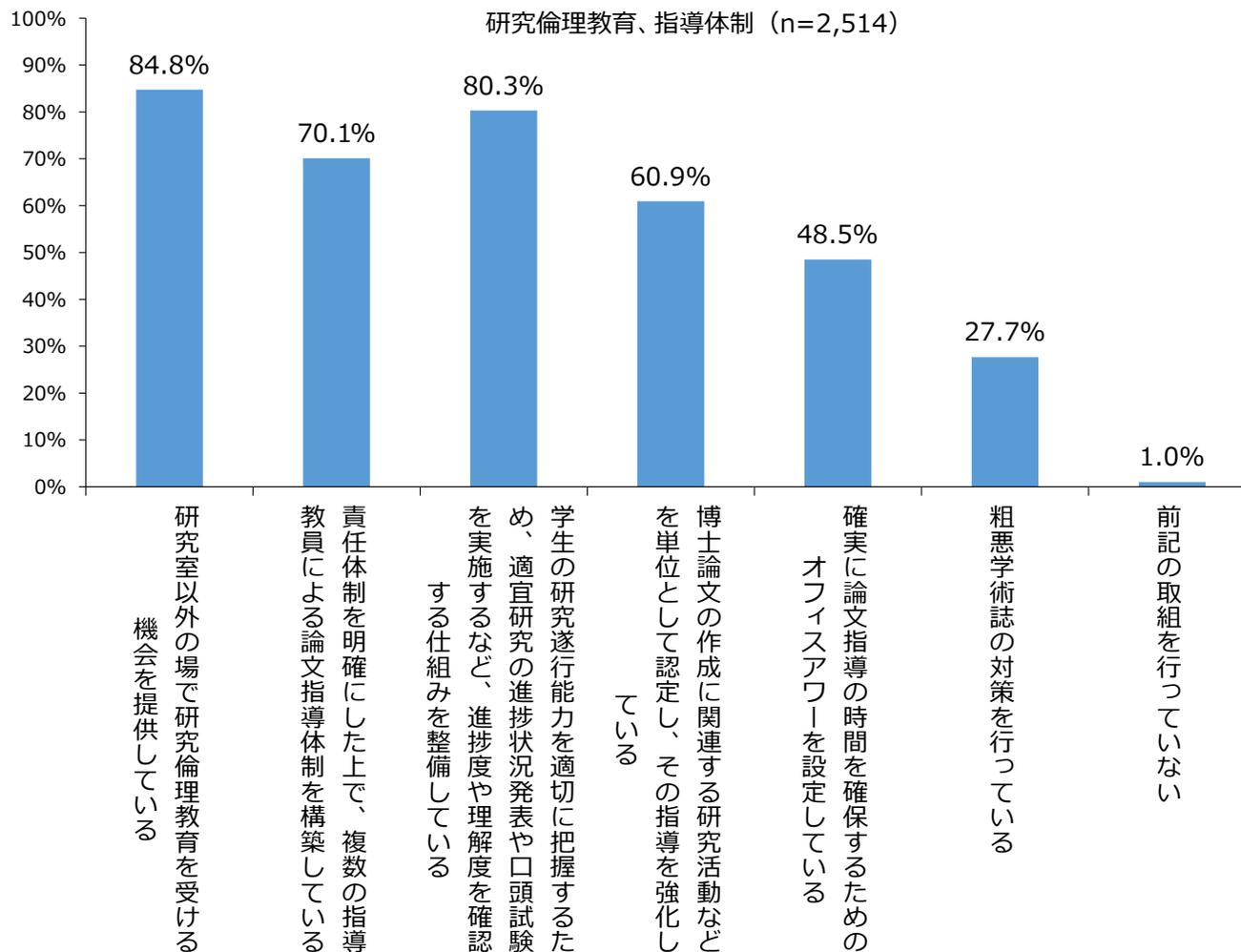
■ 組織的な教育・研究指導体制の確立（学生による教員の評価）「分野別」

- 「保健」において、「学生による教員の研究指導評価を実施している」が他分野と比較して高くなっている。



■ 研究倫理教育の実施と博士論文の指導・審査体制の改善

- 「研究室以外の場で研究倫理教育を受ける機会を提供している」「学生の研究遂行能力を適切に把握するため、適宜研究の進捗状況発表や口頭試験を実施するなど、進捗度や理解度を確認する仕組みを整備している」「責任体制を明確にした上で、複数の指導教員による論文指導体制を構築している」「博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している」の実施割合が6割を超えている。

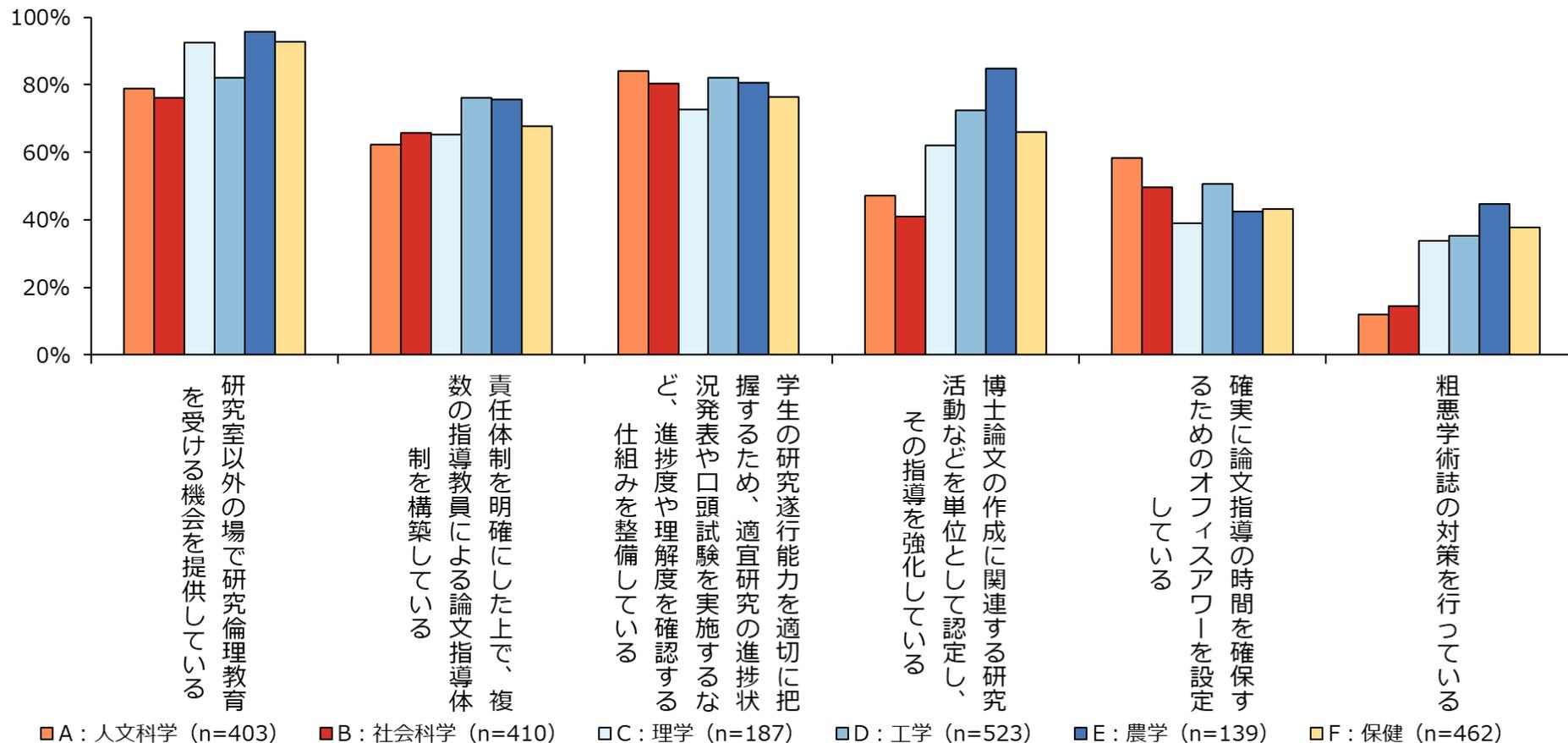


(注) 専攻・課程単位で調査

※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

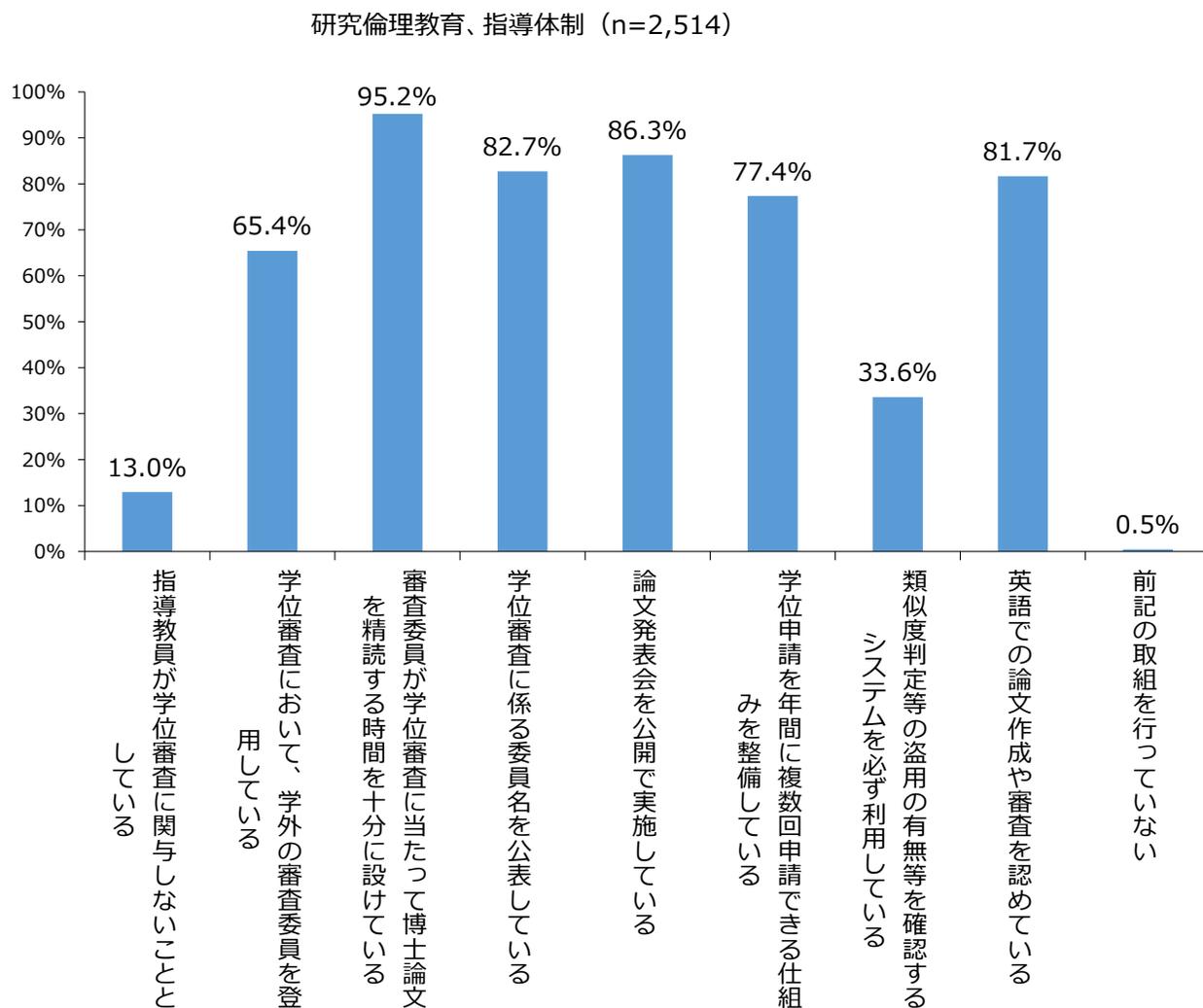
■ 研究倫理教育の実施と博士論文の指導・審査体制の改善「分野別」

- 「人文科学」「社会科学」において、「博士論文の作成に関連する研究活動などを単位として認定し、その指導を強化している」、「粗悪学術誌の対策を行っている」の割合が他分野と比較して低い。



■ 博士論文の審査体制に関する取組

- 「審査委員が学位審査に当たって博士論文を精読する時間を十分に設けている」の割合が95.2%と最も高い。
- 「類似度判定等の盗用の有無等を確認するシステムを必ず利用している」「指導教員が学位審査に関与しないこととしている」の割合は低い。

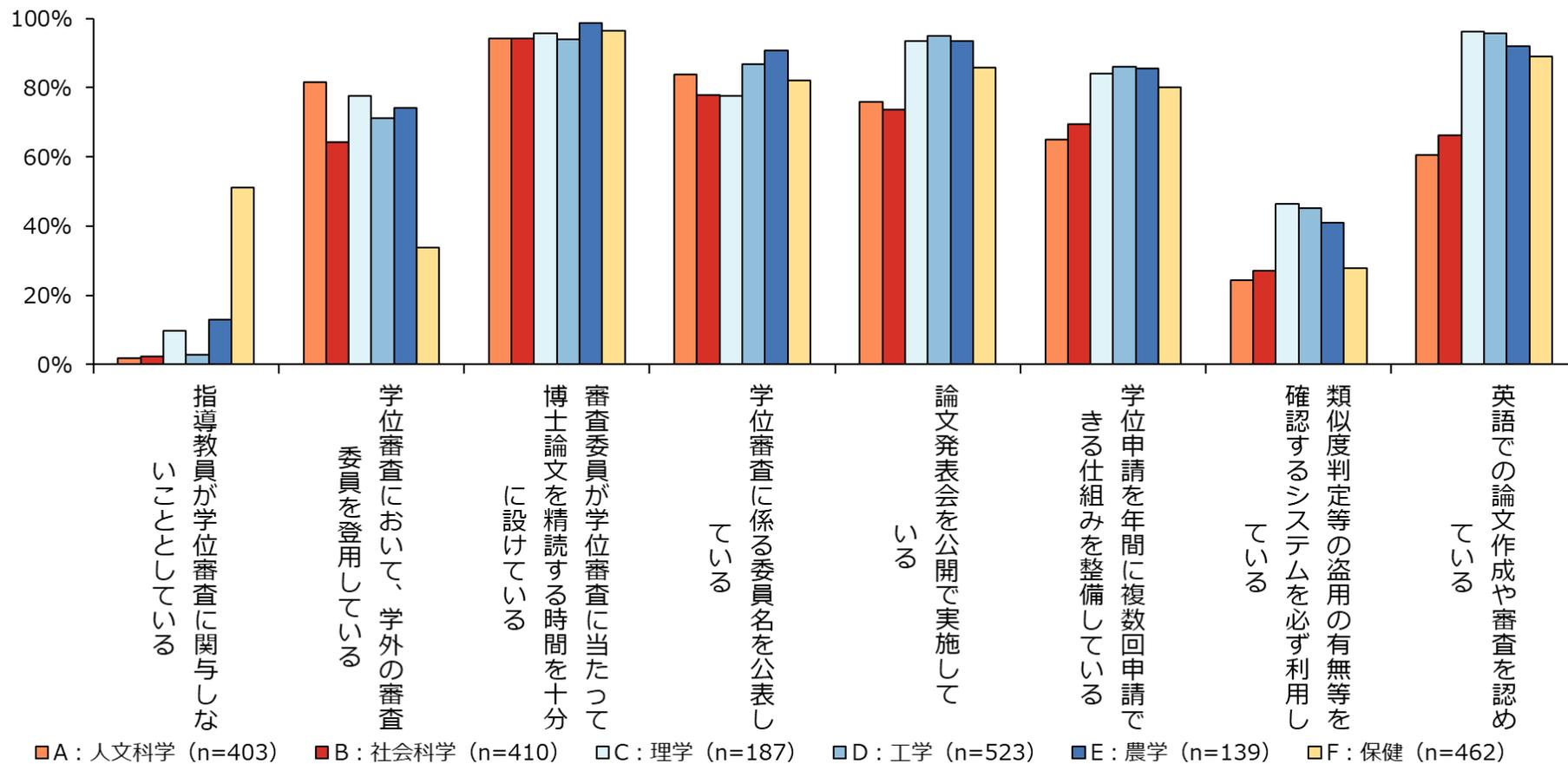


(注) 専攻・課程単位で調査

※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

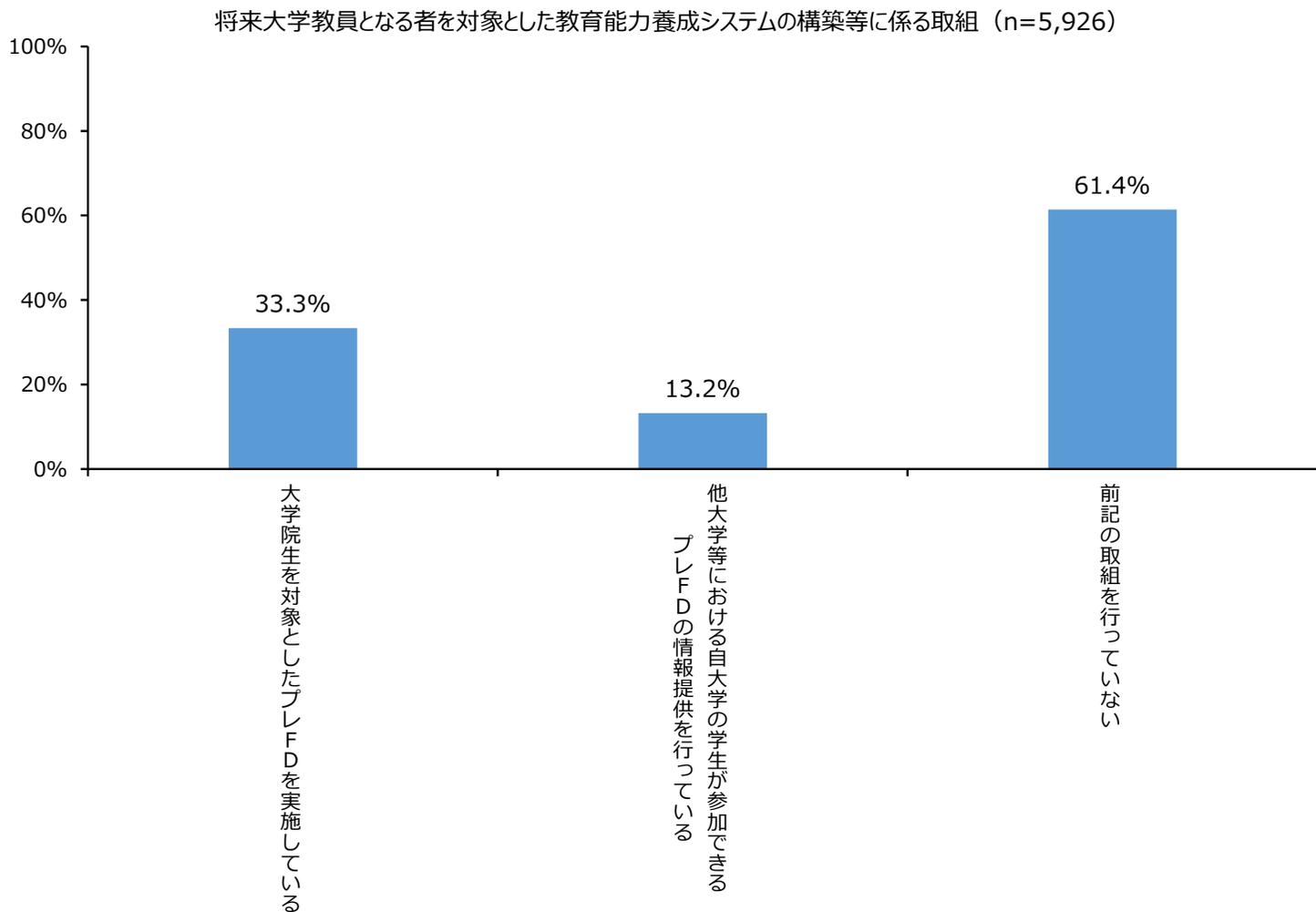
■ 博士論文の審査体制に関する取組「分野別」

- 「保健」において、「指導教員が学位審査に関与しないこととしている」の割合が51.1%と他分野と比較して高い。
- 「人文科学」「社会科学」においては、「論文発表会を公開で実施している」「学位申請を年間に複数回申請できる仕組みを整備している」「英語での論文作成や審査を認めている」の割合が他分野と比較して低い。



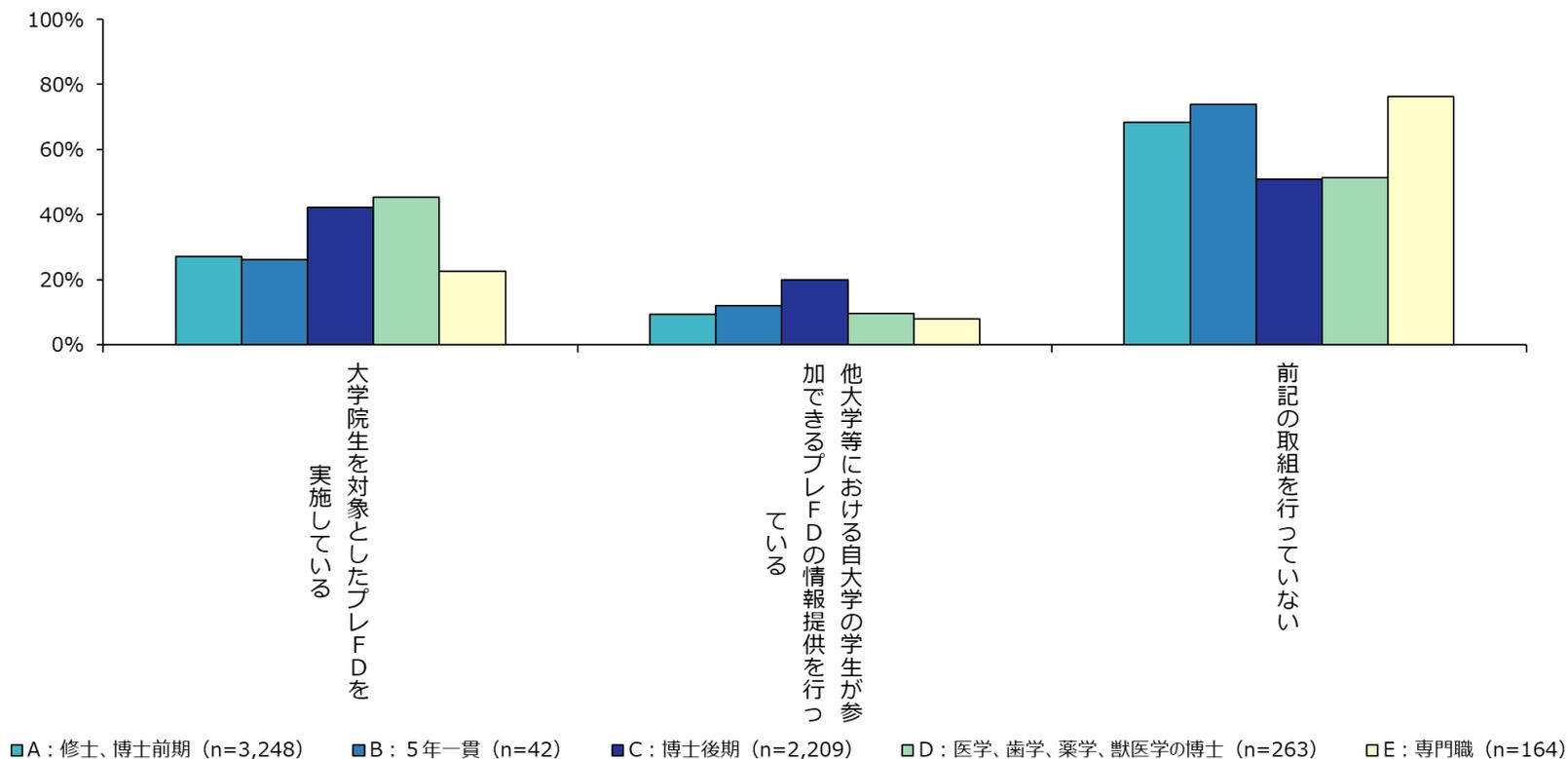
■ 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築

- 「大学院生を対象としたプレFDを実施している」が33.3%、「他大学等における自大学の学生が参加できるプレFDの情報提供を行っている」が13.2%となっている。



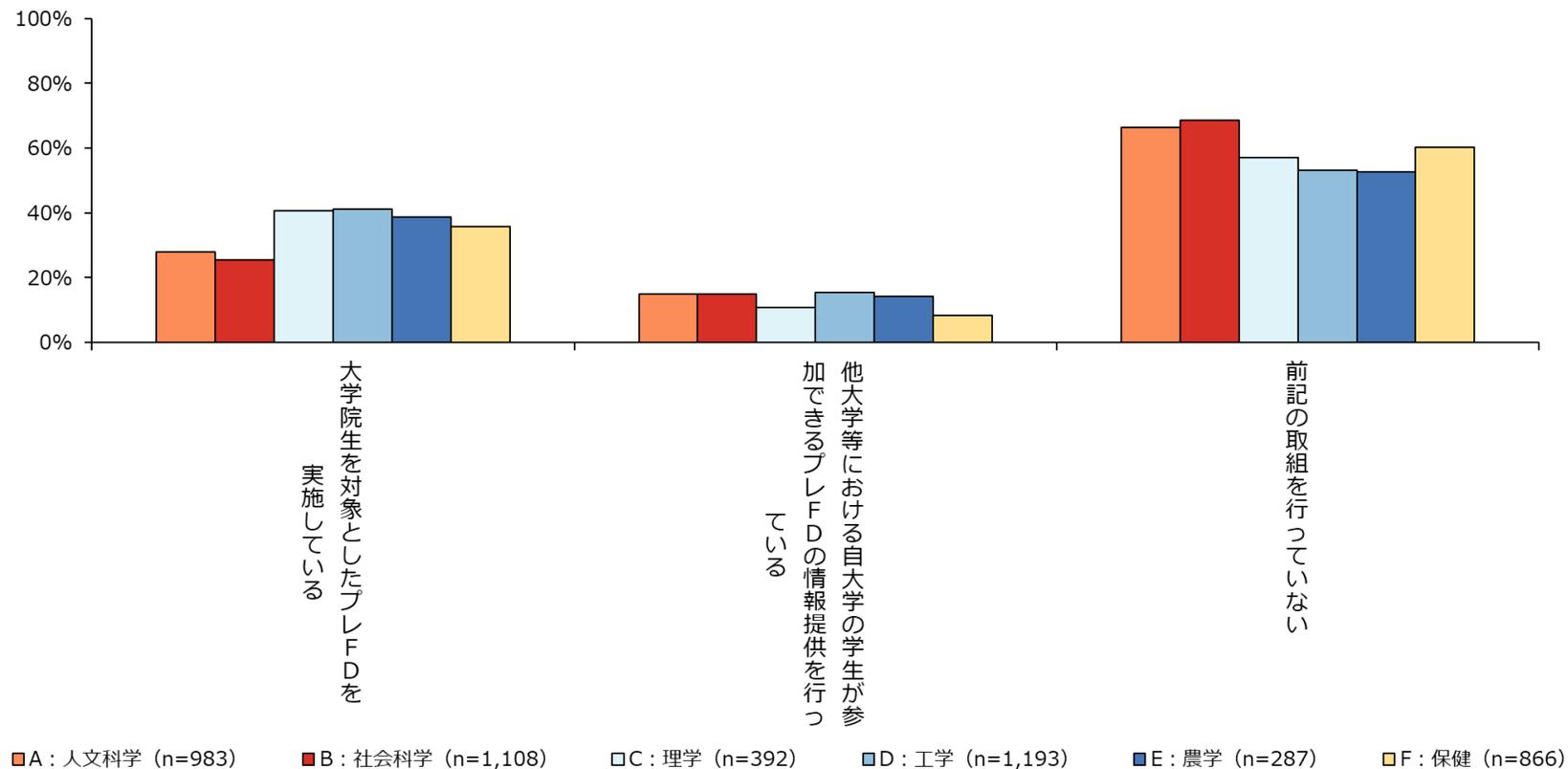
■ 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築「分野別」

- 「博士後期」、「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の割合が他の課程と比較して高い。



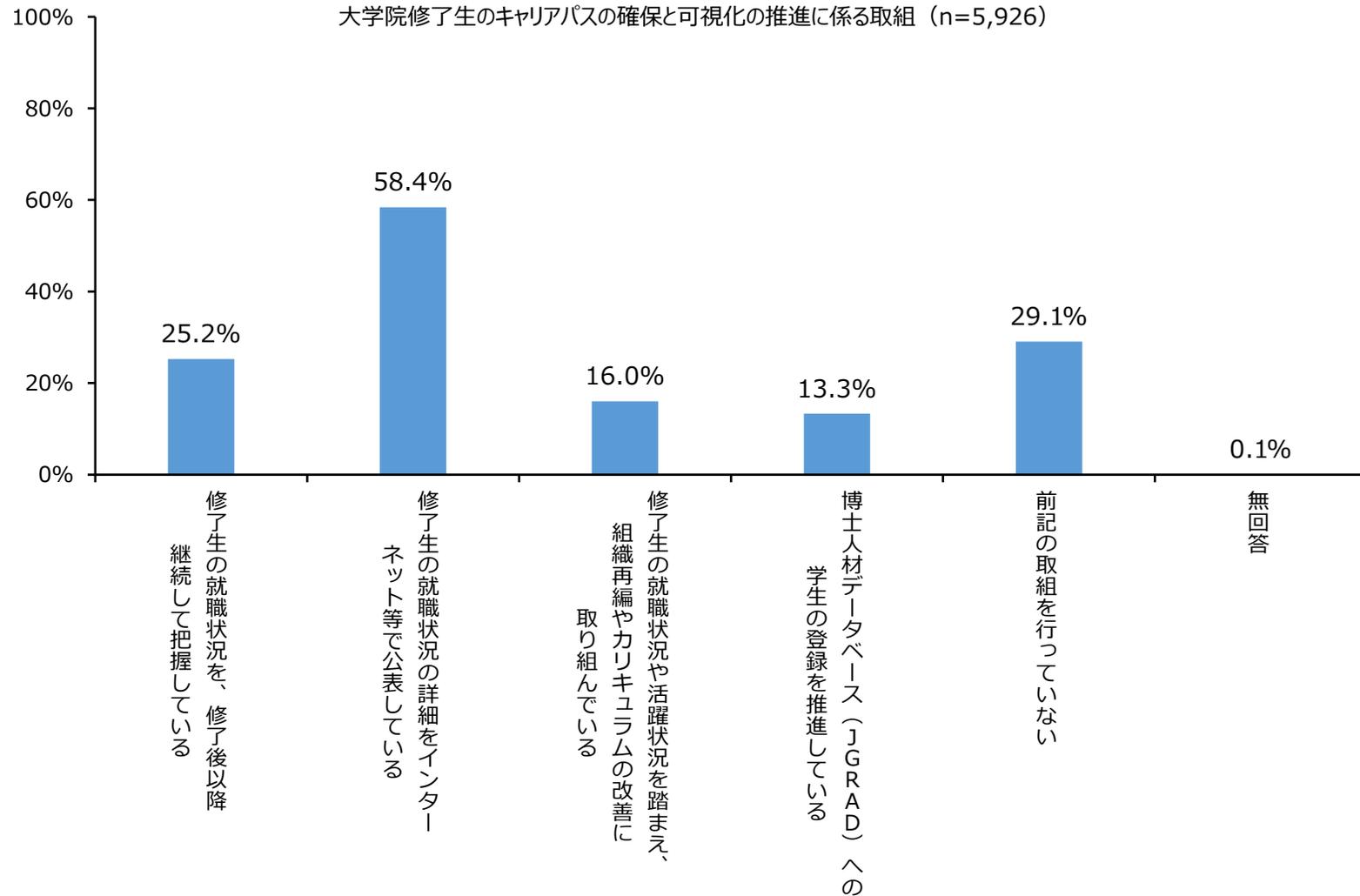
■ 将来大学教員となる者を対象とした教育能力養成システムの構築「分野別」

- 「人文科学」「社会科学」において、「大学院生を対象としたプレFDを実施している」の割合が他分野と比較して低い。



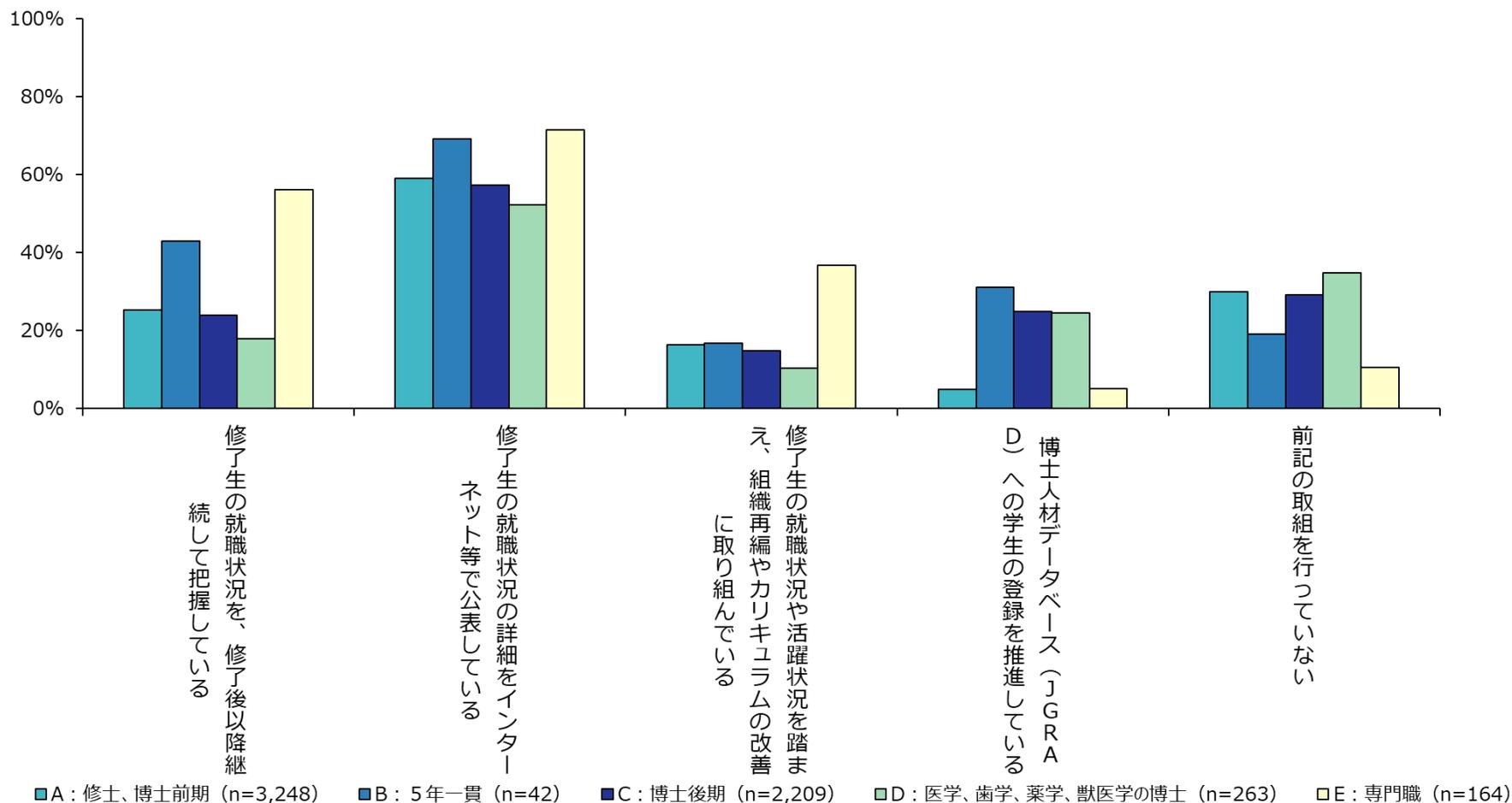
■ 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進

- 「修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している」の実施割合が58.4%と最も高い。



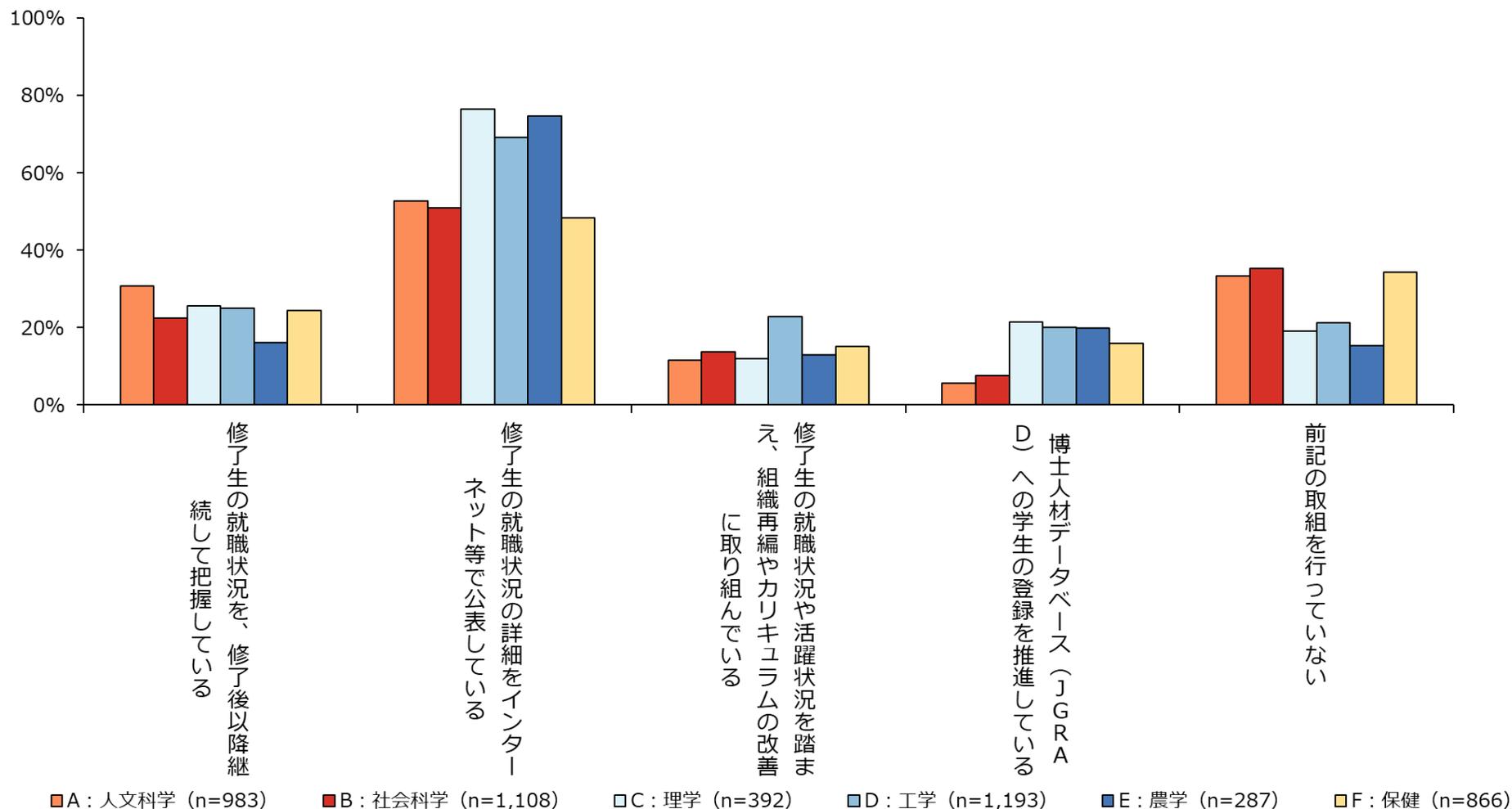
■ 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進「課程別」

- 「5年一貫」「専門職」において、「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している」の割合が他の課程と比較して高い。
- 「専門職」では、「修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラムの改善に取り組んでいる」の割合が高い。



■ 大学院修了生のキャリアパスの確保と可視化の推進「分野別」

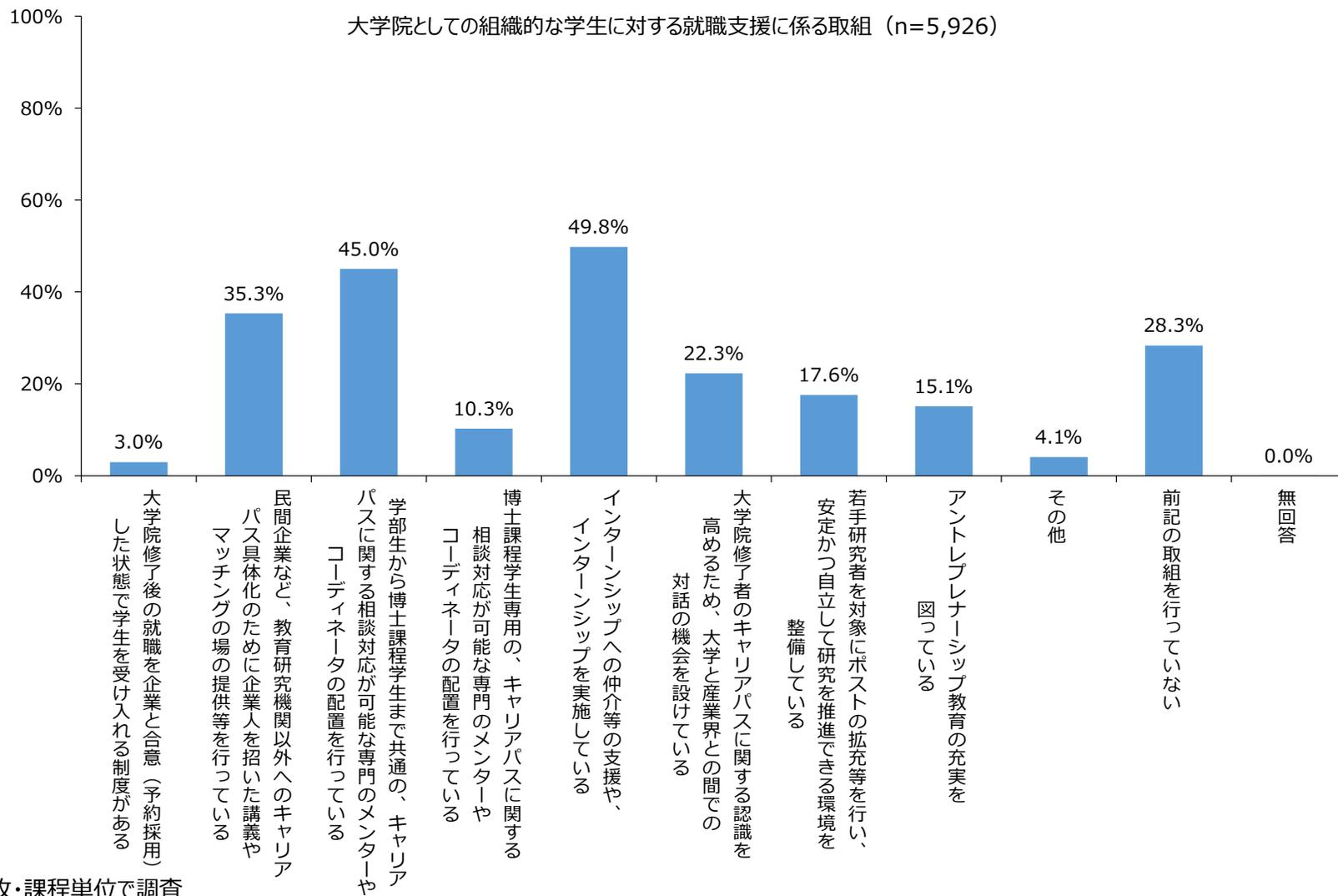
- 「理学」「工学」「農学」において、「修了生の就職状況の詳細をインターネット等で公表している」の割合が他分野と比較して高い。
- 「人文科学」「社会科学」「保健」は、「前記の取組を行っていない」の割合が他分野と比較して高い。



(注) 専攻・課程単位で調査

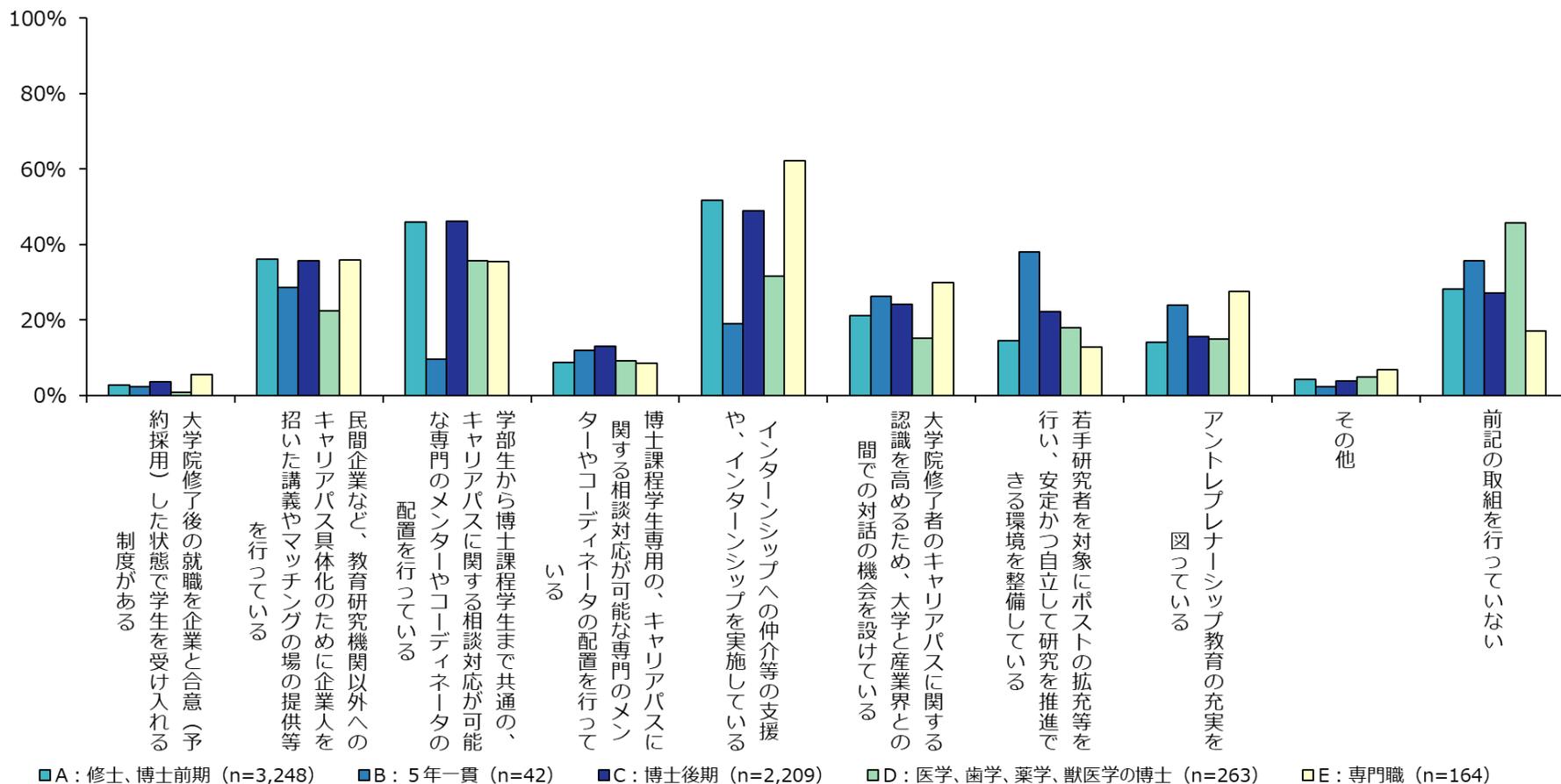
■ 大学院としての組織的な学生に対する就職支援

- 「インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している」「学部生から博士課程学生まで共通の、キャリアパスに関する相談対応が可能な専門のメンターやコーディネータの配置を行っている」の実施割合が4割を超えている。



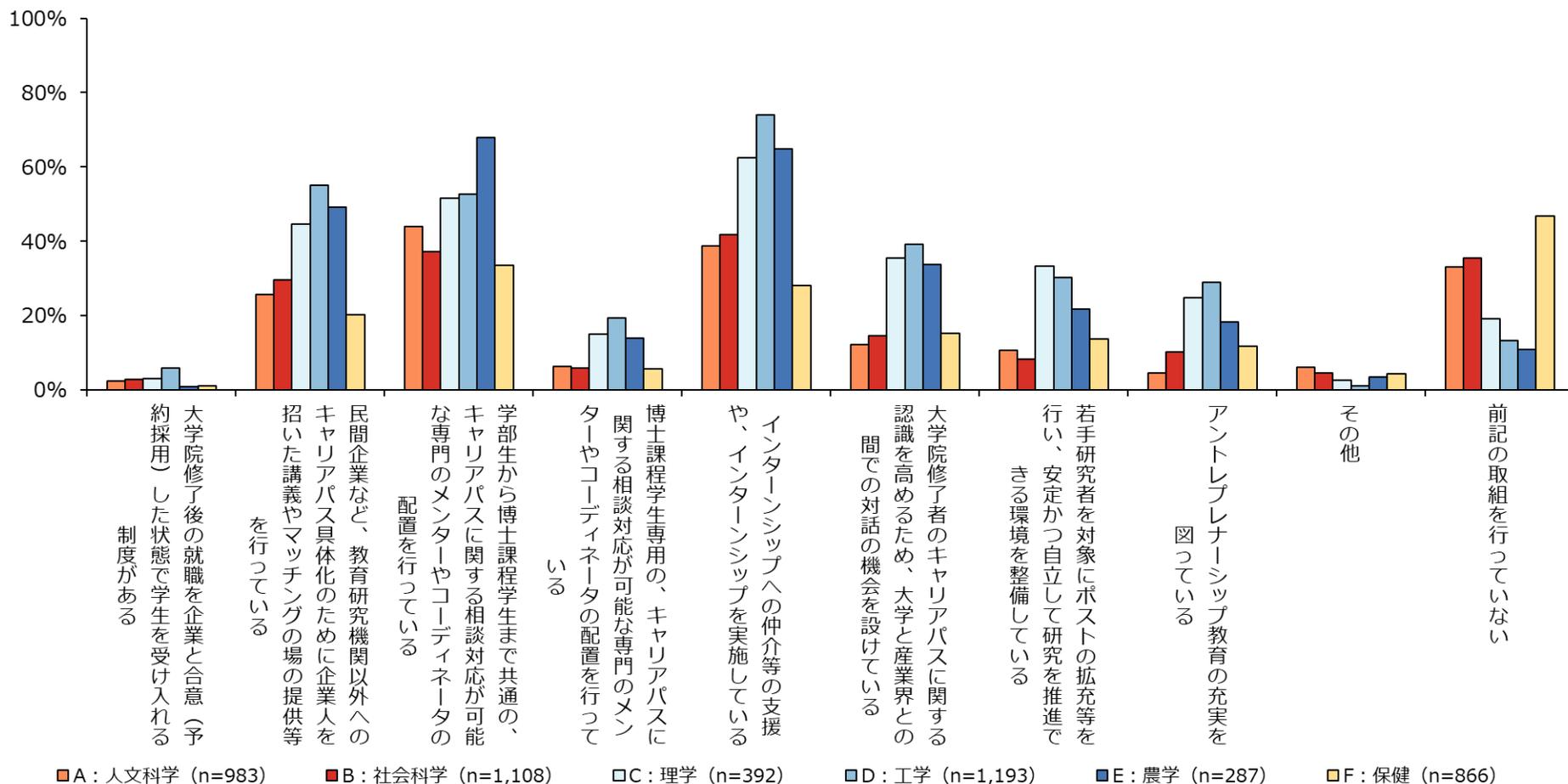
■ 大学院としての組織的な学生に対する就職支援「課程別」

- 「修士、博士前期」「博士後期」「専門職」において、「インターンシップへの仲介等の支援や、インターンシップを実施している」「民間企業など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のために企業人を招いた講義やマッチングの場の提供等を行っている」の割合が他の課程と比較して高い。
- 「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」においては、取組の実施割合が全体的に低い傾向である。



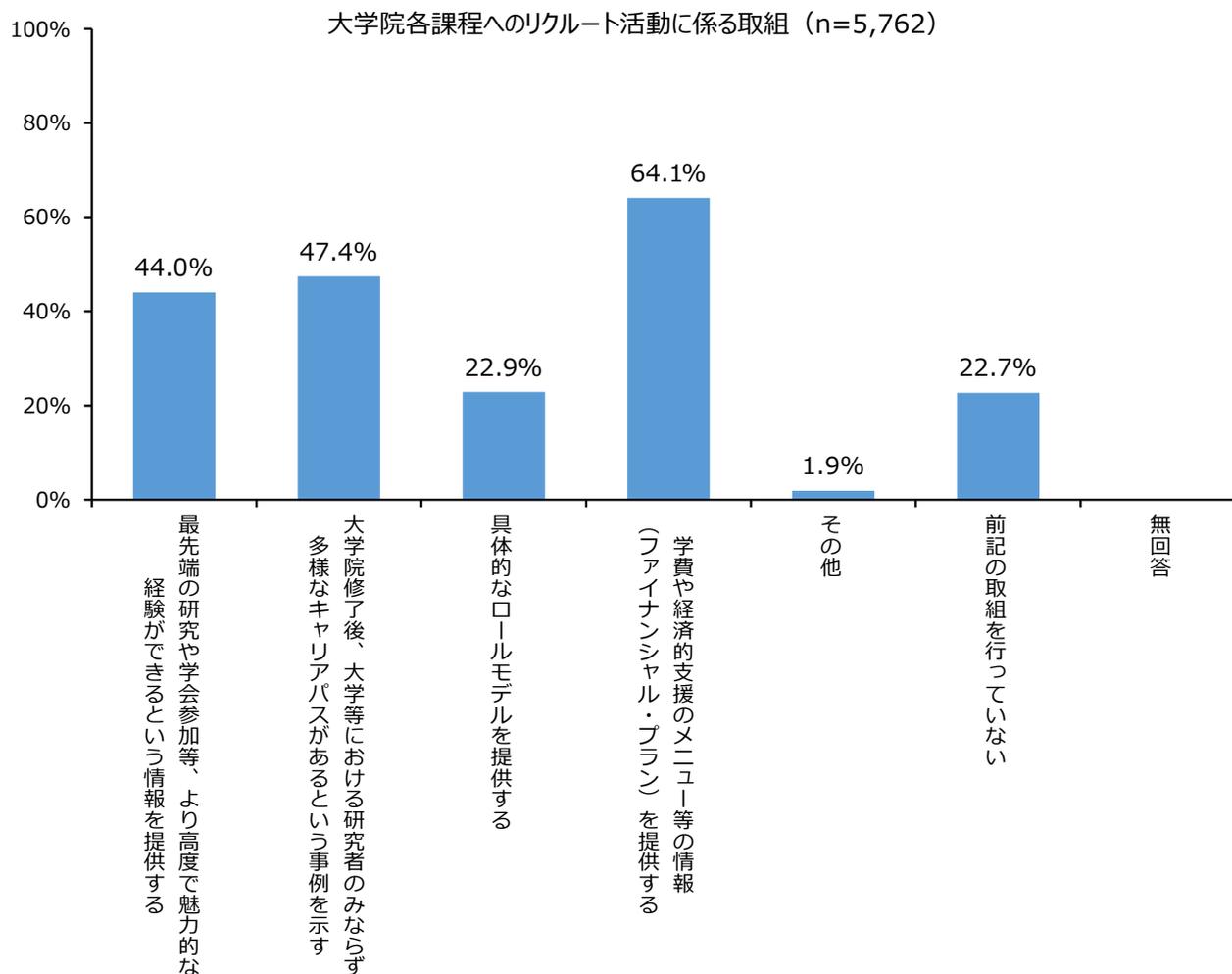
■ 大学院としての組織的な学生に対する就職支援「分野別」

- 全体的に「理学」「工学」「農学」で取組の実施割合が高い。
- 「人文科学」「社会科学」「保健」では「前記の取組を行っていない」と回答した割合が他分野と比較して高い。



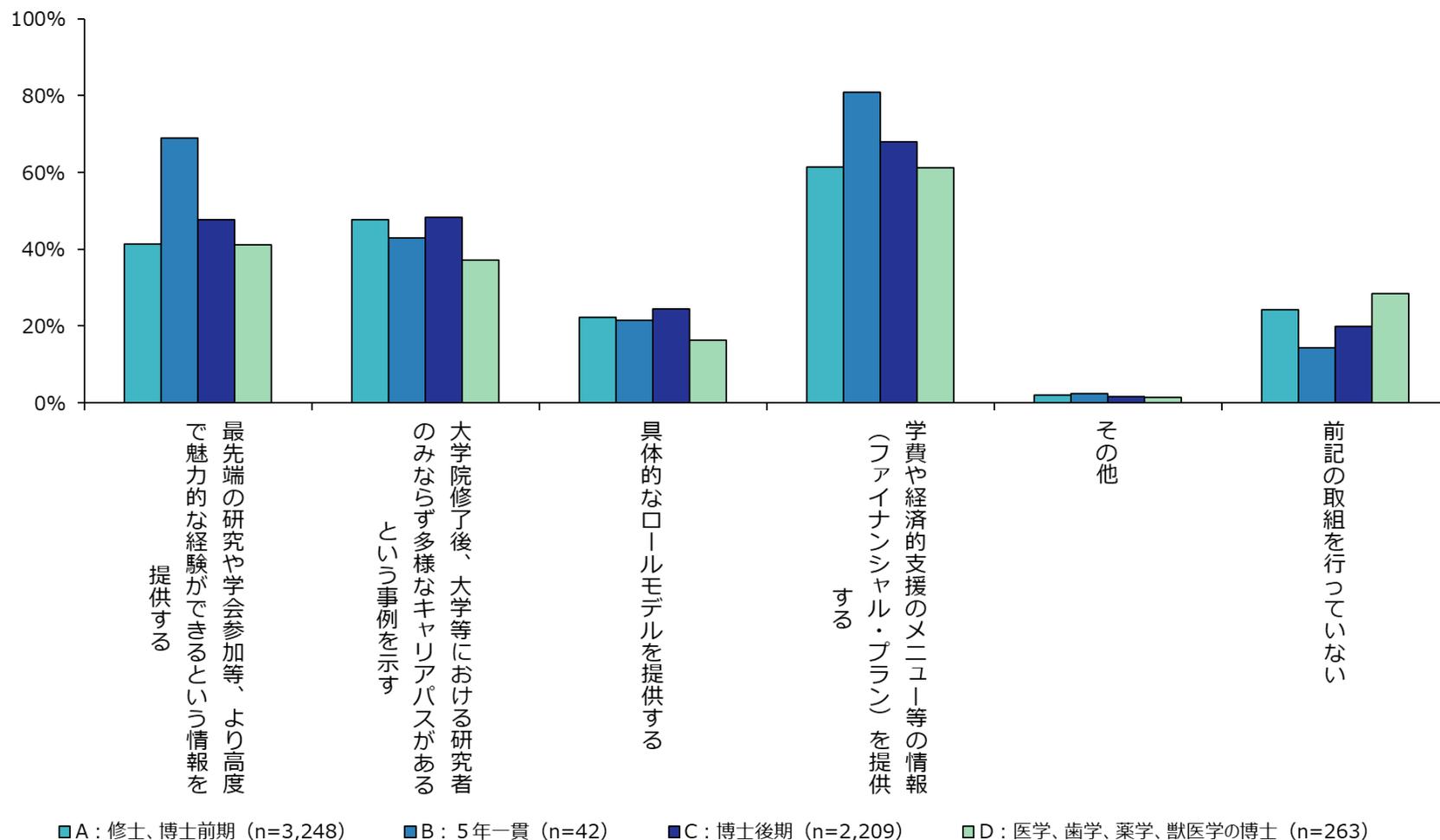
■ 大学院各課程へのリクルート活動

- 「学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する」の割合が64.1%と最も高く、次いで「大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す」「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する」となっている。



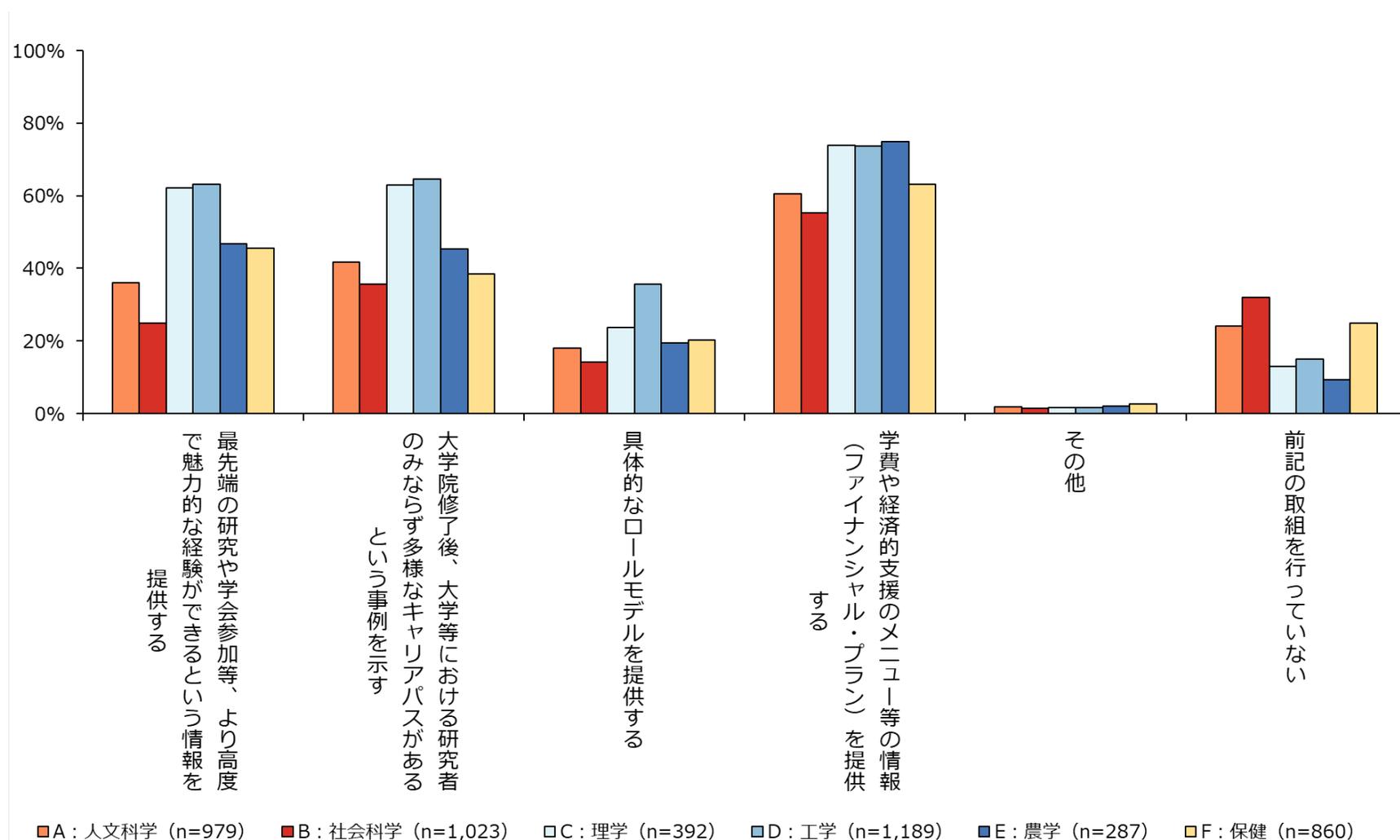
■ 大学院各課程へのリクルート活動「課程別」

- 「5年一貫」において、「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する」「学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供する」が他の課程と比較してやや高い。



■ 大学院各課程へのリクルート活動「分野別」

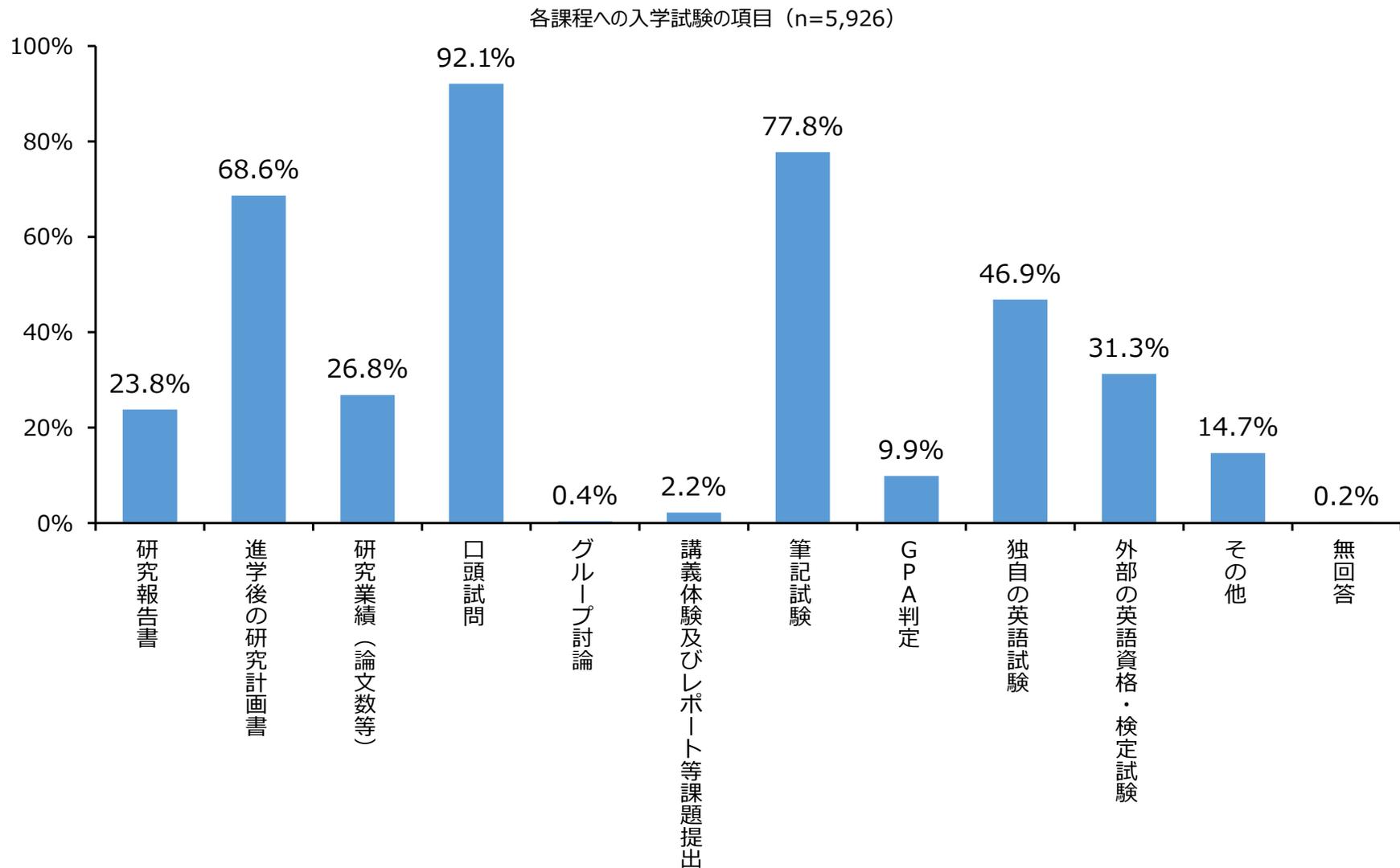
- 「理学」「工学」において、「最先端の研究や学会参加等、より高度で魅力的な経験ができるという情報を提供する」「大学院修了後、大学等における研究者のみならず多様なキャリアパスがあるという事例を示す」が他分野と比較してやや高い。
- 「人文科学」「社会科学」「保健」は「前記の取組を行っていない」と回答した割合がやや高い。



(注) 専攻・課程単位で調査

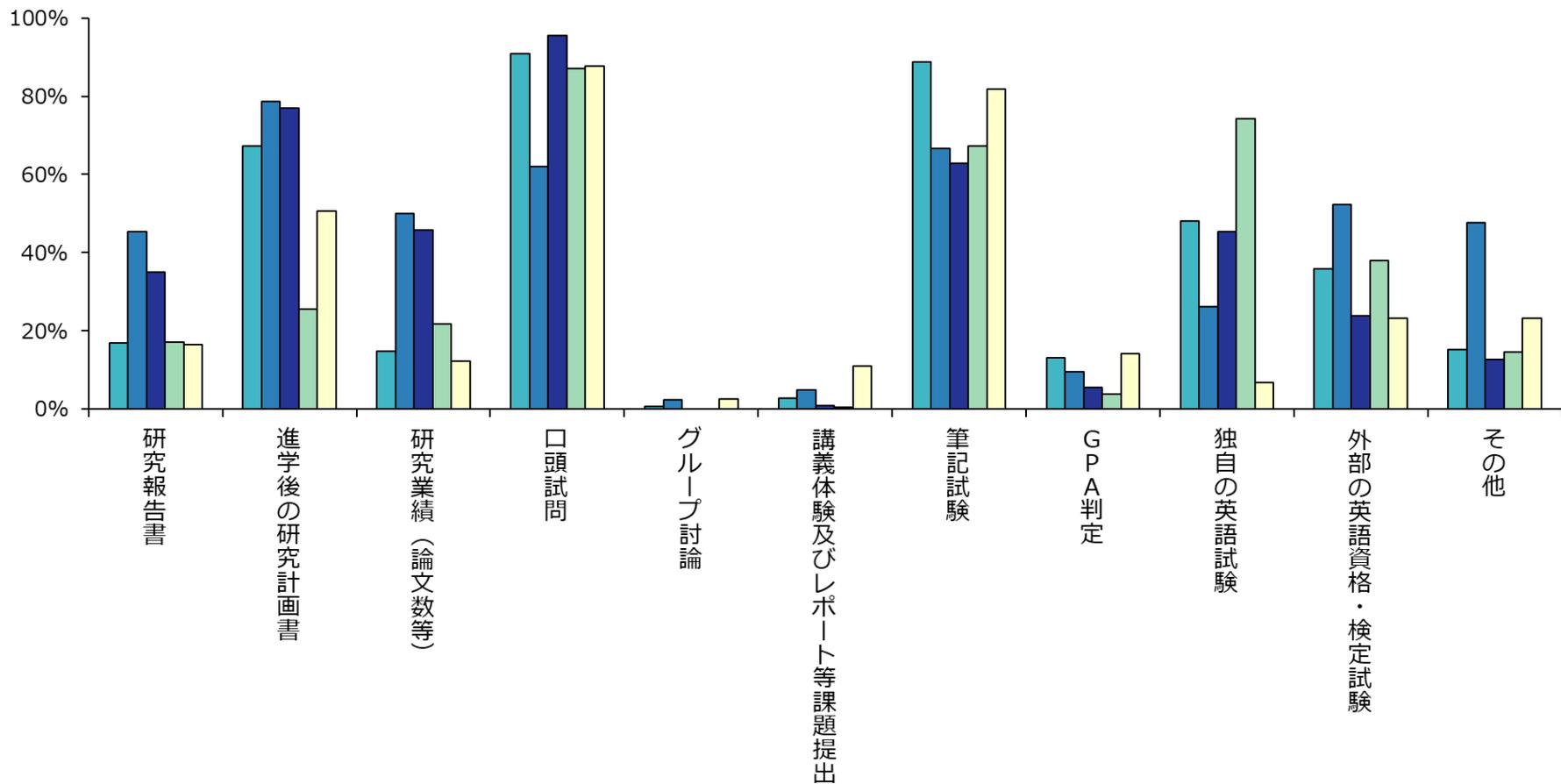
■ 入学試験の項目

- 「口頭試問」「筆記試験」「進学後の研究計画書」の割合が高い。



■ 入学試験の項目「課程別」

- 「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、他の課程と比較して「進学後の研究計画書」の割合が低く、「独自の英語試験」の割合が高い。

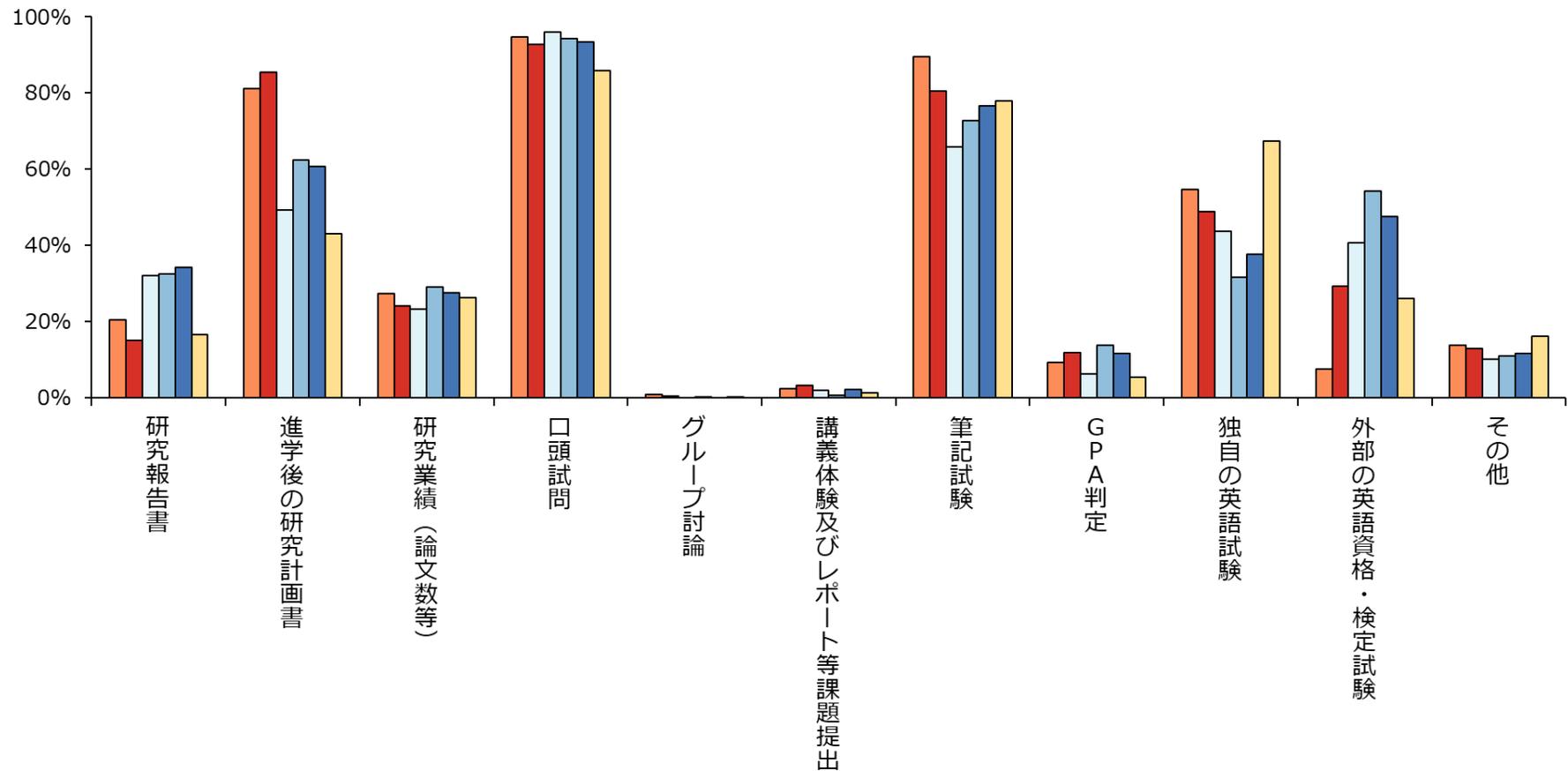


■ A: 修士、博士前期 (n=3,248) ■ B: 5年一貫 (n=42) ■ C: 博士後期 (n=2,209) ■ D: 医学、歯学、薬学、獣医学の博士 (n=263) ■ E: 専門職 (n=164)

(注) 専攻・課程単位で調査

■ 入学試験の項目「分野別」

• 「人文科学」「社会科学」においては、「進学後の研究計画書」が他分野と比較して高い。

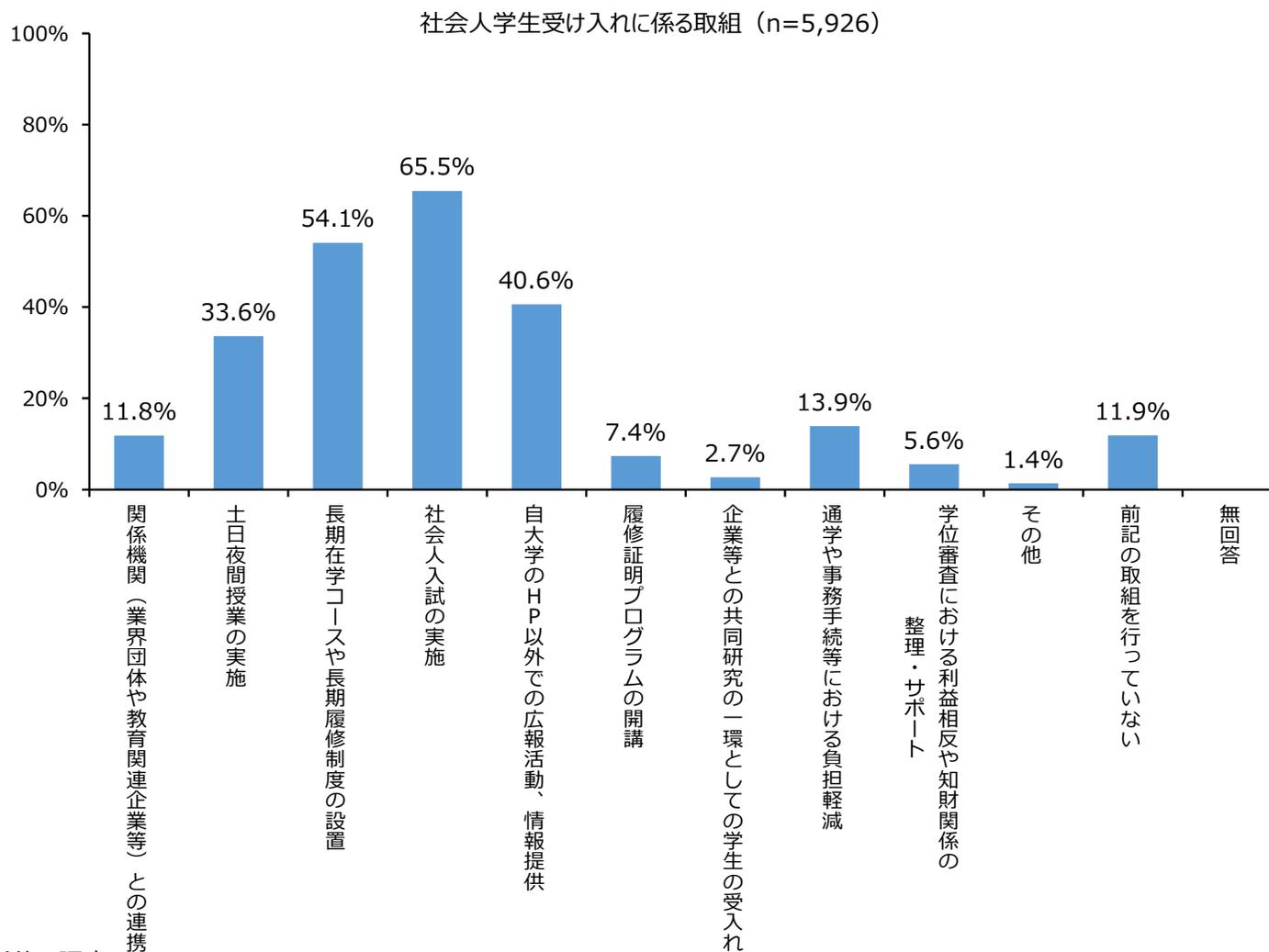


■ A: 人文科学 (n=983) ■ B: 社会科学 (n=1,108) □ C: 理学 (n=392) ■ D: 工学 (n=1,193) ■ E: 農学 (n=287) ■ F: 保健 (n=866)

(注) 専攻・課程単位で調査

■ リカレント教育

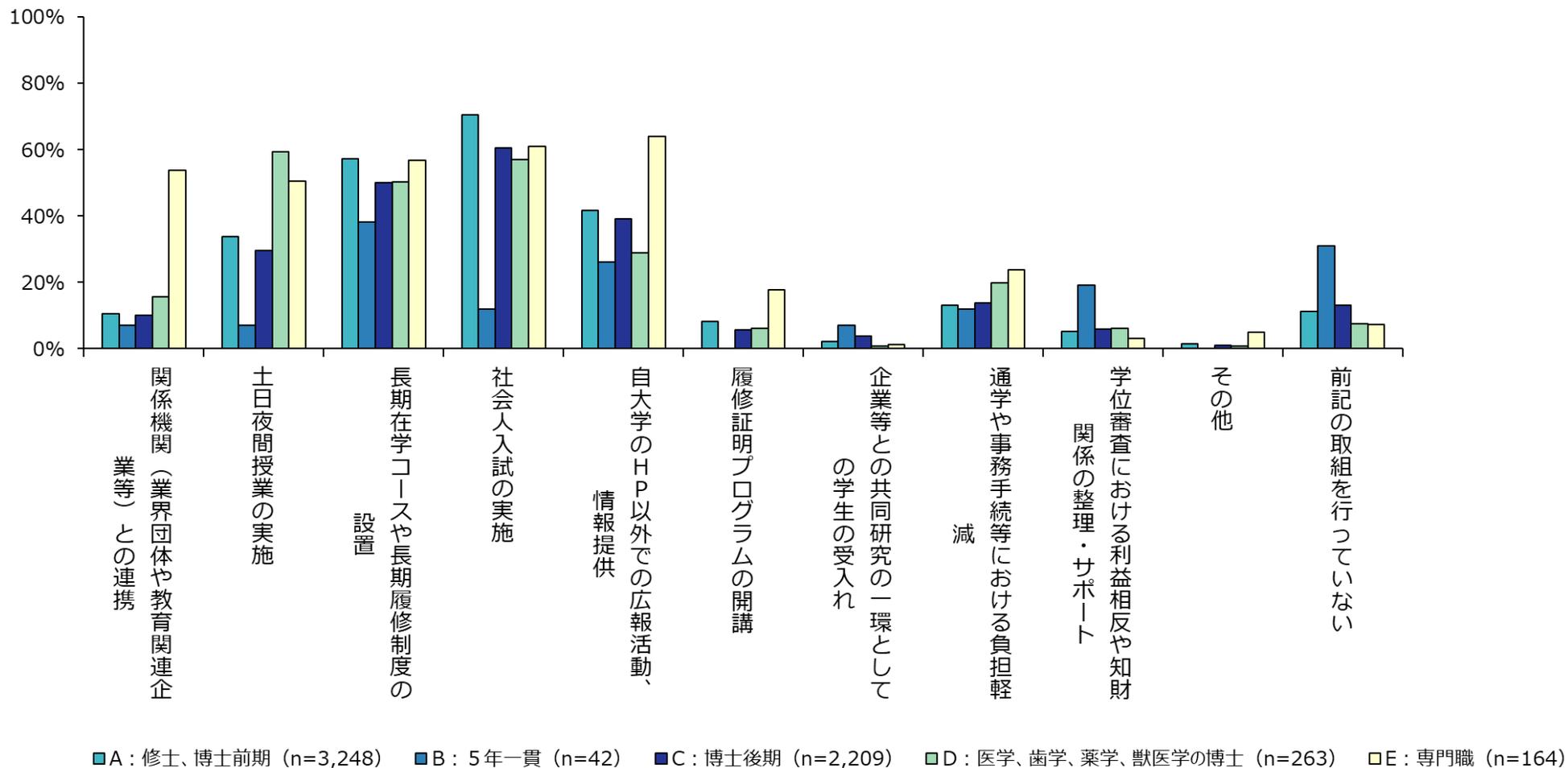
- 「社会人入試の実施」が65.5%と最も高く、「長期在学コースや長期履修制度の設置」「自大学のHP以外での広報活動、情報提供」「土日夜間授業の実施」と続く。



(注) 専攻・課程単位で調査

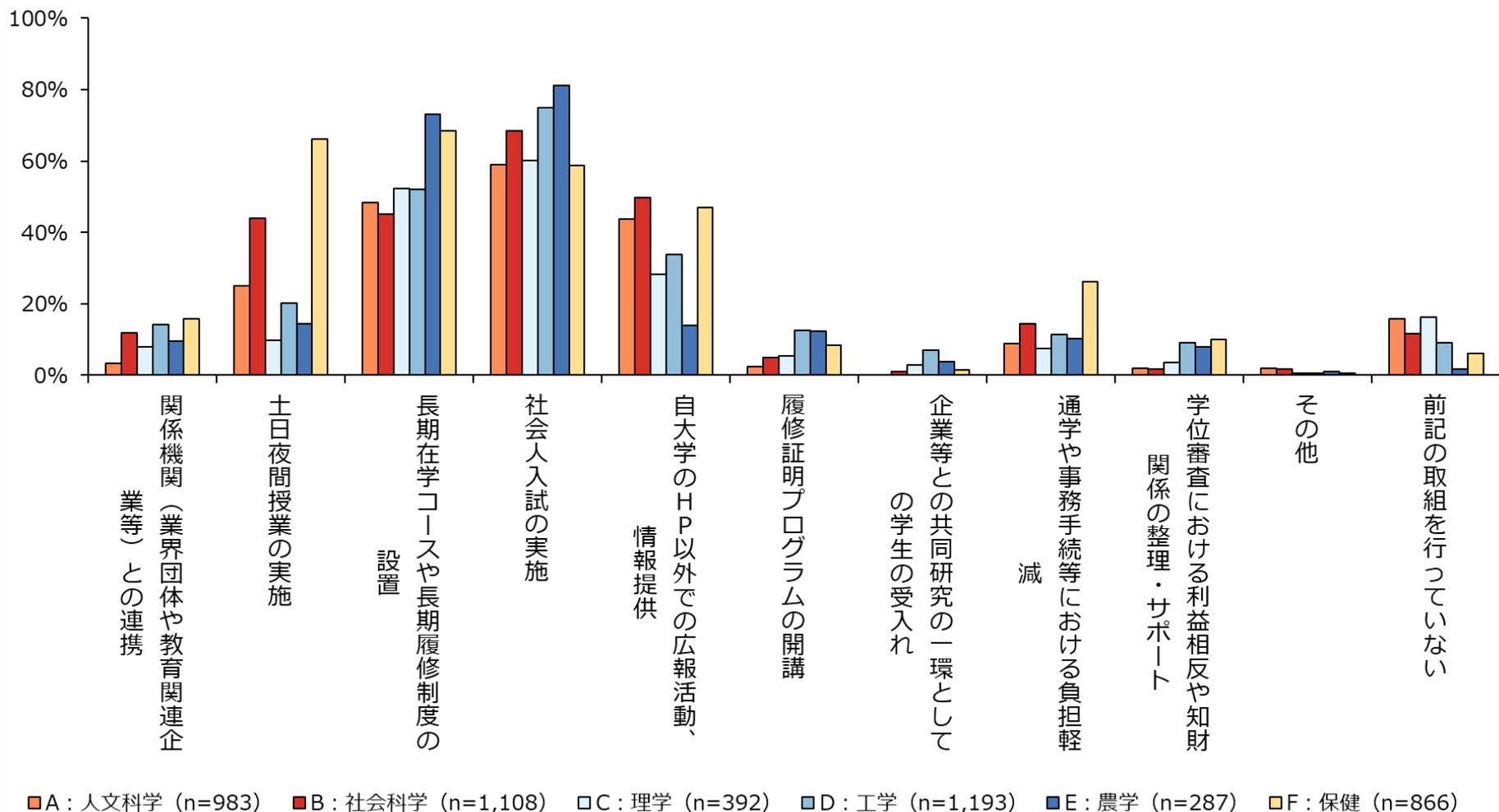
■ リカレント教育「課程別」

- 「専門職」において、「関係機関（業界団体や教育関連企業等）との連携」「自大学のHP以外での広報活動、情報提供」の実施割合が他の課程と比較して高い。



リカレント教育「分野別」

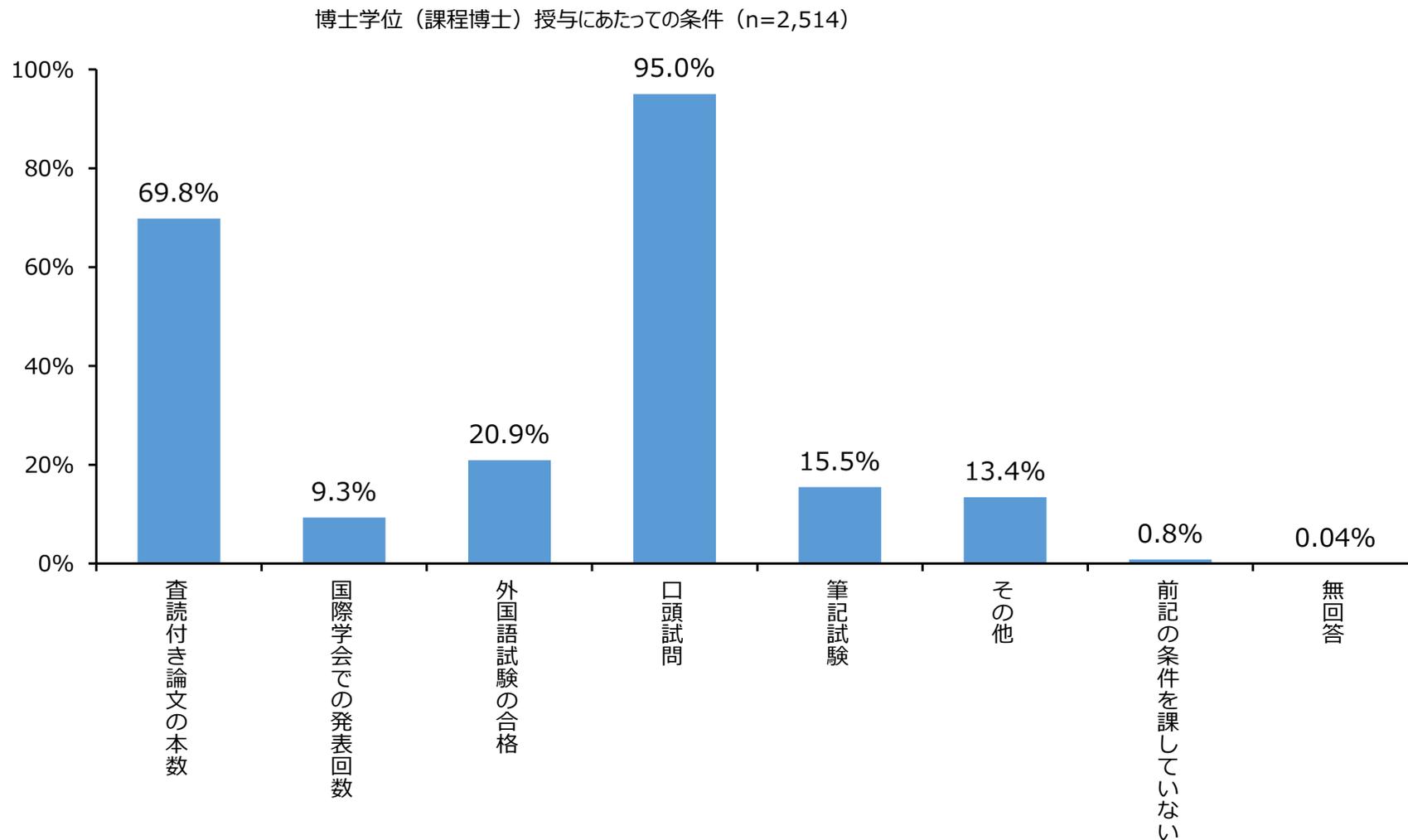
- 「保健」「社会科学」において、「土日夜間授業の実施」の割合が他分野と比較して高い。



(注) 専攻・課程単位で調査

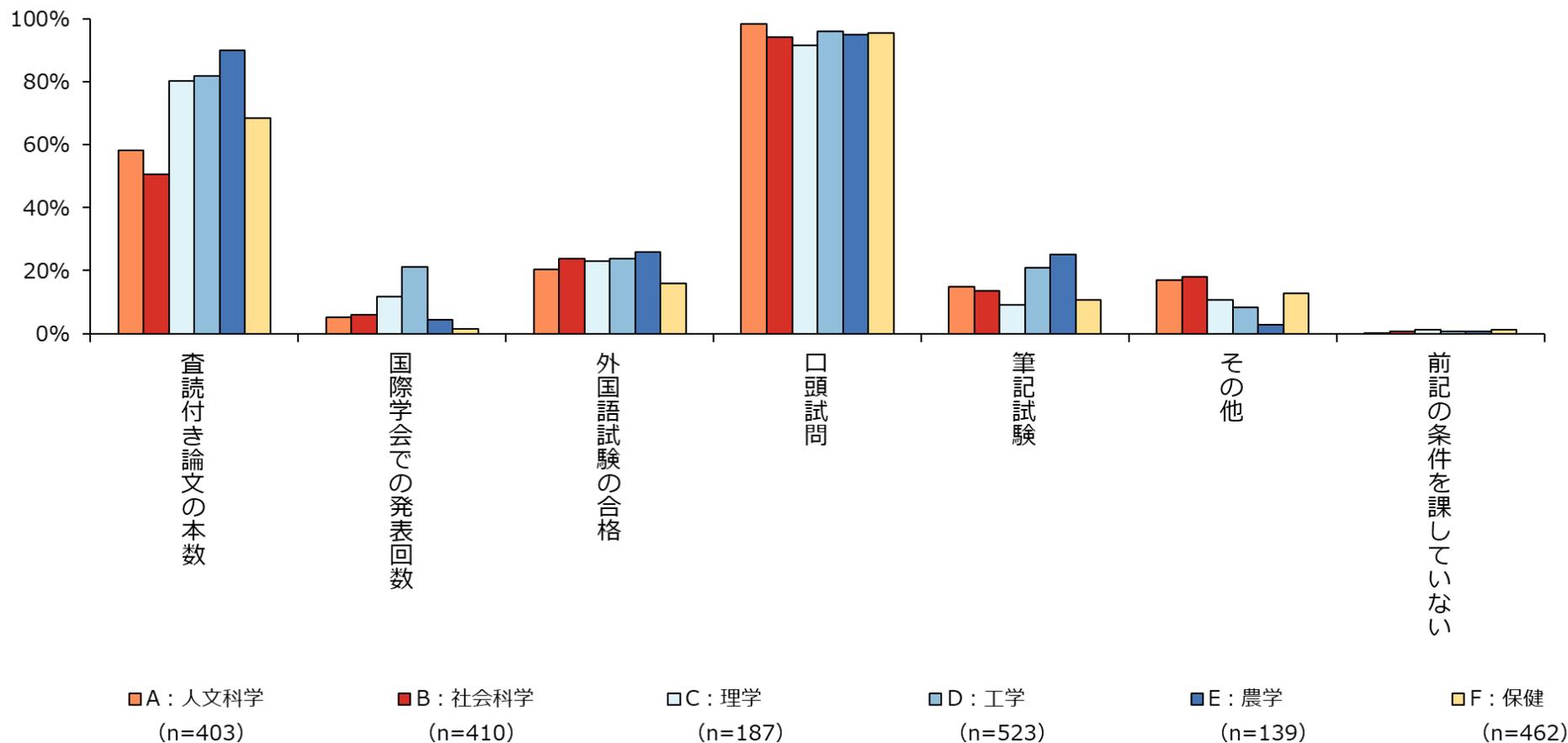
■ 博士学位（課程博士）授与にあたっての条件

- 学校教育法第104条第3項に基づく博士学位（課程博士）授与にあたっての条件としては、「口頭試問」「査読付き論文の本数」の割合が高い。



■ 博士学位（課程博士）授与にあたっての条件「分野別」

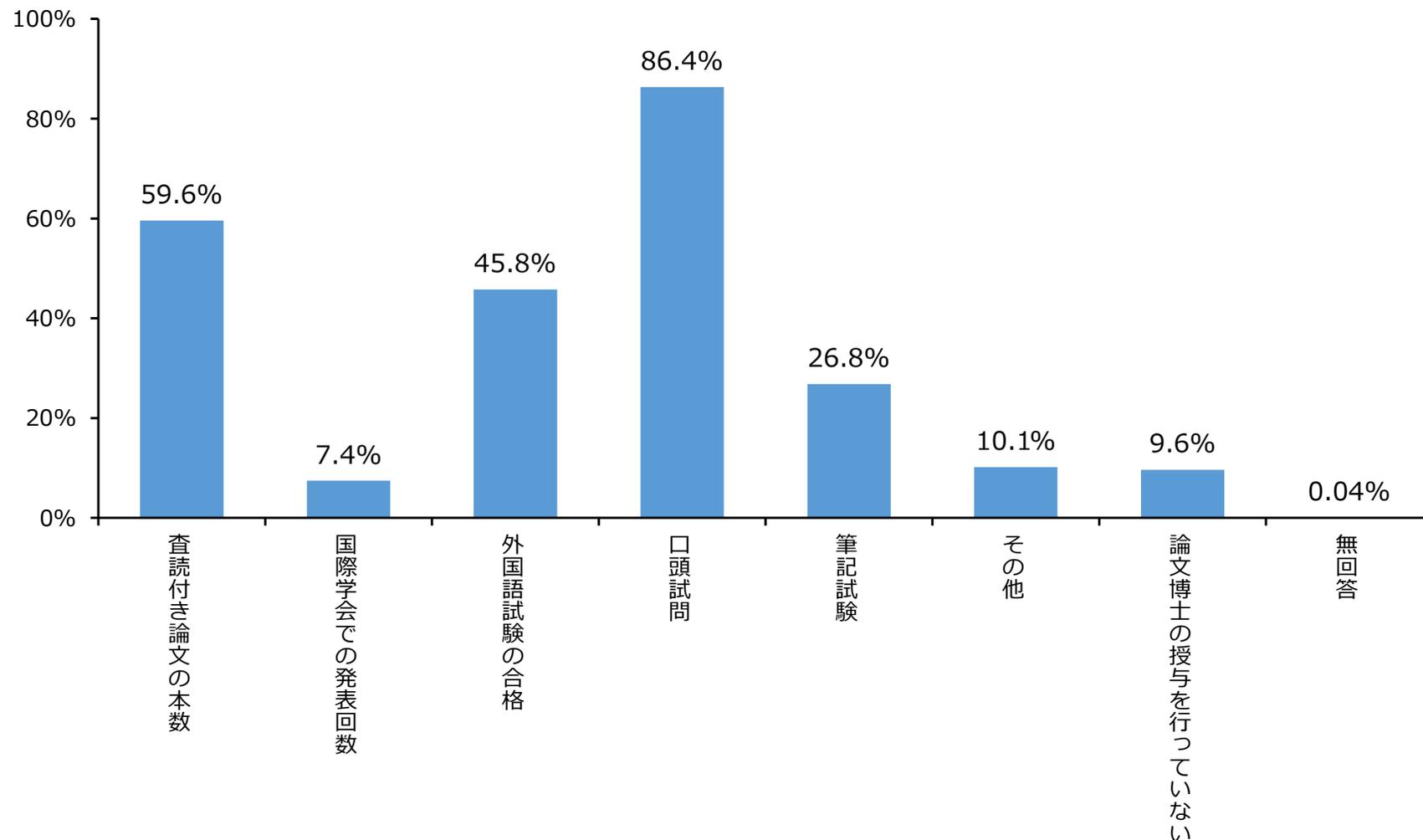
- 「人文科学」「社会科学」において、「査読付き論文の本数」の割合が他分野と比較して低い。



■ 博士学位（論文博士）授与にあたっての条件

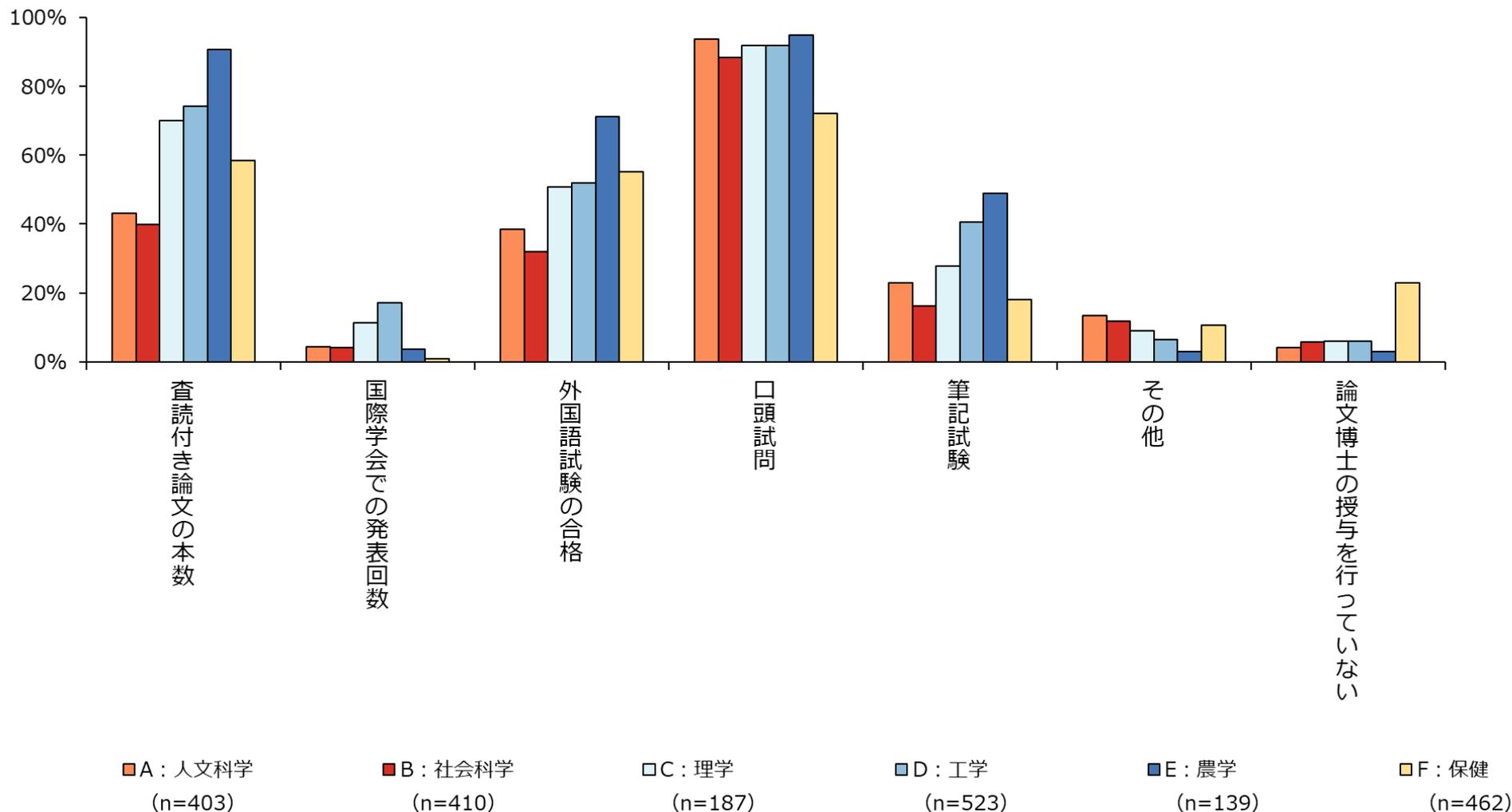
- 学校教育法第104条第4項に基づく博士学位（論文博士）授与にあたっての条件については、「口頭試問」の割合が最も高く、「査読付き論文の本数」「外国語試験の合格」が続く。

博士学位（論文博士）授与にあたっての条件（n=2,514：博士後期課程を有する課程）



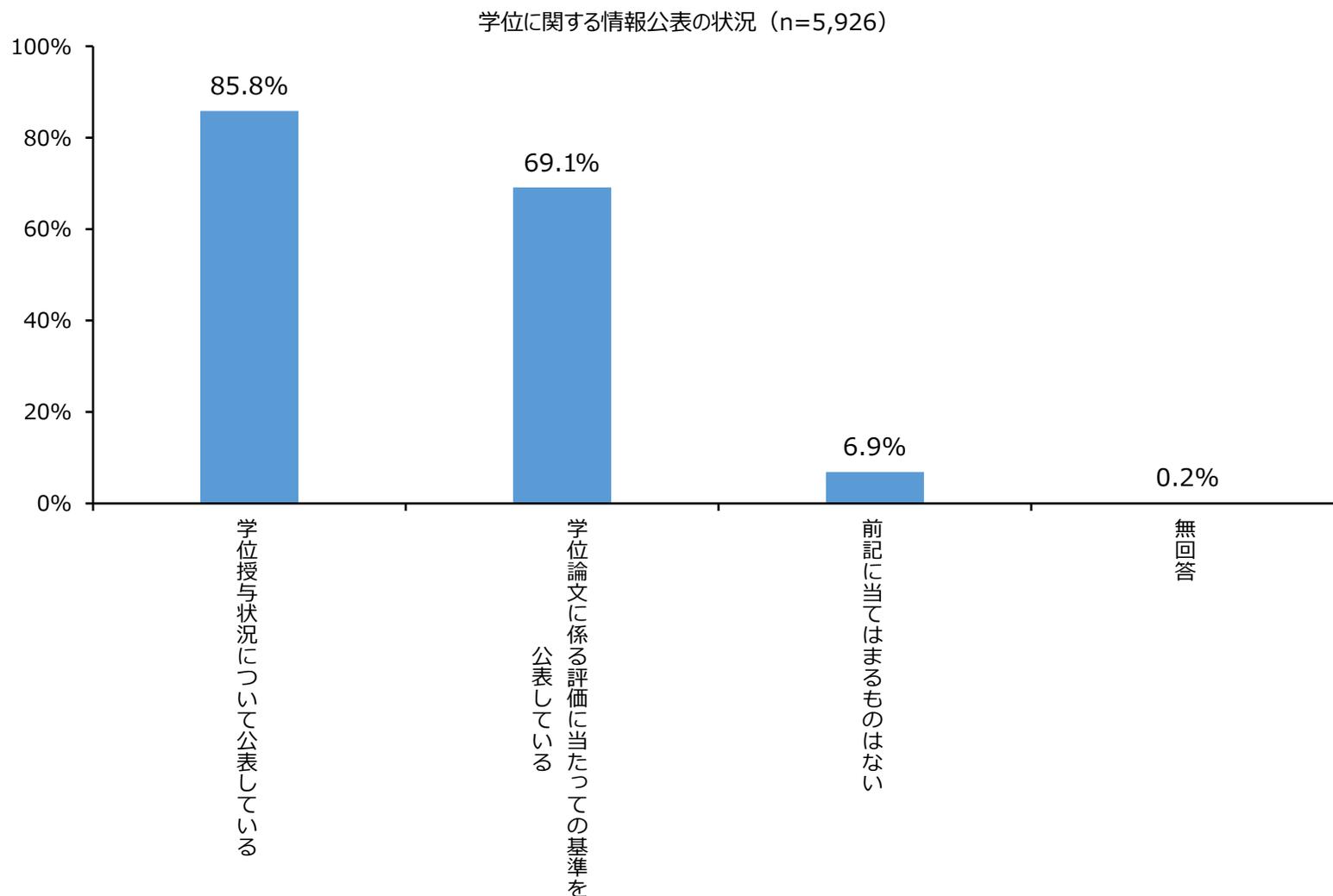
■ 博士学位（論文博士）授与にあたっての条件「分野別」

- 「査読付き論文の本数」「外国語試験の合格」の割合が「農学」で相対的に高く、「人文科学」「社会科学」で低い。



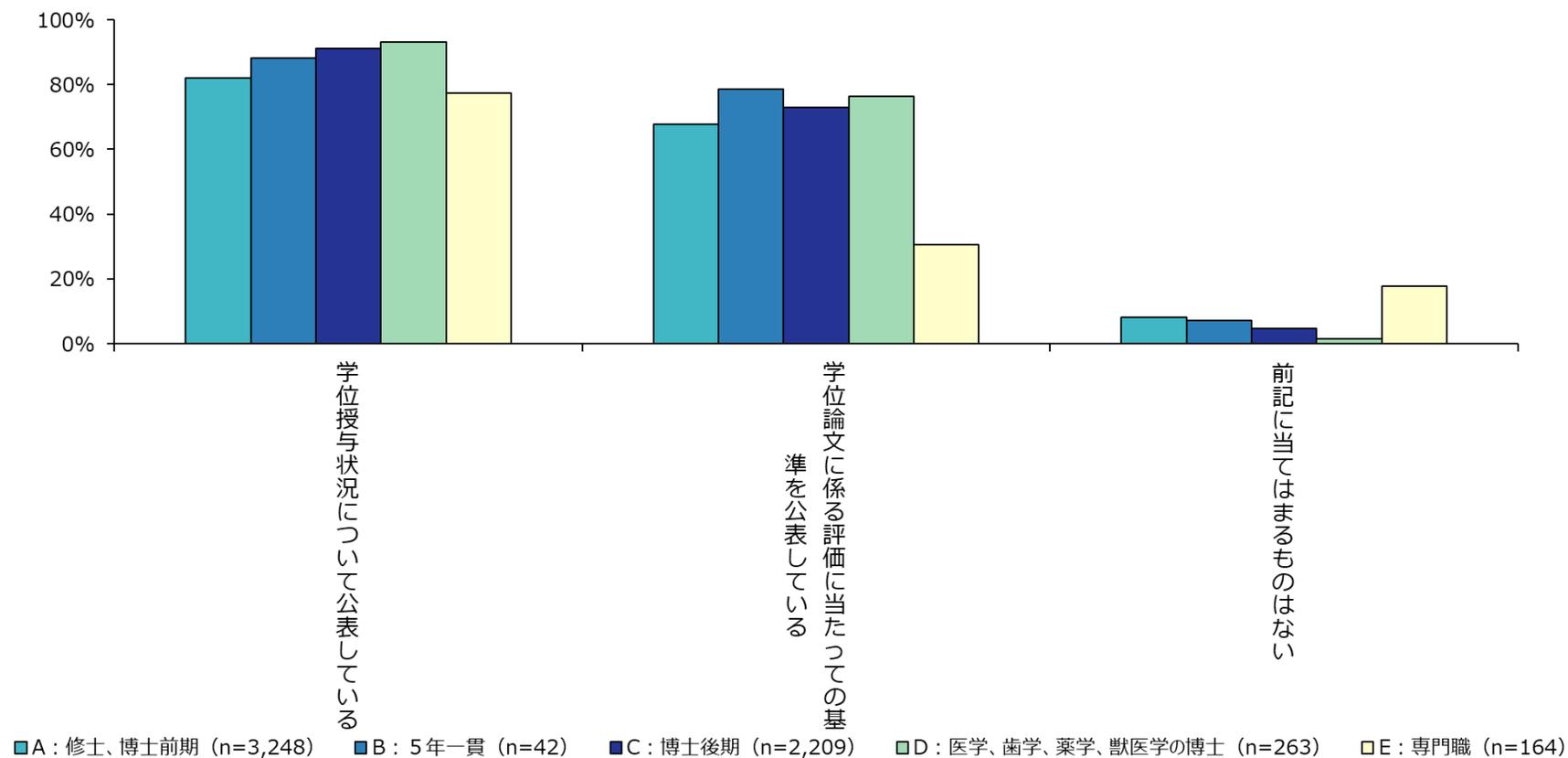
■ 学位に関する情報公表の状況

- 「学位授与状況について公表している」が85.8%、「学位論文に係る評価に当たっての基準を公表している」が69.1%となっている。



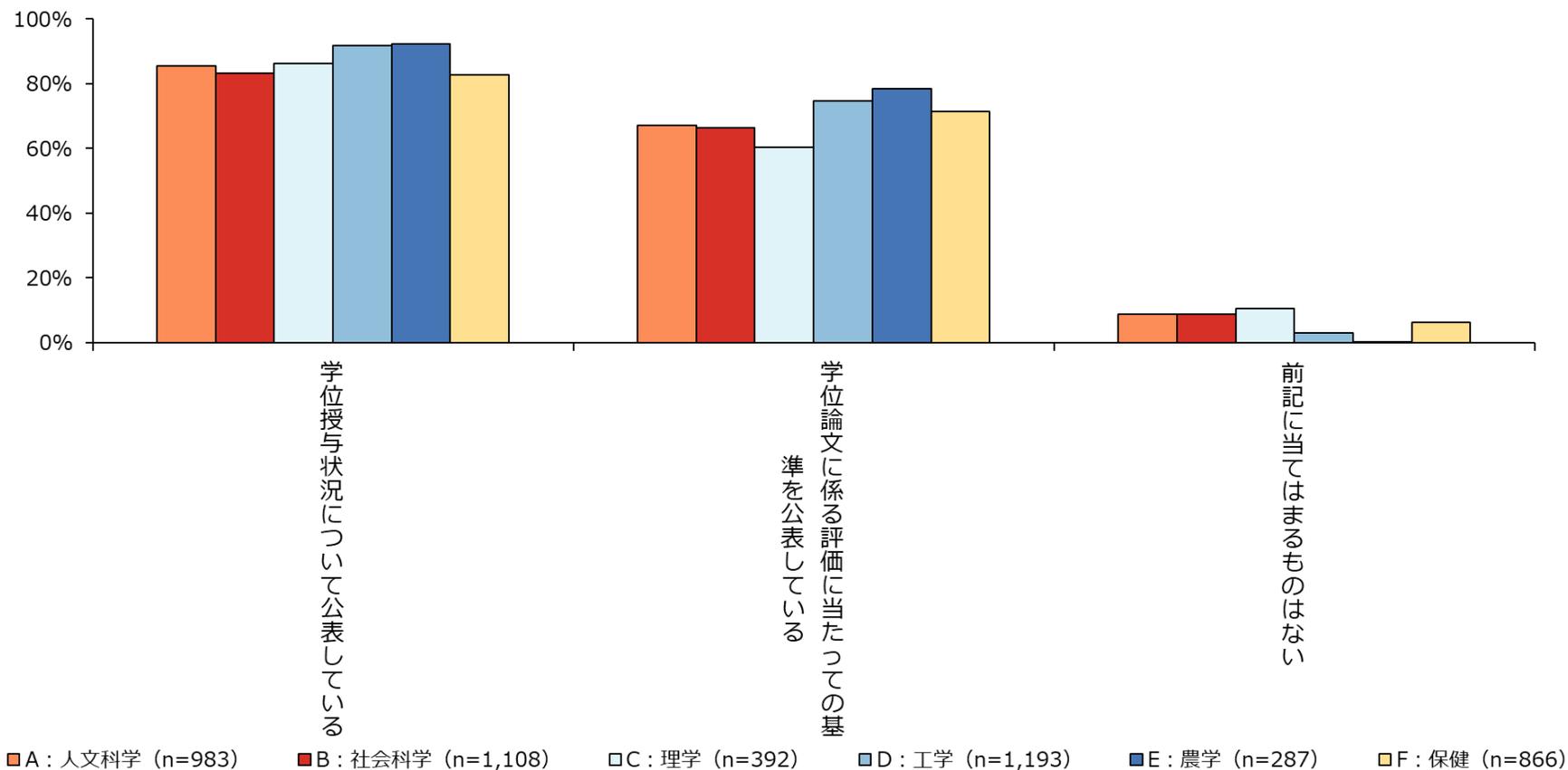
■ 学位に関する情報公表の状況「課程別」

- 課程別の状況はグラフの通り。



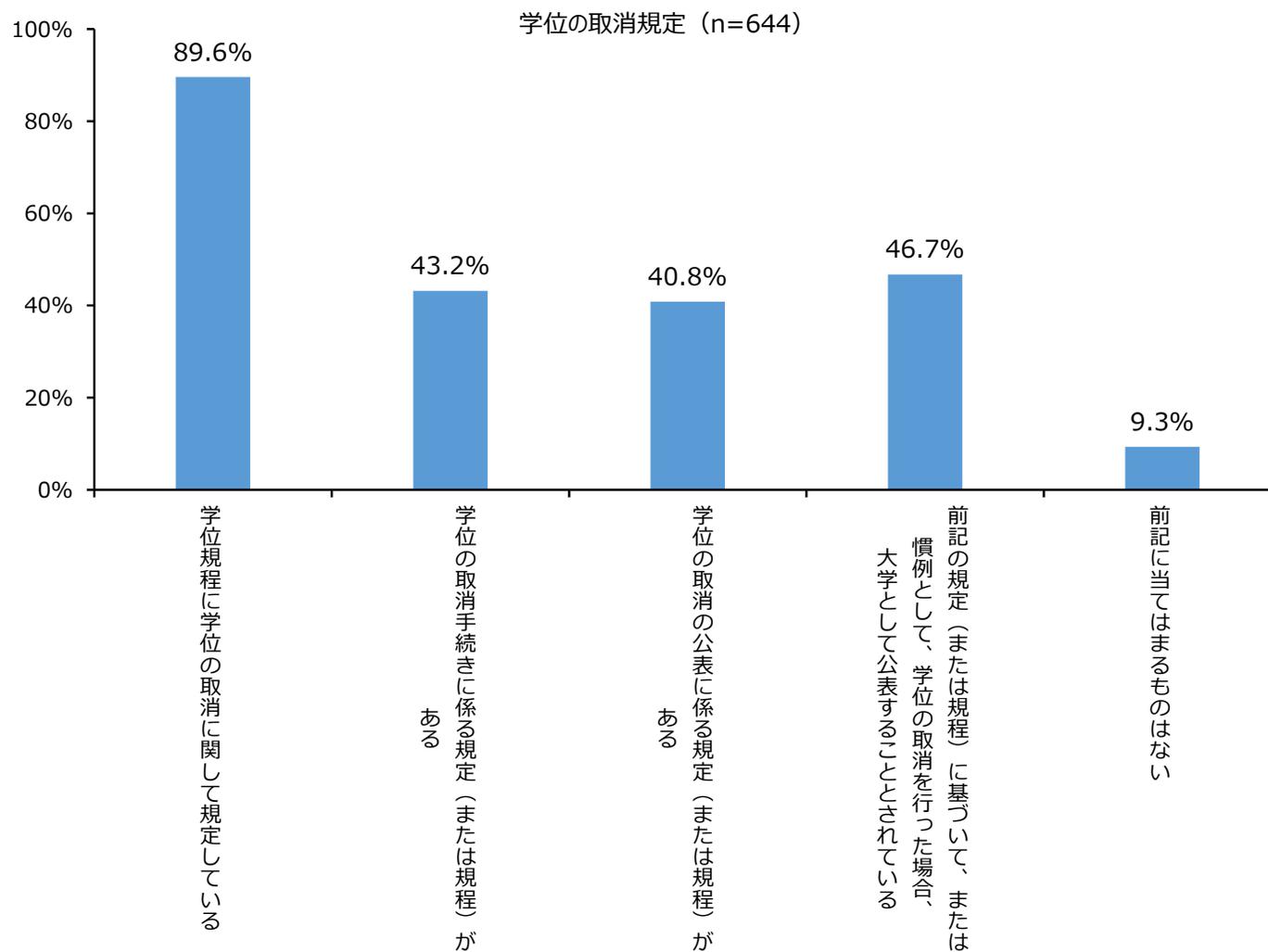
■ 学位に関する情報公表の状況「分野別」

- 分野別の状況はグラフの通り。



■ 学位の取消規定

- 大学院における学位取消規定について、大学院全体の状況を聞いたところ、「学位規程に学位の取消に関して規定している」が89.6%となっている。



(注) 大学院全体で調査

■ 大学院独自の大学院生に対する経済的支援「授業料減免」

- 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（授業料減免）があると回答した大学は322校、制度数（n）は581制度。
- 581制度の総受給金額は約169億円、総受給者数は70,316人、1人当たりの平均受給金額は24万円である。

大学院独自の大学院生に対する授業料減免（n=581）

授業料減免	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	16,908,077千円	70,316人	240千円
修士・博士課程（前期）	9,501,126千円	41,650人	228千円
博士課程（後期）	6,600,457千円	25,949人	254千円
専門職	806,494千円	2,717人	297千円

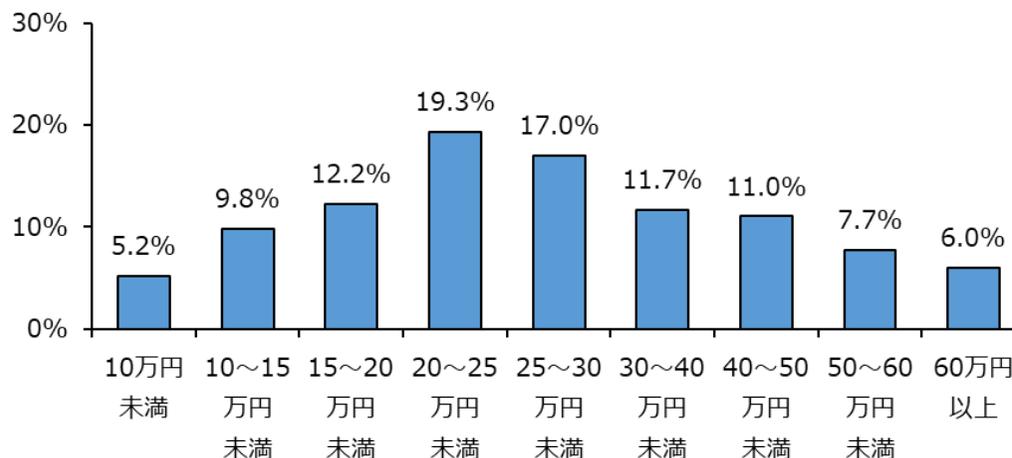
※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度

制度別の平均受給金額の割合（n=581）



※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

（注）大学院全体で調査

■ 大学院独自の大学院生に対する経済的支援「奨学金」

- 大学院独自の大学院生に対する経済的支援（奨学金）があるのは347校、制度数（n）は1,077制度。
- 1,077制度の総受給金額は約79億円、総受給者数は24,309人、1人当たりの平均受給金額は約32万円である。

大学院独自の大学院生に対する奨学金（n=1,077）

奨学金	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	7,882,136千円	24,309人	324千円
修士・博士課程（前期）	4,058,200千円	14,158人	287千円
博士課程（後期）	2,721,128千円	8,355人	326千円
専門職	1,102,808千円	1,796人	614千円

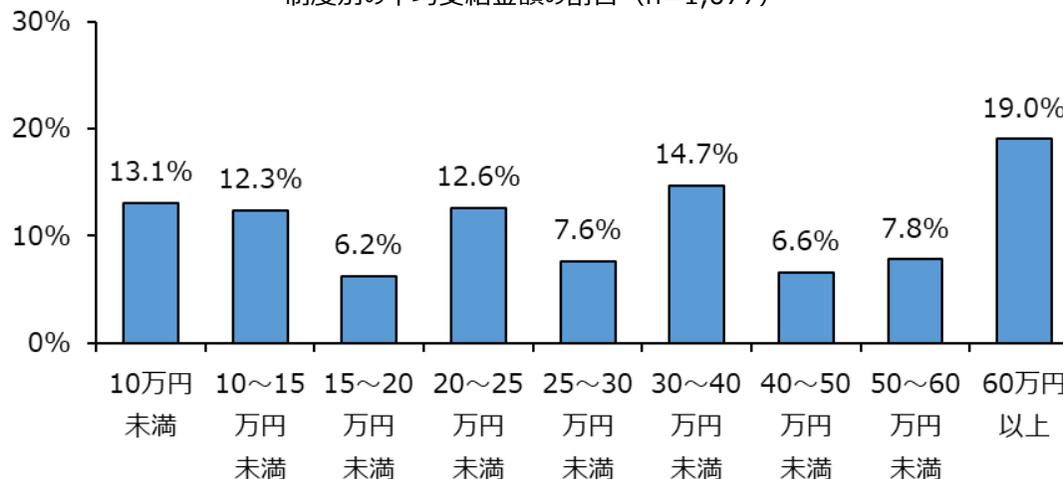
※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度

制度別の平均受給金額の割合（n=1,077）



※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

■ 大学院独自の大学院生に対する経済的支援「研究助成制度」

- 大学院独自の大学院生向けの研究助成制度があるのは187校。制度数（n）は333制度である。
- 333制度の総受給金額は約29億円、総受給者数は10,721グループ、1グループ当たりの平均受給金額は27万円である。

大学院独自の大学院生に対する研究助成制度（n=333）

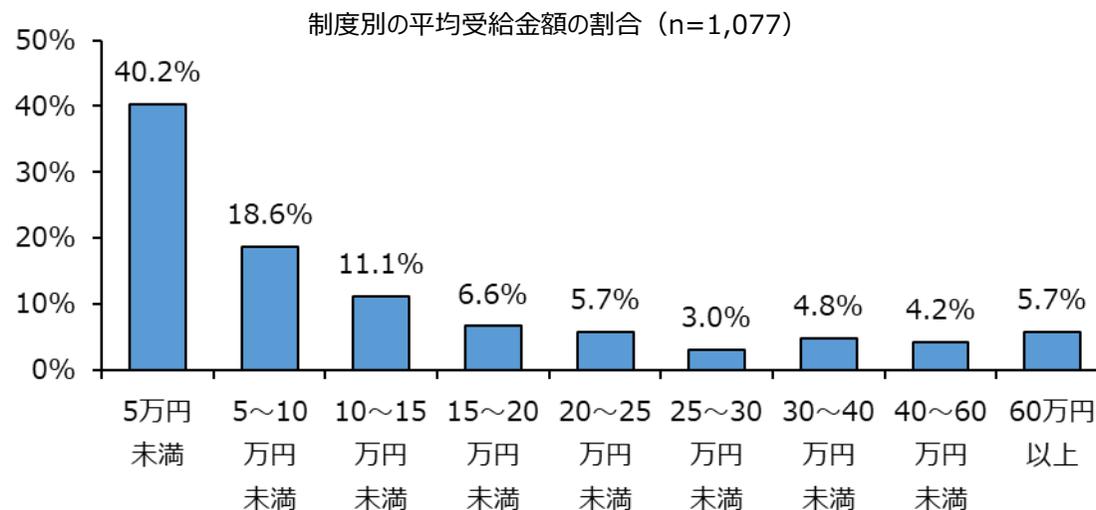
研究助成制度	総受給金額	総受給者数	平均受給金額
全体	2,890,206千円	10,721グループ	270千円
修士・博士課程（前期）	409,168千円	6,528グループ	63千円
博士課程（後期）	2,473,305千円	4,101グループ	603千円
専門職	7,733千円	92グループ	84千円

※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

※「修士・博士課程（前期）」は「修士課程」「博士課程（前期）」の学生が対象の制度

※「博士課程（後期）」は「博士課程（後期）」「5年一貫制」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士課程」の学生が対象の制度

※「専門職」は「専門職学位課程」の学生が対象の制度



※ nは制度数（大学が複数の制度を回答した場合があるため、回答した大学数と一致しない）

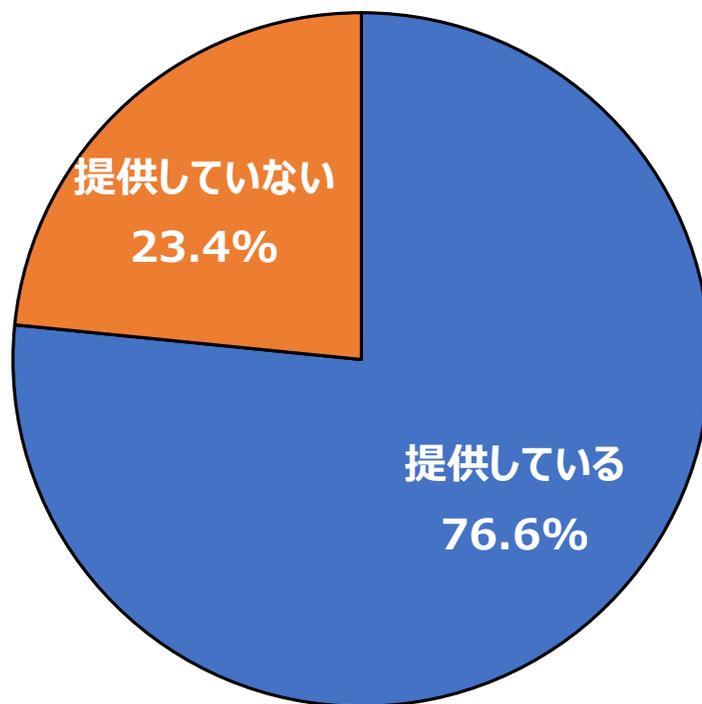
※平均受給金額は制度ごとに受給金額を受給者数で除した金額

（注）大学院全体で調査

■ ファイナンシャル・プランの提供

- 在學生に対して学費や経済的支援のメニュー等の情報（ファイナンシャル・プラン）を提供しているかどうかを聞いたところ、76.6%が「提供している」と回答した。

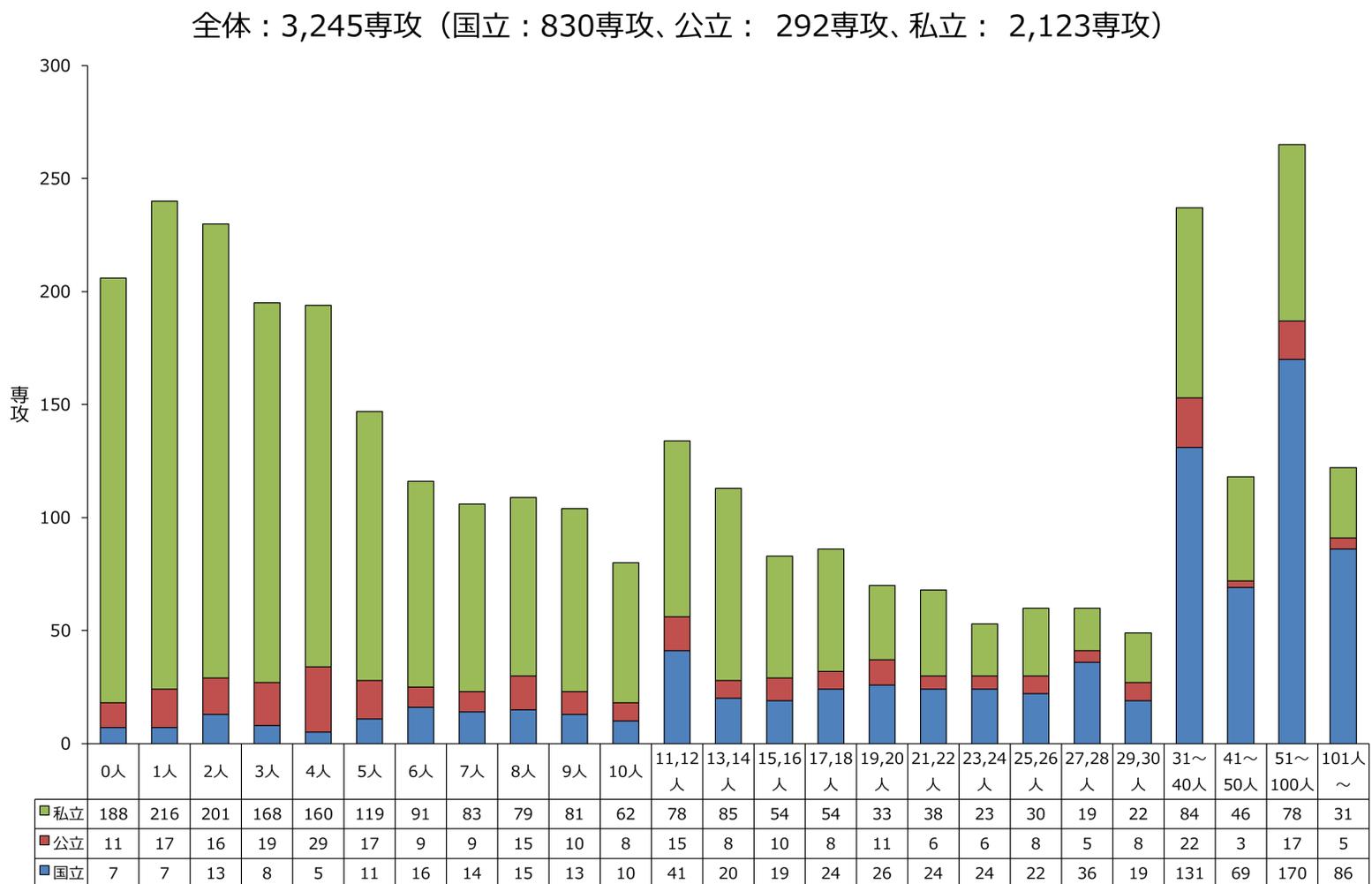
ファイナンシャル・プランの提供（n=5,926）



大学院教育の基本状況

■ 修士課程における専攻別入学者数の分布

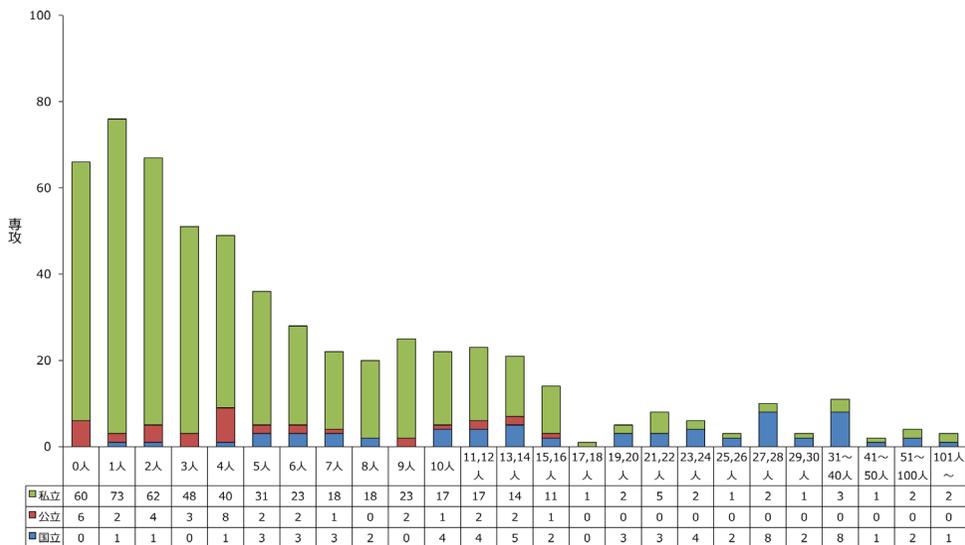
- 調査に回答した総計3,245専攻のうち、私立は入学者数10人以下の専攻の割合が2,123専攻中1,448専攻で68.2%となっている。
- 国立大学では、入学者数30名超の専攻の割合が830専攻中456専攻で54.9%となっている。



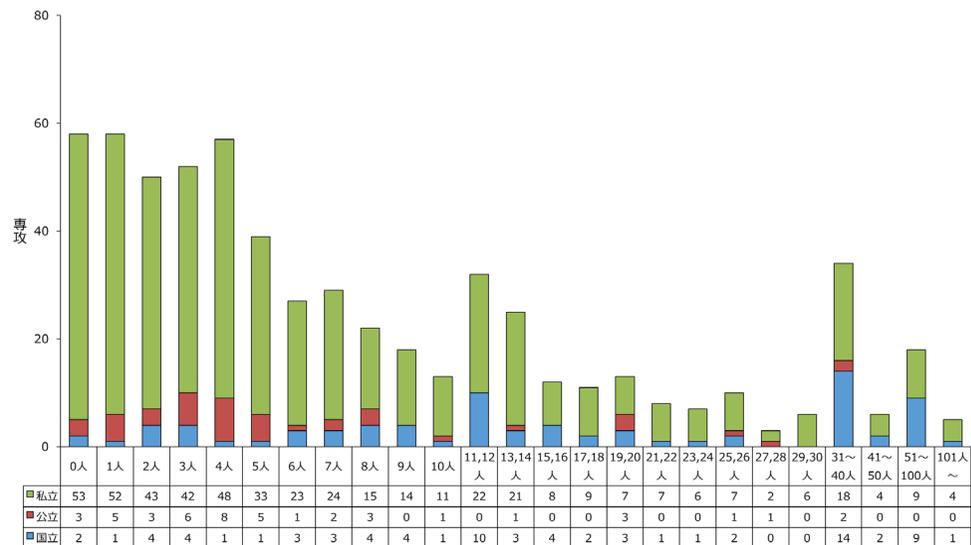
(注) 専攻・課程単位で調査

■ 修士課程における専攻別入学者数の分布（人文、社会、教育）

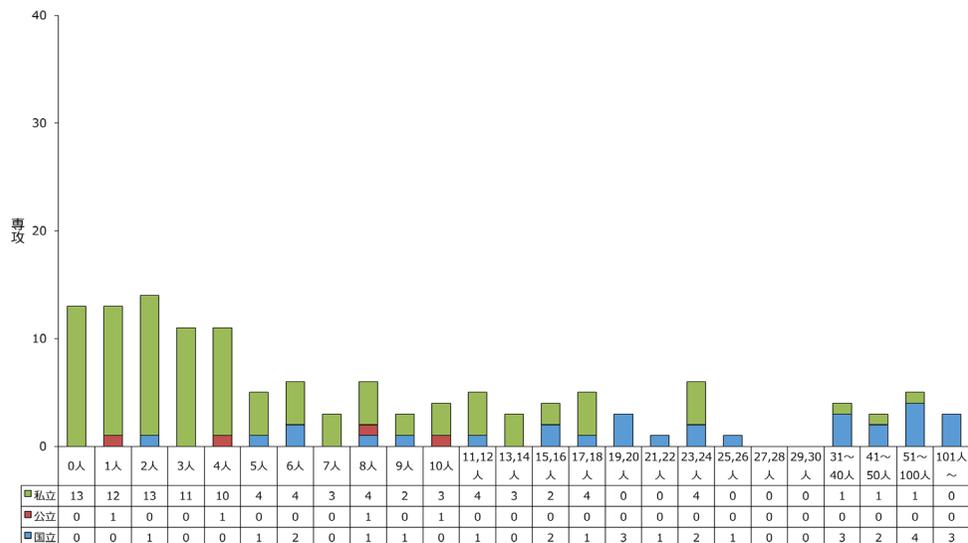
人文科学：576専攻（国立：63専攻、公立：36専攻、私立：477専攻）



社会科学：613専攻（国立：80専攻、公立：45専攻、私立：488専攻）



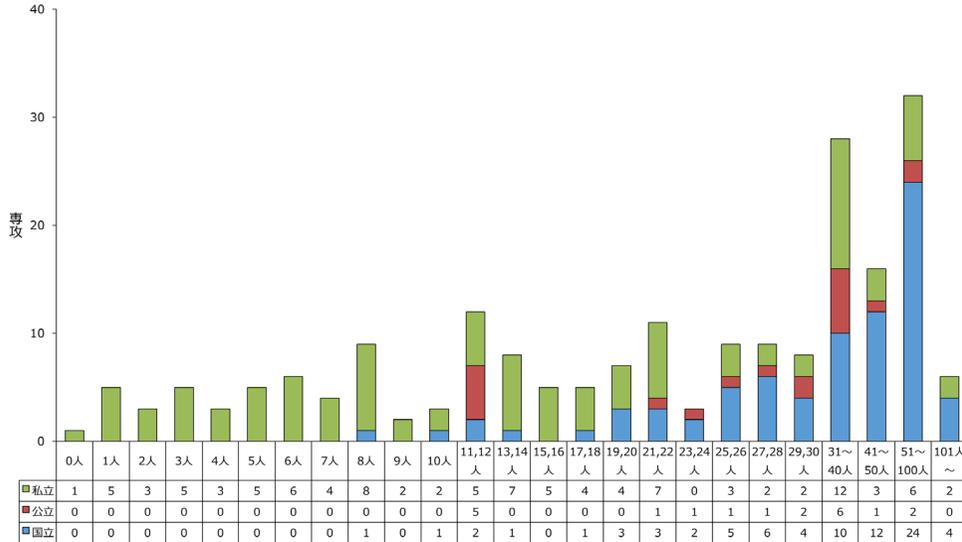
教育：132専攻（国立：29専攻、公立：4専攻、私立：99専攻）



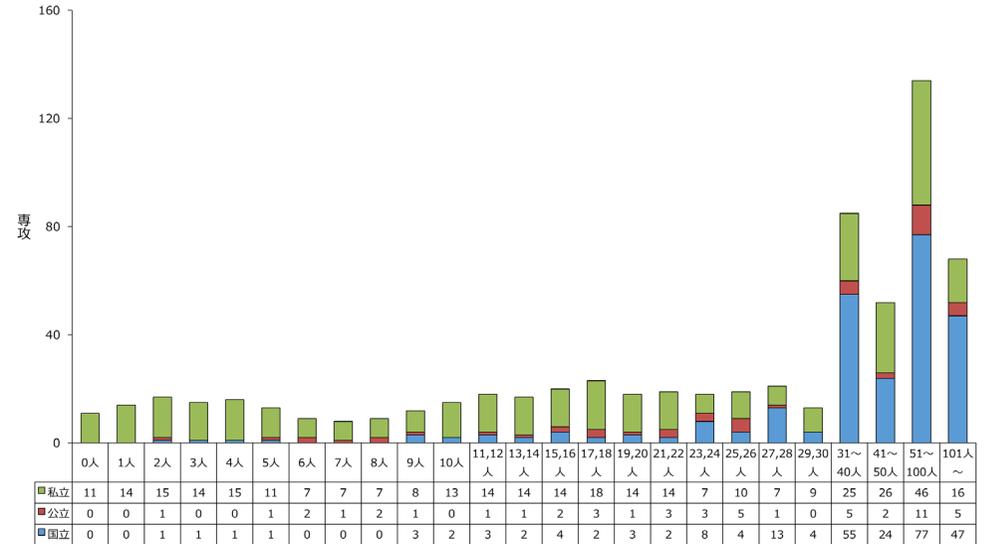
(注) 専攻・課程単位で調査

■ 修士課程における専攻別入学者数の分布（理工農、保健）

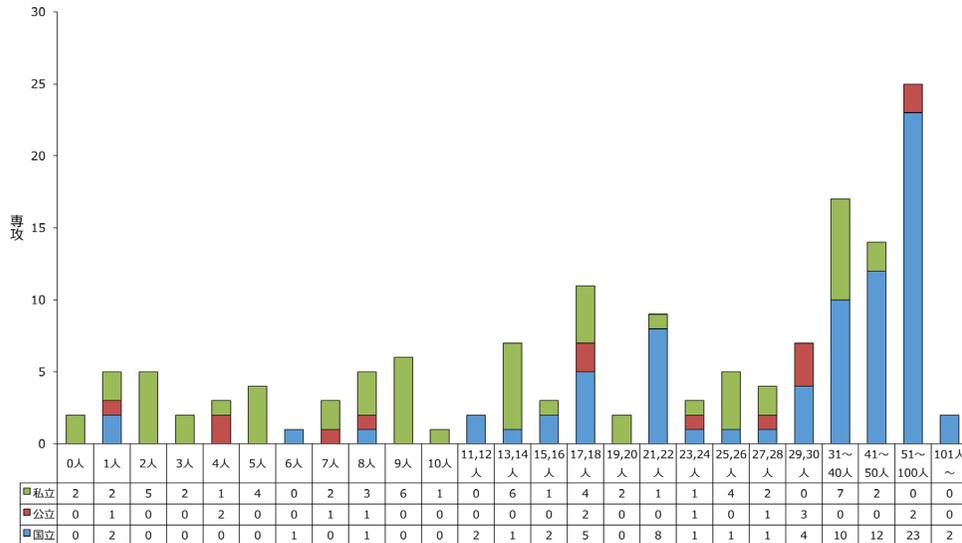
理学：205専攻（国立：79専攻、公立：20専攻、私立：106専攻）



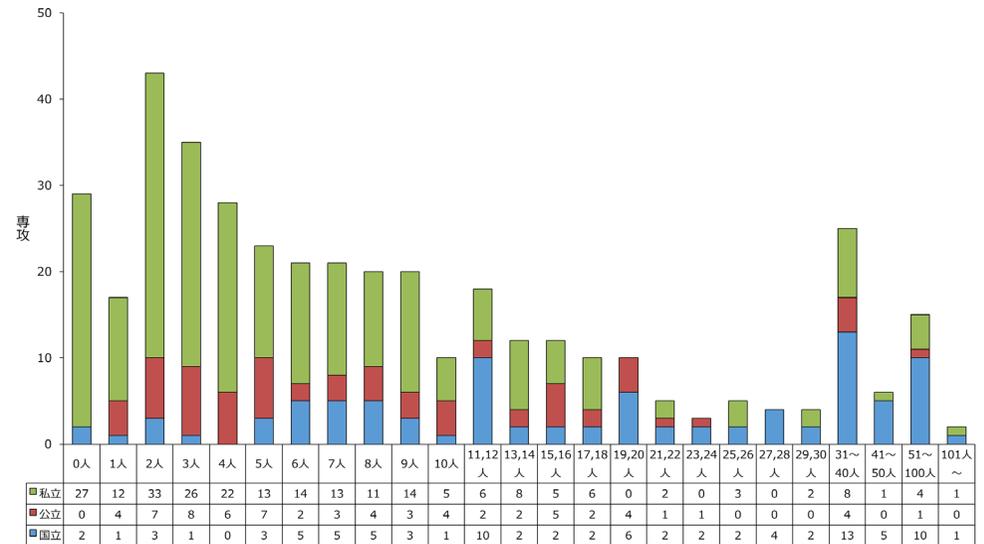
工学：664専攻（国立：257専攻、公立：51専攻、私立：356専攻）



農学：148専攻（国立：76専攻、公立：14専攻、私立：58専攻）



保健：398専攻（国立：92専攻、公立：70専攻、私立：236専攻）

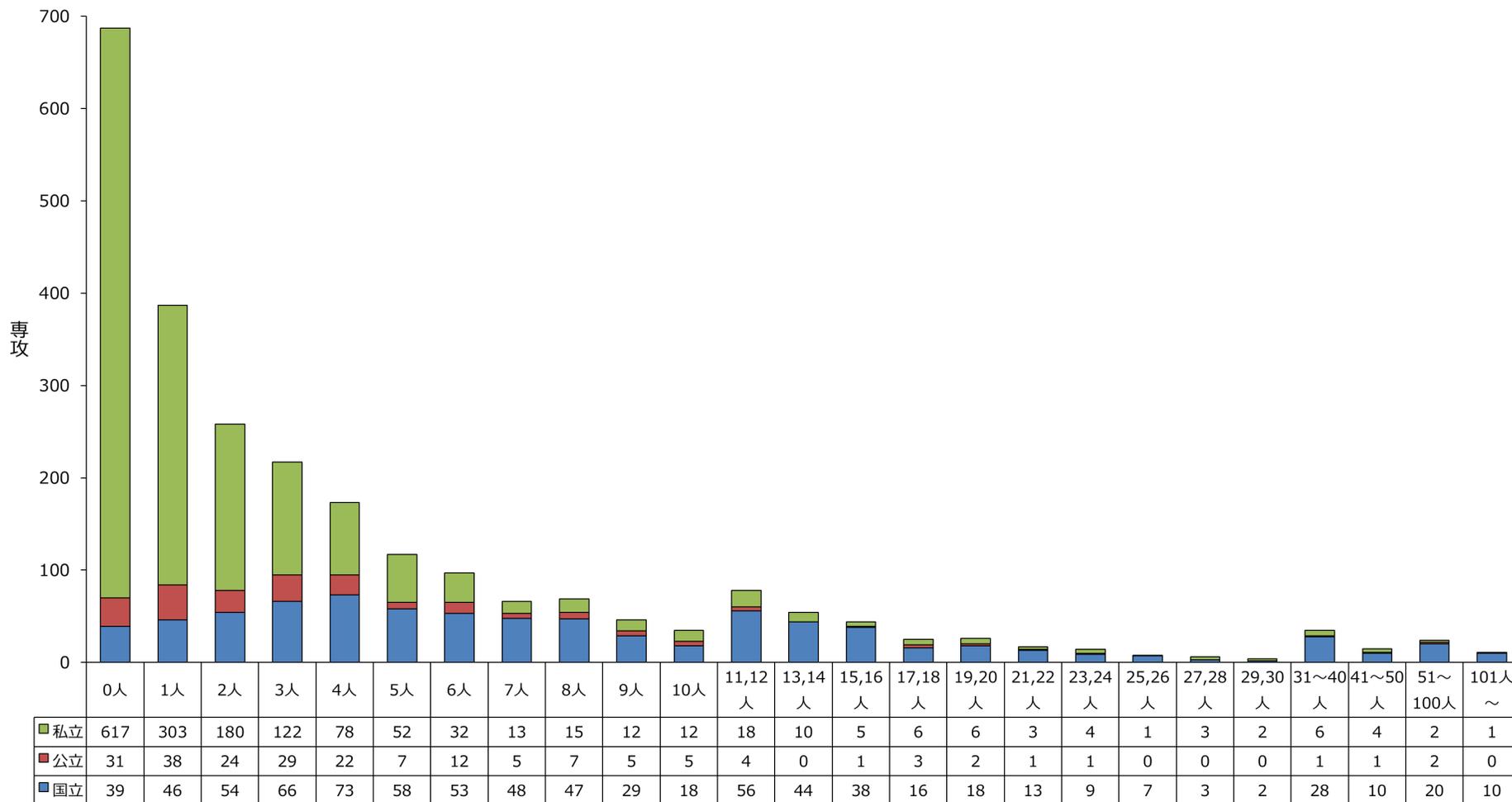


(注) 専攻・課程単位で調査

博士課程における専攻別入学者数の分布

- 調査に回答した総計2,513専攻のうち、私立は博士課程入学者数0人の割合が最も多く、1,507専攻中617専攻(40.9%)が0人と回答している。

全体：2,513専攻（国立：805専攻、公立：201専攻、私立：1,507専攻）

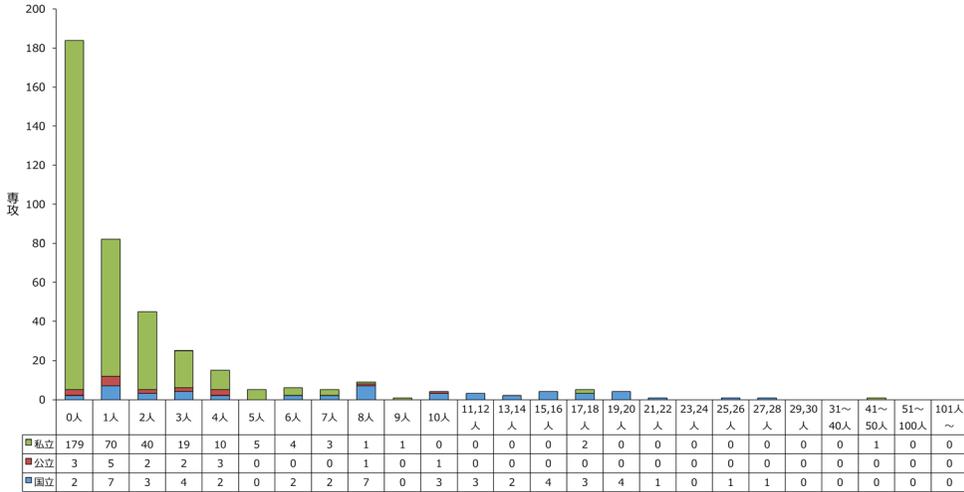


(注) 専攻・課程単位で調査

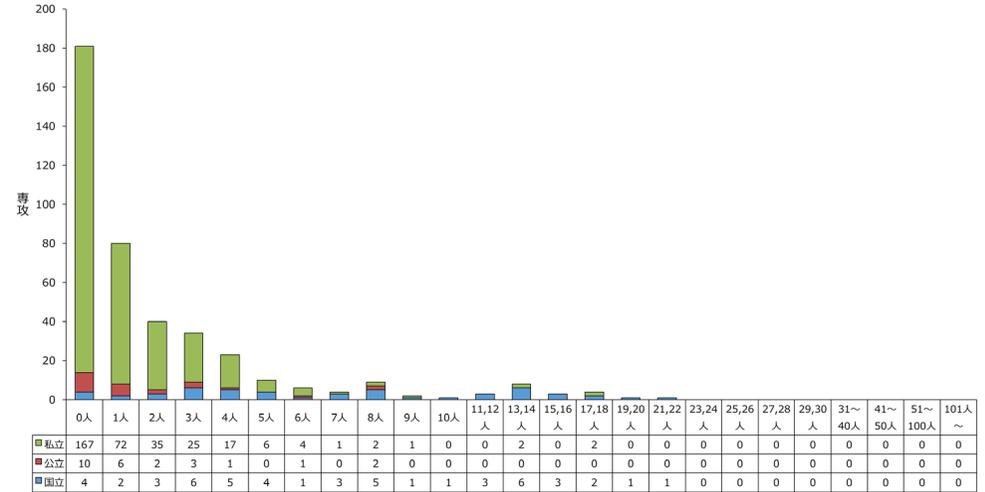
※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象

■ 博士課程における専攻別入学者数の分布（人文、社会、教育）

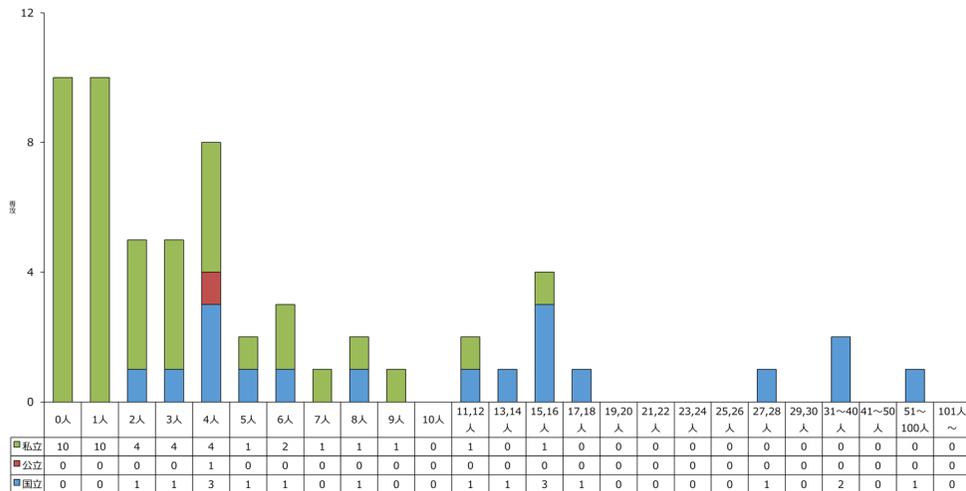
人文科学：403専攻（国立：51専攻、公立：17専攻、私立：335専攻）



社会科学：410専攻（国立：51専攻、公立：25専攻、私立：334専攻）



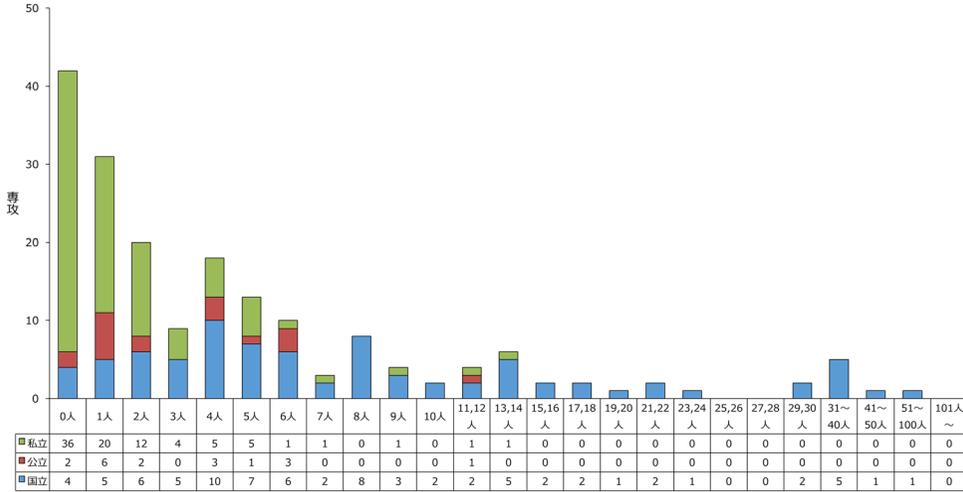
教育：59専攻（国立：18専攻、公立：1専攻、私立：40専攻）



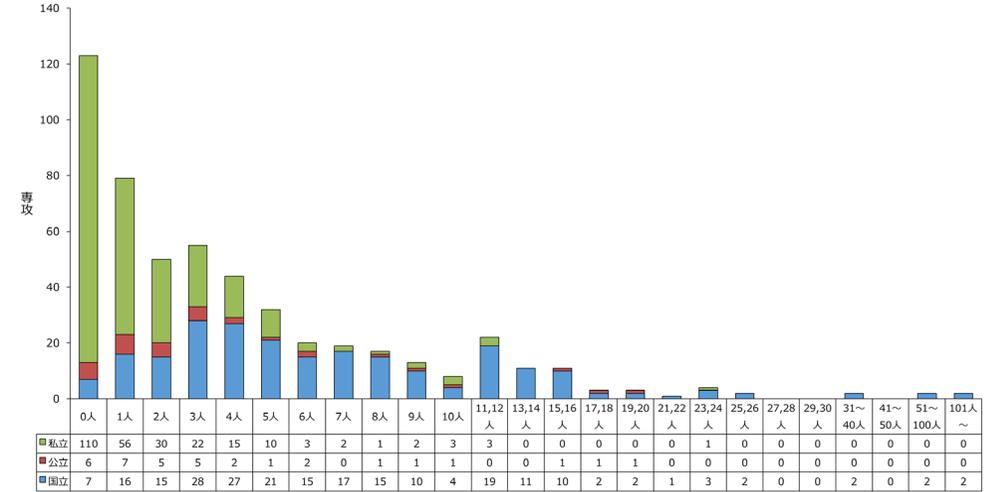
(注) 専攻・課程単位で調査

博士課程における専攻別入学者数の分布（理工農、保健）

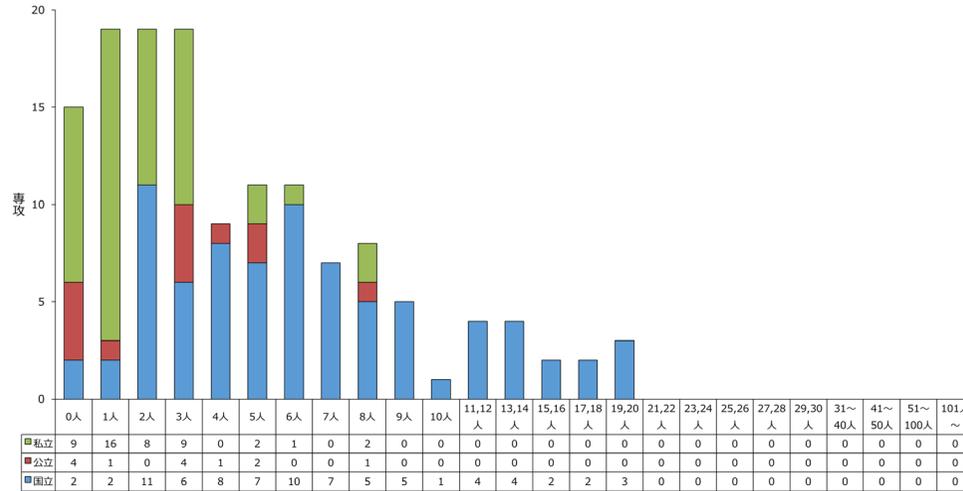
理学：187専攻（国立：82専攻、公立：18専攻、私立：87専攻）



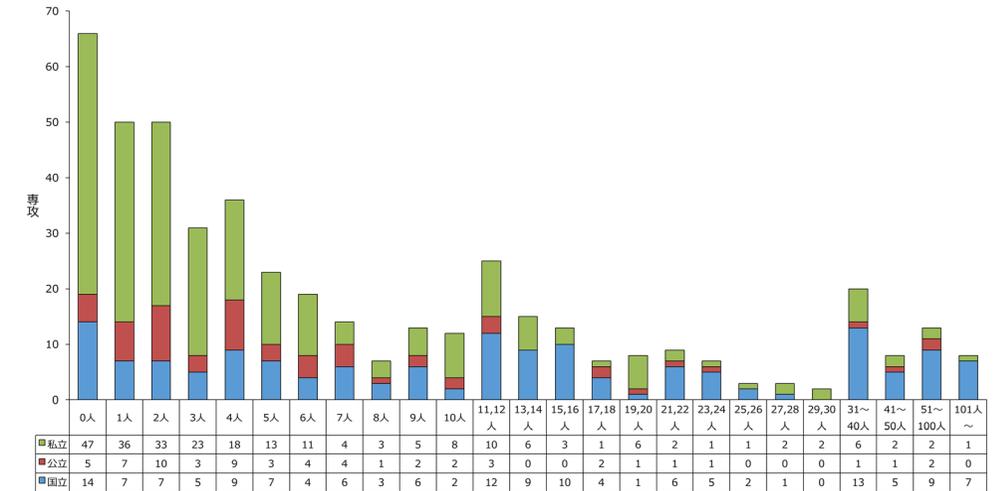
工学：523専攻（国立：231専攻、公立：34専攻、私立：258専攻）



農学：139専攻（国立：79専攻、公立：13専攻、私立：47専攻）



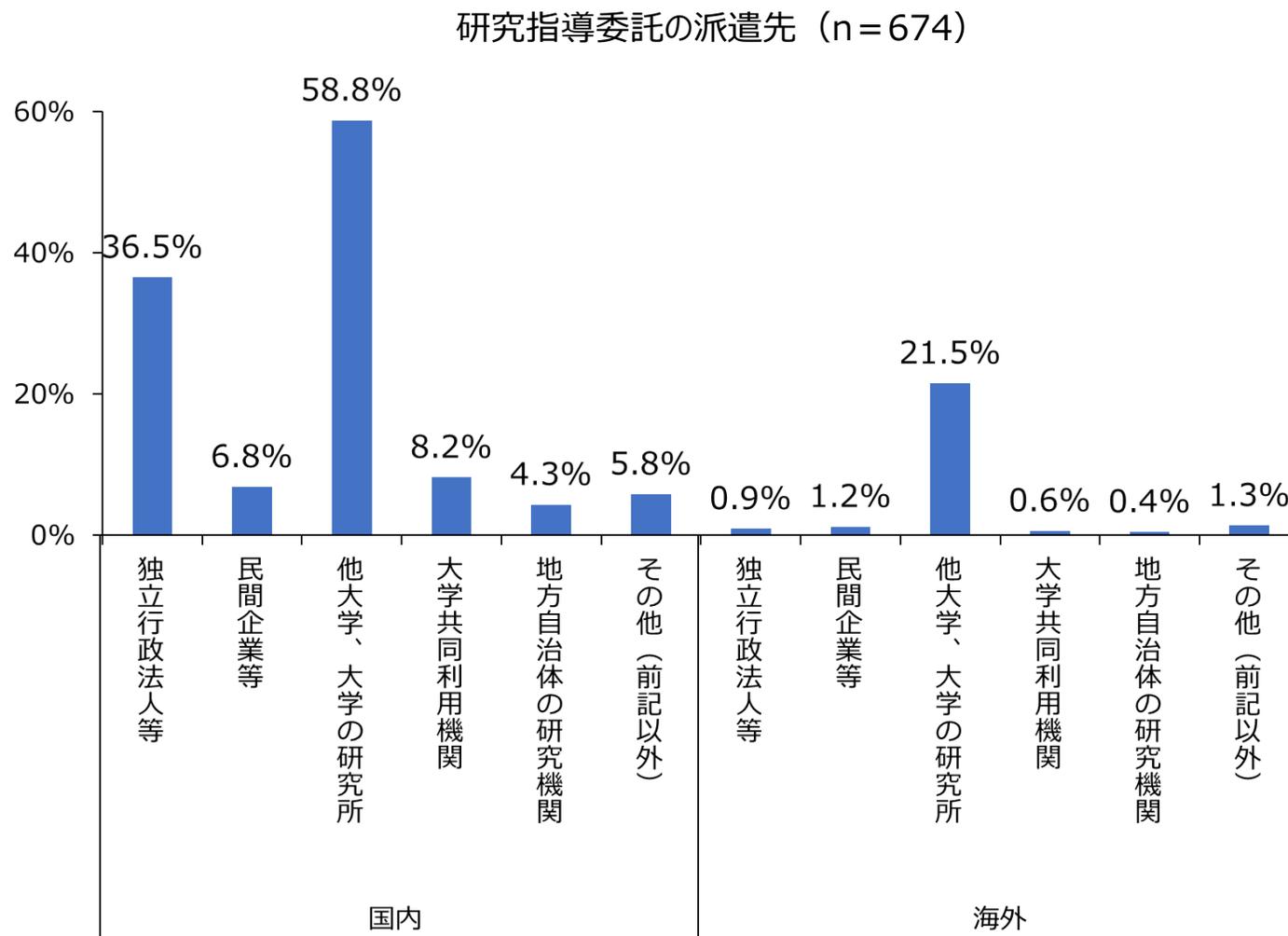
保健：462専攻（国立：154専攻、公立：62専攻、私立：246専攻）



(注) 専攻・課程単位で調査

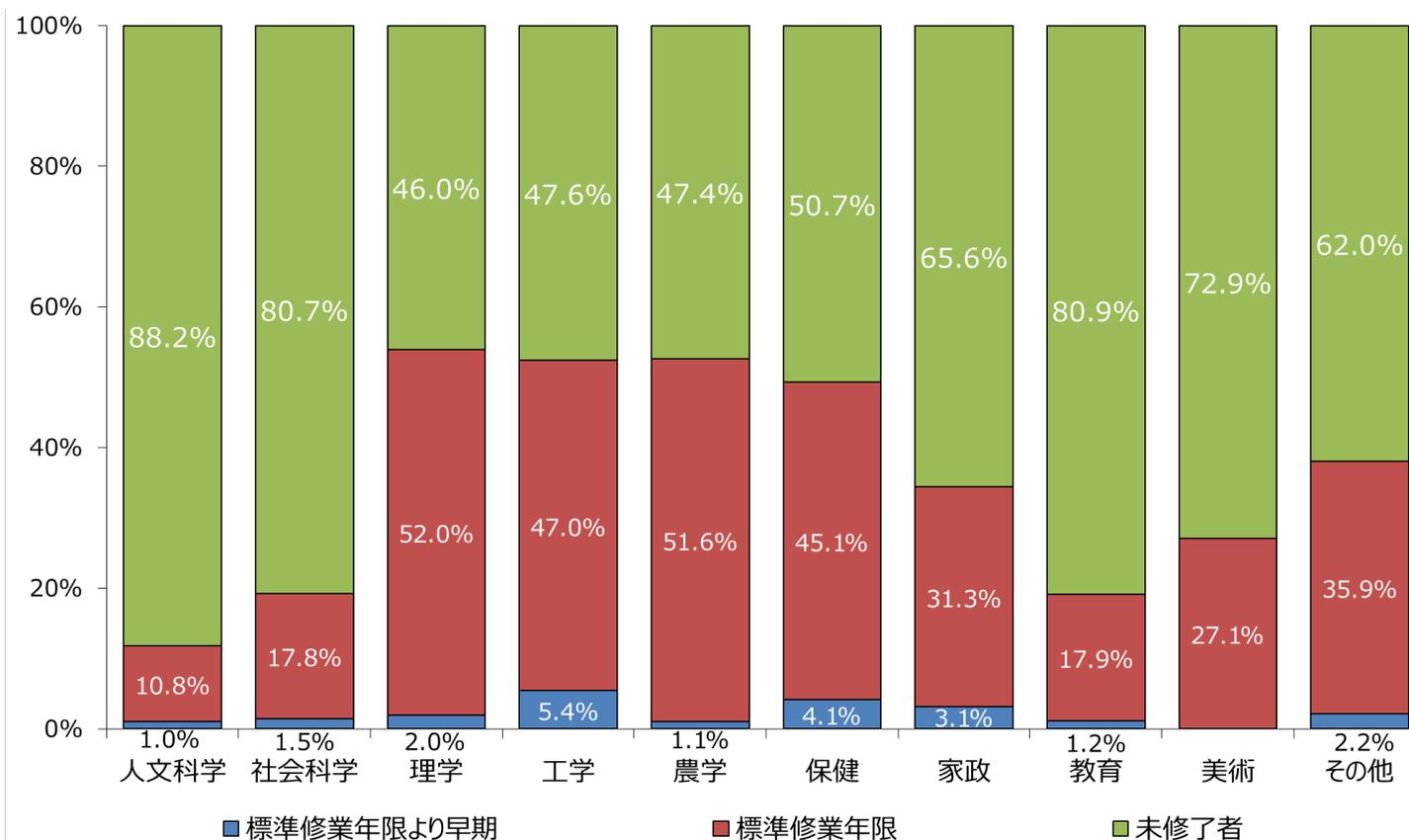
■ 研究指導委託の派遣先

- 研究指導委託の派遣先として、国内では「他大学、大学の研究所」「独立行政法人等」の割合が高く、海外では「他大学、大学の研究所」の割合が高い。



■ 標準修業年限以内に博士の学位を授与された者の割合「分野別」

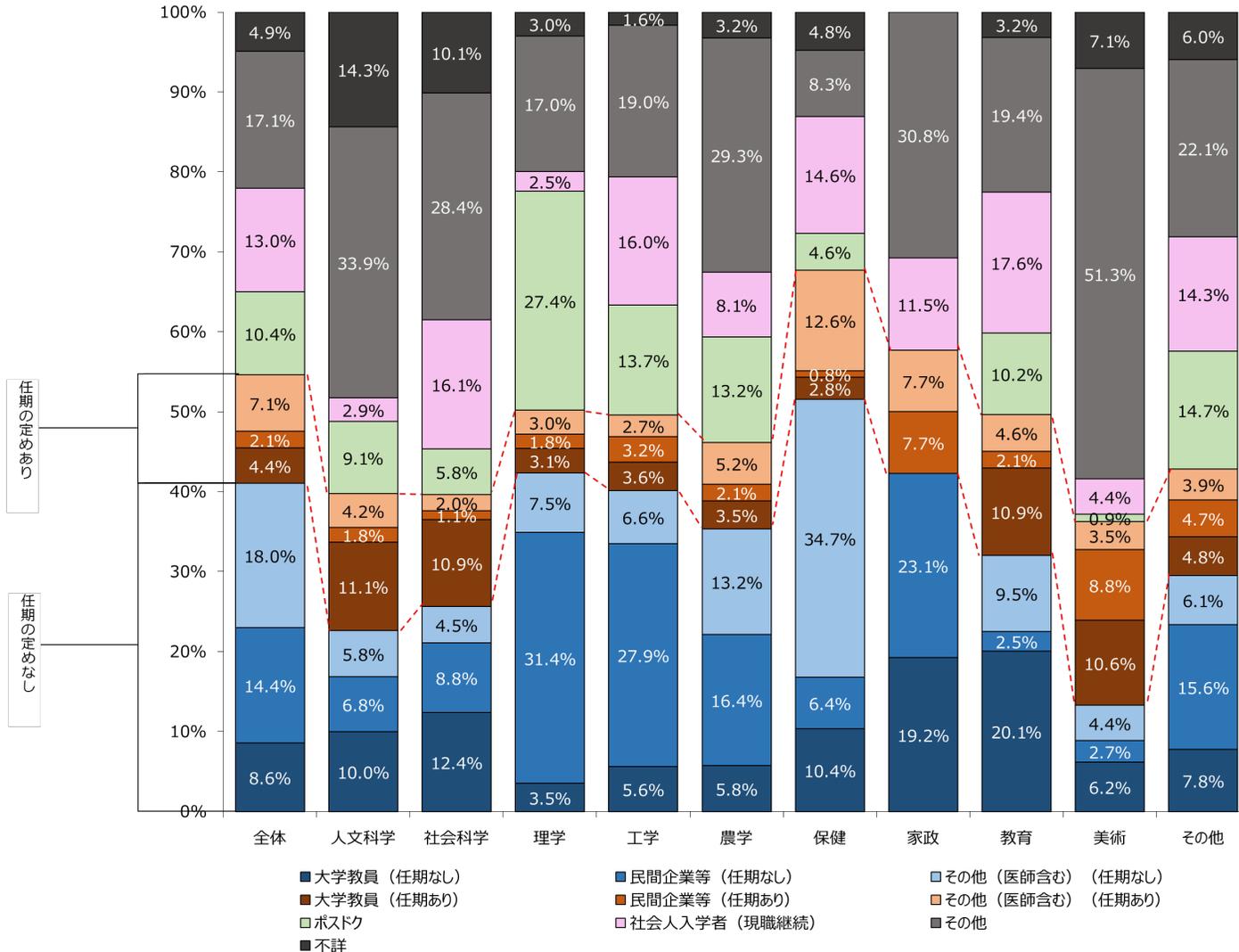
- 令和4年度が標準修業年限である者のうち、「理学」「工学」「農学」「保健」では、約5割が標準修業年限以内に学位を授与されている。



分野	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	美術	その他
割合	11.8%	19.3%	54.0%	52.4%	52.6%	49.3%	34.4%	19.1%	27.1%	38.0%

博士課程（後期）修了後の進路「分野別」

- 令和4年度の博士課程（後期）修了者全体（学位授与者、満期退学者いずれも含む）の進路をみると、「人文科学」「社会科学」「美術」では、任期の定めのない職に就いた者の割合が他分野と比較して低い。

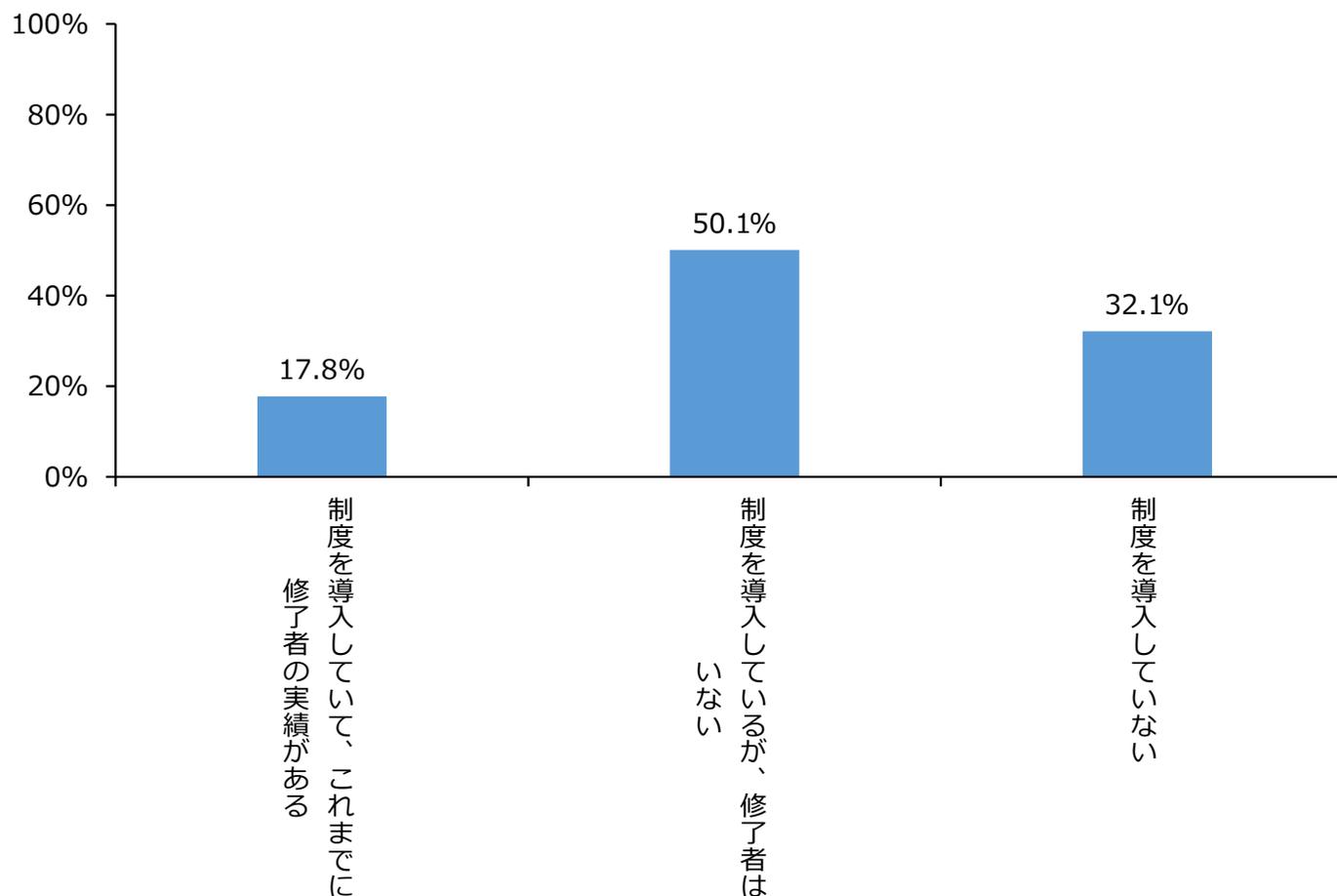


※「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象
 ※学位授与者、満期退学者いずれも含む

■ 早期修了制度活用状況

- 大学院設置基準第16条ただし書、第17条第1項ただし書、第3項ただし書に基づく優れた業績を上げた者を対象とした早期修了制度の導入状況は、「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」が18.1%、「制度を導入しているが、修了者はいない」が51.2%となっている。

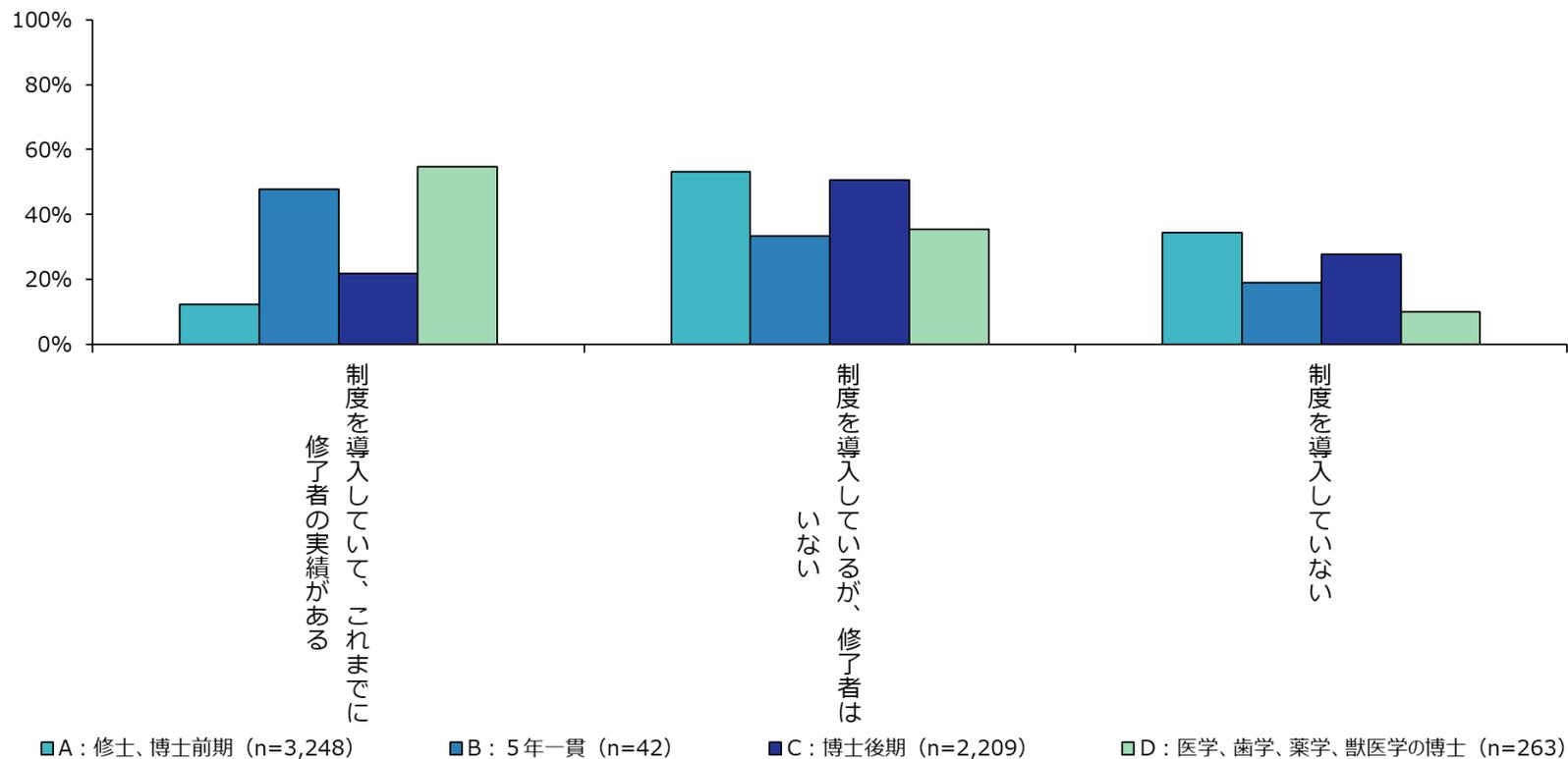
早期修了制度活用状況 (n=5,926)



※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象
※専門職大学院設置基準には早期修了の規定がない

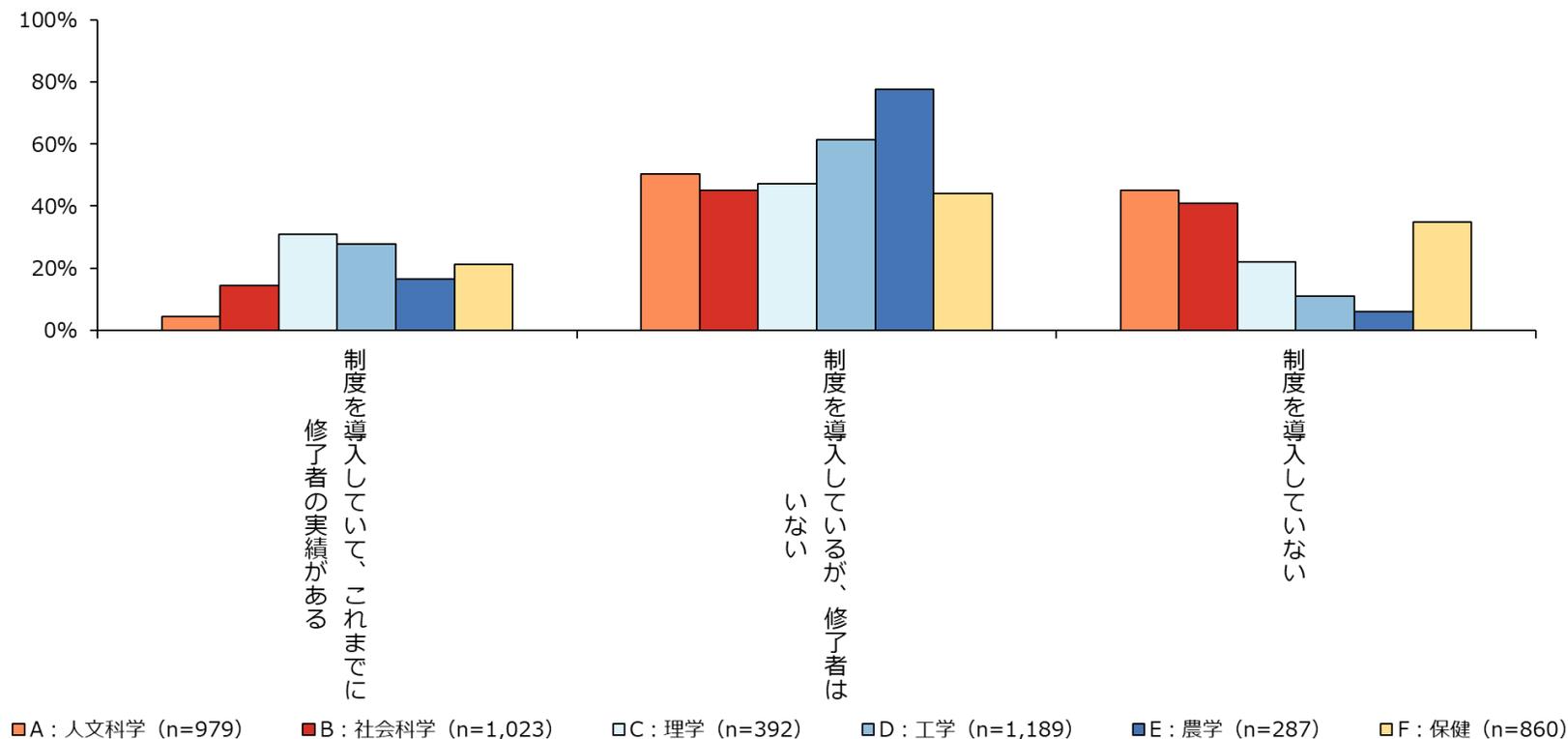
■ 早期修了制度活用状況「課程別」

- 「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」において、「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」の割合が他の課程と比較して高い。



■ 早期修了制度活用状況「分野別」

- 分野別の状況はグラフの通り。



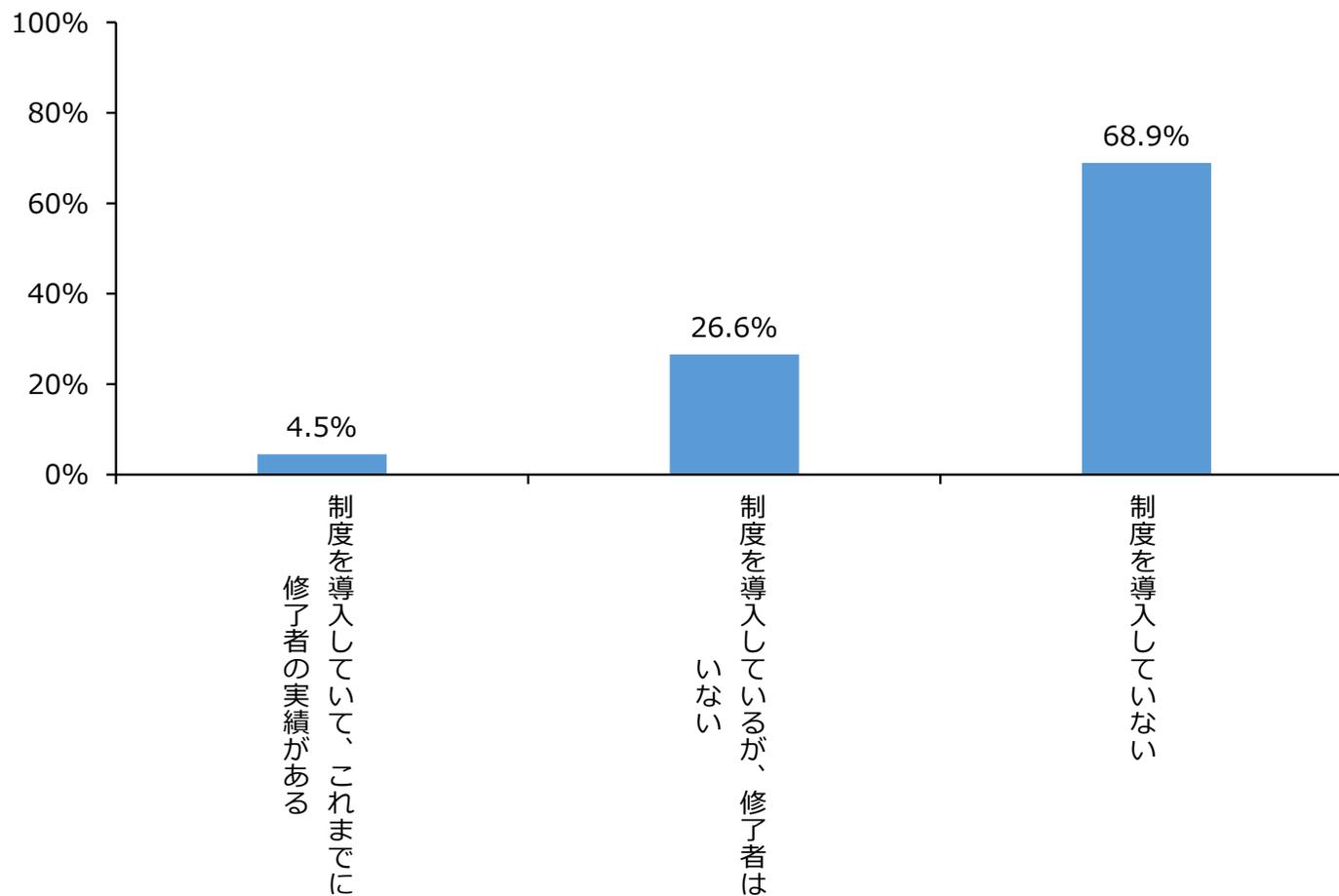
(注) 専攻・課程単位で調査

※「修士、博士前期」「5年一貫」「博士後期」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」の課程のみを対象
 ※専門職大学院設置基準には早期修了の規定がない

■ 在学期間の短縮制度の活用状況

- 大学院設置基準第18条、専門職大学院設置基準第16条、第24条、第30条に基づく、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮について、「制度を導入していない」の割合が63.9%と最も高い。

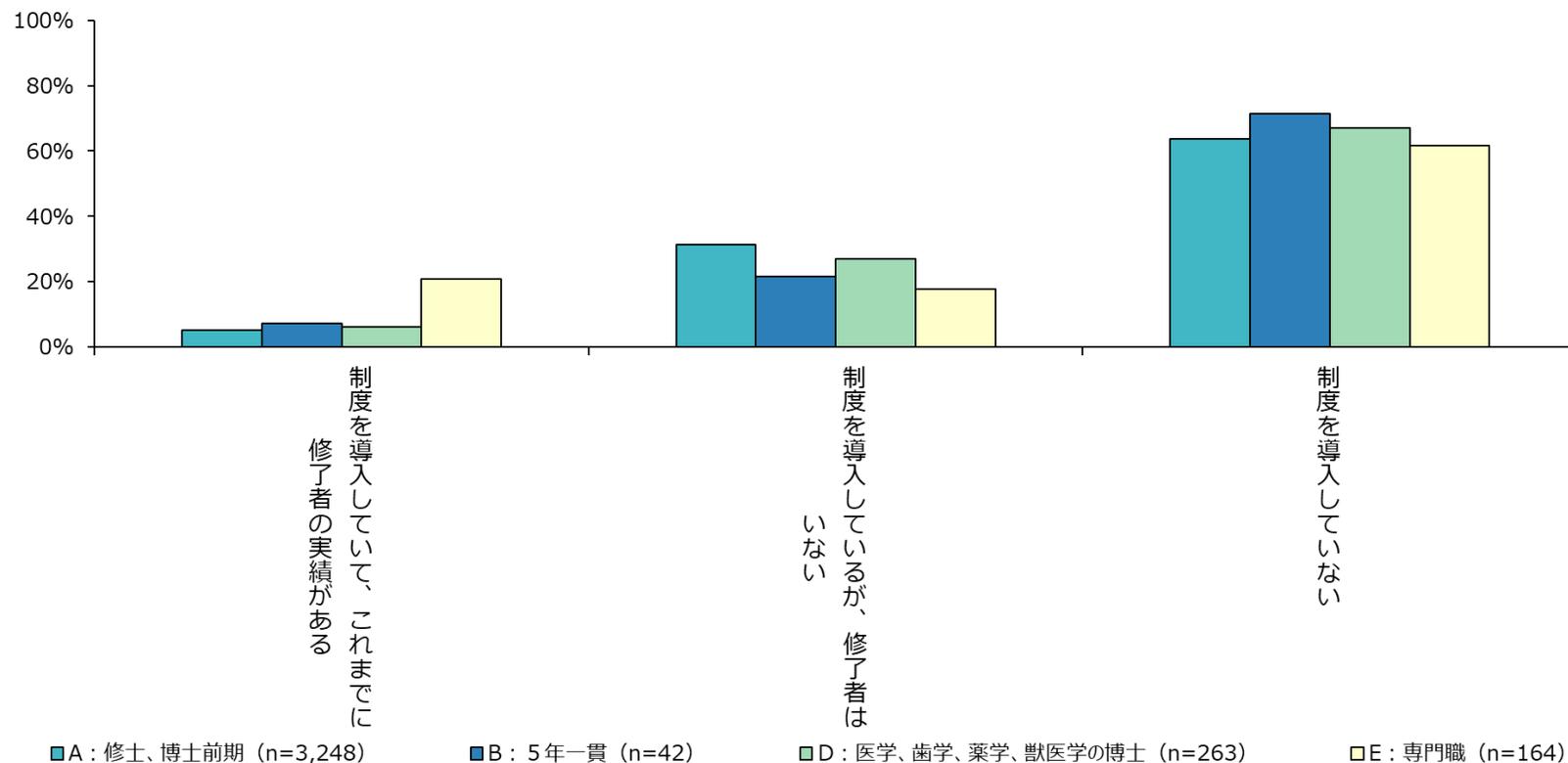
在学期間の短縮制度の活用状況 (n=5,926)



※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」の課程のみを対象
※博士後期課程は、大学院設置基準第18条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている

■ 在学期間の短縮制度の活用状況「課程別」

- 「専門職」において「制度を導入していて、これまでに修了者の実績がある」の割合が他の課程と比較して高い。

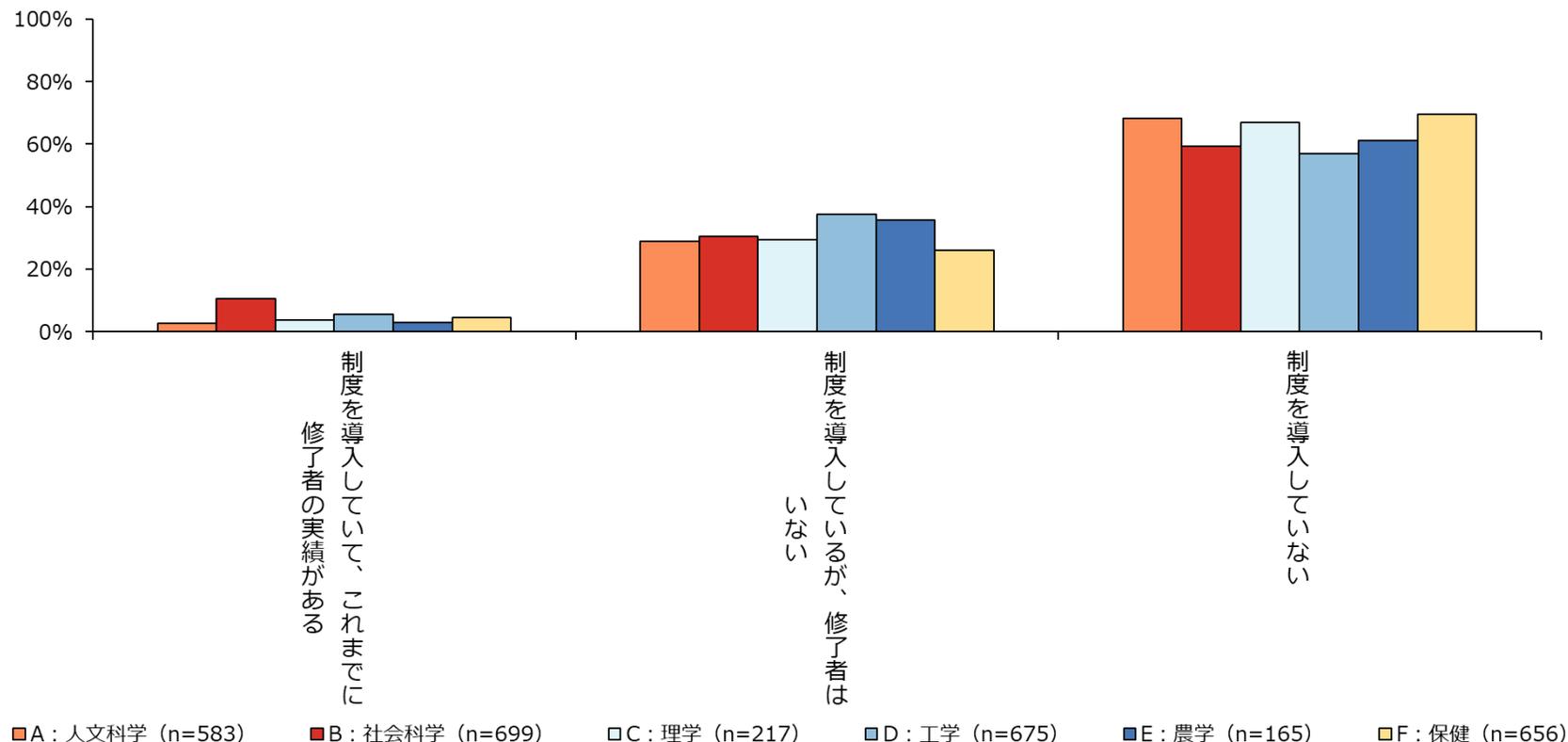


(注) 専攻・課程単位で調査

※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」の課程のみを対象
 ※博士後期課程は、大学院設置基準第18条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている

■ 在学期間の短縮制度の活用状況「分野別」

- 分野別の状況はグラフの通り。



(注) 専攻・課程単位で調査

※「修士、博士前期」「5年一貫」「医学、歯学、薬学、獣医学の博士」「専門職」の課程のみを対象
 ※博士後期課程は、大学院設置基準第18条に基づく在学期間の短縮の対象から除かれている